# 市内遺跡発掘調查報告書6

平成23年11月

白石市教育委員会 (宮城県)

## 例 言

- 1. 本書は、宮城県白石市教育委員会が平成22年度に実施した市内遺跡発掘調査事業にかかる調査結果報告である。なお、平成23年度事業の成果の一部も収録した。平成22度の事業は国庫補助事業で事業費2,003千円である。
- 2. 土層の色調表記については『新版標準土色帖』(小山・竹原、1996)を用いた。第1図は国土地理院2万5千分の1白石、白石東部、白石東南部、大河原を複製して使用した。第26図、第4章2の図1は大河原振興事務所提供である。第27図は太田昭夫氏提供である。その他、白石市土地情報提供GIS、事業主提供の測量図を用いた。
- 3. 検出遺構の略号は以下の通りである。
  - SI:竪穴住居跡 SD:溝跡 SK:土坑 P:柱穴(ピット)
- 4. 本事業の調査実施は白石市教育委員会生涯学習課日下和寿、櫻井和人が担当した。報告書本文執筆は日下が担当した。資料整理は岡部とき子、吉田佐智子、吉田真理子、村上昌雄、荒木とよ子、佐藤智子があたった。資料整理作業は資料整理室(白石市郡山字寿山5-3)で実施した。

第4章は株式会社加速器分析研究所、古代の森研究舎(吉川純子)が分析執筆した。

5. 発掘調査の実施、報告書作成にあたっては宮城県教育庁文化財保護課、大河原振興事務所、白石市文化財保護委員会をはじめとする次の機関・個人からご協力をいただいた。(敬称略)

縄文土器 千田和文、神原雄一郎(盛岡市遺跡の学び館)

相原淳一(東北歷史博物館)、押切智紀(山形県立博物館)

土師器、須恵器 石本 弘(白石市文化財保護委員)

中近世陶磁器 佐藤 洋(仙台市教育委員会)、藤沢敦、菅野智則

白石浩子(東北大学埋蔵文化財調査室)

写真撮影 君島武史(北上市立埋蔵文化財センター)

秋山駿、上西智樹、佐藤隆哉、柴田悠作、髙橋泉理(白石中学校職場体験学習)

松野彰悟 (東北学院大学インターンシップ)、各事業主、山崎広

- 6. 市内遺跡発掘調査報告書5の訂正、1頁11行目、ずみ→づみ、11頁7行目、昨年度末→一作年度末、18行目、この箇所は須恵器がやや多かった→削除、32頁 No39、址→跡、No50、新築県→新築兼、34頁 No90、弥柁内→弥陀内、37頁 No172、年年度→年度、No180、都山→郡山、39頁 No229、郡山字沢山→郡山字虎子沢山、40頁2行目、しょうご→しょご
- 7. 本事業の記録及び出土品は、白石市教育委員会生涯学習課が保管しており、依頼に応じて公開、貸出を行っている。

# 目 次

例言			1
		三度における埋蔵文化財調査概要	
第2章	白石市周	辺の埋蔵文化財	4
第3章	平成 22 年	E度における発掘調査結果	10
第4章	自然科学	分析	38
第5章	まとめ		43
引用参	考文献		43
写 真	図 版		45
抄	録		62

# 第1章 平成22年度における埋蔵文化財調査概要

平成22年度における確認調査等箇所は第1表にまとめた。今年度は発掘調査(事前調査)1件、確認調査16件、工事立会12件、試掘調査2件、慎重工事1件となっている。

農地転用、地下の埋蔵文化財に影響がある各種事業に関しては、事前に確認調査及び発掘調査を実施している。掘削深度が浅い等の理由で埋蔵文化財に影響が少ない、過去の工事によって埋蔵文化財が既に破壊された箇所と考えられた箇所については工事立会としている。

平成22年度の確認調査及び工事立会のうち、14件では遺構、遺物とも発見されなかった。遺構が確認された箇所は全て、遺構面に掘削が及ばない工事を実施することになっており、確認調査で終了となっている。また、地形的な特徴等をふまえ、埋蔵文化財が発見される可能性のある箇所においては任意の試掘調査を実施している。

志在家遺跡は工事立会を継続した。大畑遺跡地点①は昨年度の確認調査、今年度の工事立会結果を まとめて掲載した。砂押遺跡では遺跡範囲確認のための調査が実施された。中ノ在家遺跡は、市道拡 幅工事に伴い確認調査を実施し、遺構、遺物が確認されたことから、発掘調査を実施したものである(別 途報告済み)。

古くから市街地化された本郷遺跡は、これまで遺物、遺構分布は不明であったが、確認調査の結果、 JR白石駅西側地区でも土師器の出土が確認された。付近には古代の遺構が拡がっている可能性が高い。15番、29番の箇所では土師器が出土したものの、明確な遺構は確認されなかった。19番の大畑遺跡、24番の鴫内遺跡では表土から陶磁器が発見された。祢宜内遺跡では、貸家建築に伴う確認調査で土師器、陶磁器が出土した。隣接する箇所は3月に確認調査を実施したが、遺構、遺物とも確認されなかった。

矢ノロー里壇は、宮城県教育委員会による歴史の道調査事業時に、一里塚の存在が指摘されていたものである。今回、測量調査を実施した結果、一里塚と認定することができた。鷹巣古墳群(34号墳) 隣接地は古墳群に近く、墳丘が削平された古墳が所在する可能性があることから、事業主の協力を得て、 試掘調査を実施したものである。三部山遺跡では工事立会が実施された(第28図)。

片倉家御廟所は、片倉家によって平成20年度に石柵解体修理が行われたが、その際、埋蔵文化財の 出土が予想されたため、任意の工事立会を実施していた。その後、周囲に地形改変がみられ、廟所造 営に関わるものと考えられたことから、地形測量を実施し、埋蔵文化財としての保護を検討したもの である。

白石城跡周辺では県立高校統合に伴う工事立会、確認調査等が相次いだ。白石女子高校跡地は、絵図上では三の丸跡で重臣の屋敷地となっていたことから、遺構の有無を確認するための試掘調査を実施した。

馬牛沼遺跡は護岸等工事に先立ち、沼の水抜きが行われた際、沼底を踏査し、遺物を発見したものである。また、以前から沼底に埋没林があることが指摘されていたことから、試料採取を実施した。

遺跡地図整備では福岡深谷及び大鷹沢大町地区の訂正作業を継続した。市街地から離れた遺跡については、届出なしで土木工事が行われるケースがあることから随時、現地確認、遺物の表採を行った。新規登録遺跡は1件であった。

No.	遺跡名	遺跡番号	対応内容	所在地	調査原因	調査期間
1	地蔵院館跡	02172	工事立会	斎川字梶川61-1ほか	新幹線騒音対策工事	平成22年2月24日~4月7日
2	大畑遺跡	02262	工事立会	字東大畑88	宅地造成	平成22年4月13日
3	白石城跡	02197	工事立会	沢端町7-5地内	白石女子校校舎解体	平成22年4月15日~7月8日
4	三部山遺跡	02325	工事立会	福岡長袋字三部山4番8	土留工事	平成22年5月14日
5	矢ノ口一里壇	02247	確認調査	大鷹沢大町字矢ノ口	埋蔵文化財の有無確認	平成22年5月17日~27日
6	砂押遺跡	02397	確認調査	大鷹沢大町字佐野道152ほか	埋蔵文化財の有無確認	平成22年3月18日~5月17日
7	大畑遺跡	02262	確認調査	字大畑一番67-6	個人住宅建設	平成22年5月19日
8	片倉家御廟所		確認調査	福岡蔵本字愛宕山	測量調査	平成22年6月2日~3日
9	中ノ在家遺跡	02417	確認調査	越河平字中ノ在家	市道拡幅工事	平成22年6月1日~10月1日
10	中ノ在家遺跡	02417	発掘調査	越河平字中ノ在家	市道拡幅工事	平成22年6月7日~10日
11	堰下遺跡	02081	確認調査	福岡深谷字関下5-1ほか	個人住宅建設	平成22年6月18日
12	松田遺跡	02094	工事立会	福岡深谷字松田80-11	駐車場建設	平成22年6月22日
13	白石城跡、兀山遺跡	02197,02114	確認調査	益岡町55-15地内	白石高校連絡通路建設	平成22年7月6日~11月11日
14	祢宜内遺跡	02430	確認調査	字祢宜内55-5ほか	貸屋建築	平成22年8月3日~4日
15	本郷遺跡	02121	確認調査	字堂場前32番3ほか	個人住宅建設	平成22年8月20日
16	鷹巣古墳群 (34号墳)隣接地	02005	試掘調査	鷹巣字寺入屋敷82ほか	古墳の所在確認	平成22年8月20日
17	新館跡	02165	工事立会	新館町1-21ほか	法面崩壊対策工事	平成22年9月13日~10月7日
18	白石城三の丸跡	02448	試掘調査	沢端町7-5ほか	埋蔵文化財の有無確認	平成22年10月12日~19日、 平成23年3月7日~9日、7月19日~22日
19	大畑遺跡	02262	工事立会	字延命寺北71-1ほか	個人住宅建設	平成22年10月25日~26日
20	田手屋敷遺跡	02123	工事立会	緑が丘1-223	個人住宅建設	平成22年11月1日~2日
21	穴前遺跡	02279	確認調査	郡山字穴ノ前35	個人住宅建設	平成22年11月4日~平成23年1月6日
22	上久保遺跡	02378	確認調査	上久保3-34	個人住宅建設	平成22年11月10日
23	馬牛沼遺跡	02449	確認調査	斉川字馬牛	埋蔵文化財の有無確認	平成22年11月22日~29日
24	鴫内遺跡	02078	確認調査	福岡深谷字鴫内	個人住宅建設	平成22年11月22日~平成23年1月24日
25	大畑遺跡	02262	慎重工事	字寺屋敷前25-6	駐車場補修工事	平成22年11月25日
26	新館跡	02165	工事立会	南町24-1、24-18	貸家建築	平成22年11月30日~12月1日
27	三部山遺跡	02325	工事立会	福岡長袋字三部山22-5ほか	建売住宅建設	平成22年12月9日~継続中
28	大網遺跡	02051	確認調査	福岡八宮字大網前4-1	携帯電話基地局設置	平成23年2月16日
29	本郷遺跡	02121	確認調査	柳町16	園舎建設	平成23年2月7日
30	松田遺跡	02094	工事立会	福岡深谷字松田66-1	仮設資材置き場建設	平成23年2月23日~24日
31	祢宜内遺跡	02430	確認調査	字祢宜内56ほか	範囲確認調査	平成23年3月29日~30日
32	志在家遺跡	02359	工事立会	大鷹沢三沢字前輪18ほか	資材置場等建設	平成21年10月22日~継続中

第1表 平成22年度 埋蔵文化財調査一覧

平成23年3月11日午後2時46分発生の東日本大震災によって、太平洋沿岸の自治体は甚大な被害を受けた。これらと比較して内陸の白石市は被害が少なかったものの、市内遺跡調査事業は停止せざるをえなかった。遺物を保管していた倉庫は、幸い1月に瓦屋根からトタン葺きに更新したばかりで、被害から免れることができたものの、資料整理室主屋は本棚倒壊、土器の破損等の被害があった。

地震直後から文化財係員である日下、櫻井はそれぞれ、震災対応業務に従事した。生涯学習課が事務所を置く中央公民館は指定避難所であり、日下は避難所業務で夜勤、櫻井は地震翌日から給水車運転手となり、文化財業務が停滞した。しかしながら、3月下旬には2名とも文化財業務に時間を割くことができるようになった。

## 第2章 白石市周辺の埋蔵文化財

白石市では埋蔵文化財包蔵地として、404箇所が登録されている。周辺の埋蔵文化財の概要を説明する。

旧石器時代の遺跡は高野遺跡、戸谷沢遺跡、小菅遺跡等があるが(片倉ほか1976、佐久間2004)、何れも旧石器時代終末期に属するものである。現在のところ、確実な前期旧石器時代の遺物は確認されていない。

縄文時代草創期の遺跡については不明な点が多いが、断片的な資料がある。隣の七ヶ宿町小梁川東遺跡では微隆起線文土器が出土している(真山 1985、佐川ほか 2005)。白石市北部の福岡深谷の鴫内遺跡では爪形文の可能性がある土器が1点発見されている(第2図4)。この土器は故中橋彰吾文化財保護委員長が1969年に表採していたものである。採取地点が略図で残されていたことから、現在の鴫内遺跡と判断したものである。爪形文土器がまとまって出土している岩手県盛岡市大新町遺跡のものと比較すると(千田ほか 1987、神原 2009)、金色ウンモが胎土に含まれないこと、器壁が厚い点が相違点としてあげられる。胎土に繊維混入とは言えないものの、植物断片が含まれている点は共通している。また、山形県高畠町一ノ沢洞窟遺跡、日向第 I 洞窟遺跡(佐々木 1971)のものと比較すると共通点もあるが、相異点もある。これらの洞窟出土の爪形文にはかなりのバリエーションがある。

同じ深谷地区にある松田遺跡では縄文時代早期の竪穴住居跡が3棟、竪穴状遺構が2基発見され、押形文土器が出土している(丹羽1982、土岐山1982)。蔵王連峰東斜面には下川原子A遺跡(白石地域文化研究会1982)があり、一定範囲の分布が確認できる。

前期の遺跡は上高野遺跡(後藤 1984)、正人壇遺跡(片倉ほか 1976)があるが、、大木4式及び5式期の遺跡は少ない。中期になると遺跡数が増加し、七ヶ宿町小梁川遺跡(村田 1987、相原ほか 1986)では、ロングハウスを含む集落が発掘されている。遺物包含層からは大木6~8 b 式までの遺物が大量に出土している。同町大梁川遺跡では大木9~10 式期の復式炉を伴う良好な状態の住居跡が発掘されている(相原 1988)。中期末は菅生田遺跡で15 棟の集落跡が確認された(丹羽ほか 1982)。後期前葉頭は蔵王町二屋敷遺跡(加藤 1984)で大規模な包含層、配石遺構が発掘された。後期から晩期にかけては蔵王町山田沢、下別当遺跡で良好な遺物が発見されている(片倉ほか 1976)。

弥生時代の遺跡は青木遺跡、薬師堂遺跡が知られている(伊藤 1960、石川 2009、設楽 2008)。どちらも再葬墓と考えられているが、近年、蔵王町鍛冶沢遺跡で良好な遺構が確認された(千葉ほか2010)。弥生前期の再葬墓と縄文晩期の掘立柱建物跡群が発掘されている。和尚堂遺跡では弥生中期の管玉を伴う土坑墓 2 基、旧河道が発見され、市内では初めて、発掘調査において石庖丁、太型蛤刃石斧(第3図1)、板状石器が出土した(日下、櫻井ほか 2009)。石庖丁はこれまで、弥陀内遺跡資料(第2図3)を初めとする表採資料しか知られていなかった。また仙台平野以外において、石庖丁と板状石器がセットで確認された例として貴重である(佐藤 2010)。

古墳時代になると、遺跡は平野部周辺に多く立地するようになる。塩釜式期の竪穴住居跡は梅田遺跡で確認されている(遠藤、清野 1984)。鷹巣古墳群は前方後円墳と円墳から構成され、中期から後期にかけて造営される。12 号墳、18 号墳から発見された埴輪にはヨコハケが施文され、これに注目した



番号	遺跡名	種 別	時 代	番号	遺跡名	種 別	時 代
1	茶園遺跡	散布地	縄文前、平安	13	白石城三の丸跡	城館	近世
2	陣場山館跡	陣屋、城館	中世、近世	14	兀山遺跡	散布地、窯跡、城館	縄文中、古代、中世
3	八幡坂遺跡	窯跡	古代	15	弥陀内遺跡	散布地	弥生~平安
4	八幡坂西遺跡	散布地、陣屋跡	古代、近世	16	祢宜内遺跡	散布地	奈良、平安
5	前山遺跡	散布地、窯跡	古代	17	観音崎遺跡	集落	古墳後~平安
6	新館跡	城館	中世、近世	18	大畑遺跡	散布地、官衙	弥生~中世
7	白石会所跡	屋敷跡	近世	19	本郷遺跡	散布地	古代
8	中寺前遺跡	散布地	古代	20	梅田遺跡	集落	弥生、古墳
9	三部山遺跡	散布地	縄文早、前	21	鷹巣古墳群	前方後円墳、円墳	古墳、古代
10	田上遺跡	散布地	縄文前、中	22	谷津川遺跡	散布地	縄文~古代
11	菅生田遺跡	集落	縄文前~後、弥生	23	白石条里制跡推定地	水田跡	古代、中世
12	白石城跡	城館	近世	24	和尚堂遺跡	散布地	縄文後、古代

第1図 遺跡地図

研究がなされている(東影 2009)。横穴墓は郡山横穴墓群が知られ(中橋 1972)、昭和 45 年に測量調査が行われている。石製模造品は市内での出土例が少ないが、近年、和尚堂遺跡において発見されている。

奈良、平安時代になると全市的に遺跡数が増加する。特に9世紀代になると東北地方全体で、遺跡数、生産遺跡の増加が指摘されている(坂井2008)。市内でも9世紀代の遺跡数は増加する。最近になって会津若松市の大戸窯製品が市内で確認されるようになった(佐藤2011)。瓦窯跡は刈田郡衙跡と推定される大畑遺跡へ瓦を供給した兀山窯跡がある(片倉ほか1976)。ここから発見された瓦(第3図2、3、写真図版16-5、6)は福島県相馬市黒木田遺跡のものに類似しているとの指摘がある(佐々木ほか1985)。須恵器は八幡坂遺跡において生産が行われ(菅原ほか2009)、大畑遺跡への供給が行われている。平安時代末の12世紀代に関する遺物は、最近、わずかながら増加している。弥陀内遺跡、大畑遺跡(日下2008)で、発掘調査によって断片的な資料がみられた。斎川沿いの梅田遺跡でも1点出土している(第3図4)。

中世は城館と生産遺跡である窯跡が多い。城館は市内に 60 箇所確認されている(中橋 1987)。白川 大卒都婆の東北、一本杉窯跡では大規模な中世陶器窯跡が発掘されている(菊地 1996、藤沼 2010)。 13 世紀後半から 14 世紀前半にかけて操業されている。大甕、摺鉢、硯、五輪塔等を生産していた。北 条氏得宗領との関連が指摘されている(岡田 1994)。

近世は白石城跡があり、復元工事に先立つ発掘調査で、三階櫓跡、大手門跡、石垣等の遺構のほか、 大量の陶磁器、瓦片が発見されている。生産遺跡は鍋石窯跡、萩の坂窯跡、瓦焼き場窯跡(片倉 1976、 中橋ほか 1979、芹沢 1981、藤沼 1996、相原 2000)がある。

このように各時代に特徴的な遺跡が存在する白石市であるが、その保護調整は決して順調に推移したわけではなかった。昭和40年代後半から昭和50年代半ばまでは発掘調査、報告書刊行、各種保護周知施策が計画的に実施されたものの、その後、この動きは継続せず、平成14年頃まで埋蔵文化財行政全般は低迷した。

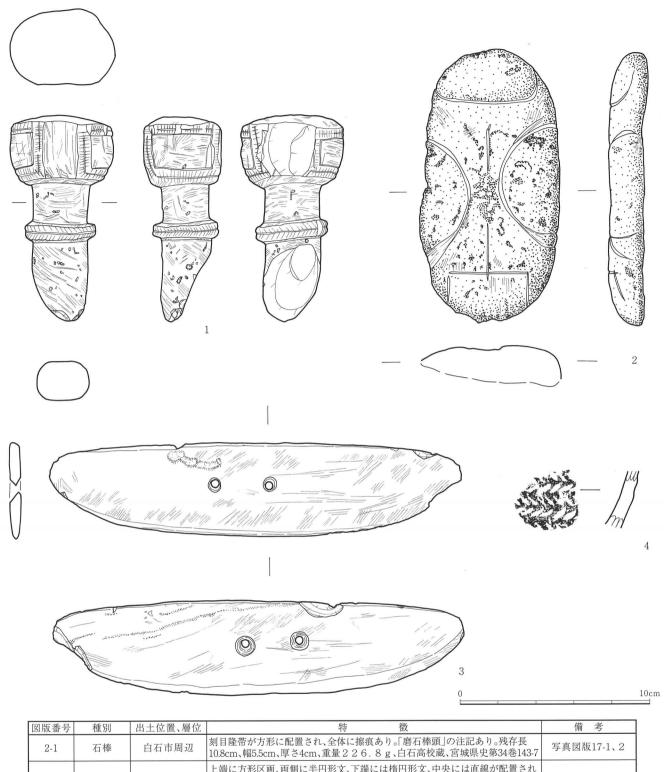
第2表には埋蔵文化財届出通知一覧を掲載した。この表からも分かるように個人住宅建設、公共事業に伴う届け出、通知が徹底されていなかった時代が長く続いていた。また、試掘確認調査経費についても、市による予算措置がだいぶ遅れ、事業主負担の時代が長く続いていた。国庫補助金(国宝重要文化財等保存整備費補助金)を継続的に交付を受けるようになったのは平成20年度からであった(第3表)。

第2表 埋蔵文化財届出等件数推移表

年度	西暦	92条	93条	94条	96条	97条	99条	合計
55	1980		3	6			3	12
56	1981		4	6			. 6	16
57	1982			2				2
58	1983		1				1	2
59	1984		1	1			2	4
60	1985		2	1			1	4
61	1986						4	4
62	1987		1				1	2
63	1988		0	0			0	0
1	1989		1				2	3
2	1990		1	1			3	5
3	1991			2		1	5	8
4	1992		4	5		2	9	20
5	1993		7	2			6	15
6	1994		14	7			10	31
7	1995		7	4			8	19
8	1996		6	5			11	22
9	1997		9	5				14
10	1998		8	6			2	16
11	1999		28	4				32
12	2000		14	7			8	29
13	2001		12	8			12	32
14	2002		19	3			17	39
15	2003		23	9			14	46
16	2004		22	10			11	43
17	2005		38	22		2	23	85
18	2006	1	36	14			7	58
19	2007		24	4		1	14	43
20	2008		23	5		1	13	42
21	2009		16	3		2	8	29
22	2010		17	4			12	33

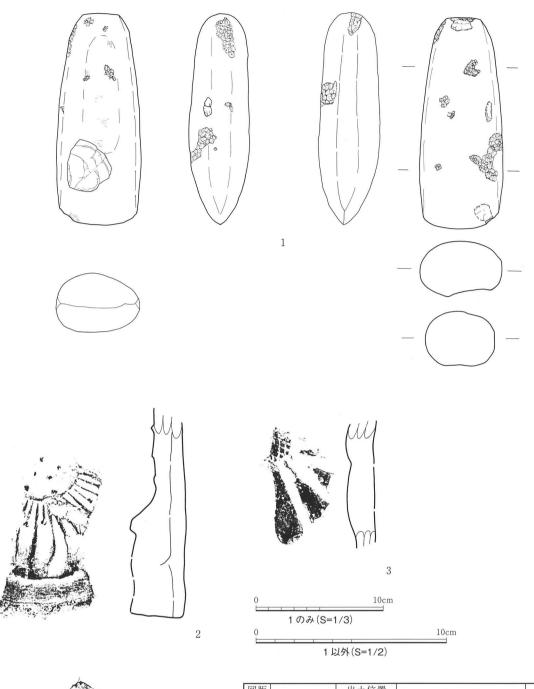
## 第3表 国宝重要文化財等保存整備費補助金実績一覧

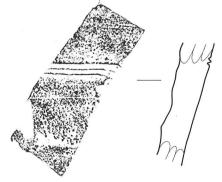
年度	西暦	事 業 名	事業総額		内 訳	
十尺	四個	ず 未 石	尹未恥領	国 庫	県補助	市町村負担
50	1975	伝統的建造物群保存地区対策調査と保存対策	1,600	800	400	400
52	1977	観音崎遺跡範囲確認調査	4,000	2,000	1,000	1,000
55	1980	谷津川遺跡他発掘調査	2,000	1,000	500	500
5	1993	小原のヒダリマキガヤ樹勢回復	2,774	1,385	692	697
16	2004	市内遺跡発掘調査等	1,048	524	209	315
20	2008	市内遺跡発掘調査等	2,038	1,000	0	1,038
21	2009	市内遺跡発掘調査等	2,003	1,000	0	1,003
22	2010	市内遺跡発掘調査等	2,003	1,000	0	1,003



図版番号	種別	出土位置、層位	特	備考
2-1	石棒	白石市周辺	刻目隆帯が方形に配置され、全体に擦痕あり。「磨石棒頭」の注記あり。残存長 10.8cm、幅5.5cm、厚さ4cm、重量226.8g、白石高校蔵、宮城県史第34巻143-7	写真図版17-1、2
2-2	岩版	白石市周辺	上端に方形区画、両側に半円形文、下端には楕円形文、中央には直線が配置されている。細かい擦痕あり、反対面は欠損、長さ14.4cm、最大幅7.3cm、厚さ3cm、重量273.9g、白石高校蔵、宮城県史第34巻140-1	写真図版17-3
2-3	石庖丁	弥陀内遺跡	全体に擦痕、一部に欠損あり、紐孔は両方向からあけられている。紐孔には孔ズレが著しい。長さ21.6cm、最大幅4.9cm、最大厚0.8cm、重量128.3g、「郡山□□地下三尺□□義雄」の墨書、宮城県史第34巻183-1	写真図版17-6、7
2-4	縄文土器	鴫内遺跡、表採	1969年に中橋彰吾表採。爪形文が5段にわたり、交互に施文されている。色調は茶褐色である。内面はナデ、黒褐色である。石英等を比較的多く含む。胎土は緻密である。	写真図版17-4

第2図 市内遺跡出土資料(1)

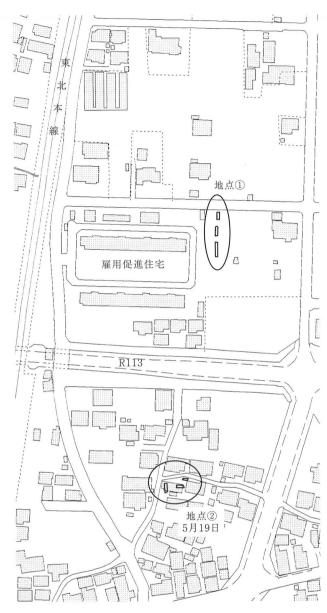




図版 番号	種別	出土位置 層位	特 徴	備考
3-1	太型蛤刃石斧	和尚堂遺跡、 J13区、9層	長さ16.8cm、最大幅6.6cm、最大厚4.8cm、重量825.3g、報告書第38図2	
3-2	軒丸瓦	兀山遺跡、 表採	花弁、表面は灰褐色、断面からみえる内部は赤褐色である。白石市史考古資料篇 117-1	写真図版 16-6
3-3	軒丸瓦	兀山遺跡、 表採	花弁、表面は黒褐色、胎土は 灰色、白石市史考古資料篇 117-2	写真図版 17-8
3-4	中世陶器	梅田遺跡、 CG~7、3層	断面 V 字の沈線 2 本、内面は ヨコナデ、凹凸あり。常滑? 壺、12 世紀代	写真図版 17-5

第3図 市内遺跡出土資料(2)

# 第3章 平成22年度における発掘調査結果



第4図 大畑遺跡調査区位置図

遺構が発見された調査を中心に、平成23年度 調査結果の一部も掲載した。なお、中近世陶磁 器の詳細は原則として一覧表に一括掲載、当該 遺跡及び分布調査の関連資料も掲載した。

## 1 大畑遺跡

## 地 点 ①

県遺跡番号 02262

遺跡略号 OH

所 在 地 白石市字東大畑 88番

調查要因 宅地造成

調査期日 平成22年3月8日~4月13日

調 査 面 積 1,261㎡ (掘削面積 24.24㎡)

大畑遺跡は古代刈田郡衙跡と考えられる遺跡で、これまで国道建設に伴う発掘調査、個人住宅建設に伴う確認調査が実施されている。

今回の箇所はJR東日本東北本線白石駅から 北東へ約0.6kmの箇所にあり、現況は水田である。

今回、宅地造成に伴う確認調査、工事立会を 実施した。この箇所は平成3年頃にも確認調査 が実施されている箇所である。この時の調査で は礎石建物跡、掘建柱建物跡、溝跡、土師器、 須恵器、瓦等が出土した。

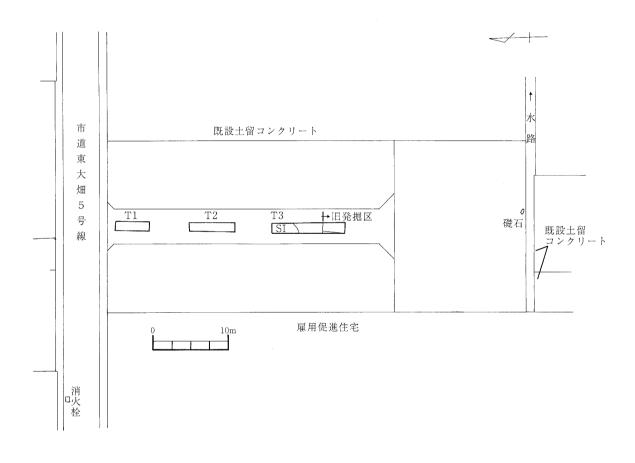
前回の発掘調査結果を踏まえ、事業予定地中 央に設置される道路敷に確認調査トレンチ3カ

所を設定した。トレンチ1、2(T1、2)の第1~3層で土師器等が出土したが、遺構は確認されなかった。トレンチ3では、竪穴住居跡1棟と前回の発掘調査区が確認された。住居跡からは多量の土師器、少量の須恵器が出土した。土師器には坏、高坏があり、栗囲式~国分寺下層式と考えられる。また、基本層位3層からは瓦が出土した。竪穴住居跡は3層上面で確認された。埋土は10YR4/1褐灰色粘土質シルト、5cm以上で炭化物を多く含んでいた。T3の前回発掘区北壁断面における基本層位は次のとおりである。第1層、10YR6/1褐灰色粘土質シルト、水田耕作土、15cm、第2層、10YR6/8明黄褐色粘土、水田床土、17cm、第3層、10YR6/3にぶい黄橙色シルト、20cm、第4層、10YR4/1褐灰色粘土質シルト、21cmであった。前回発掘区の最終発掘面には2~5cmの山砂が敷かれていた。

事業地南端の掘削を伴う土留め箇所の工事立ち会いを実施した。掘削箇所中央の土層は次のとおりである。第1層、水田耕作土、青灰色、35cm、第2層、水田耕作土、茶褐色土、8cm、第3層、黄褐色山砂、5cm、第4層、暗褐色シルト、18cm以上であった。第3層は以前の発掘調査時の埋め戻しの山砂と思われる。北壁では約6.4mほどの長さが確認された。

礎石建物の礎石1個が発見された。掘削箇所の中央(事業用地南東隅から8.8mの箇所で石の東端)で東西80cm、南北54cmほどの大きさであった。南東に接して3つの石が密着していた。礎石上面は、コンクリート水路上端から46cmほど下で発見された。礎石から西の箇所で、瓦片、掘削土から陶磁器片を発見した。

また、大畑遺跡周辺の土地区画整理事業は昭和56年から実施されているが、事業完了前と直後の風景写真が教育委員会に残されており(『大畑遺跡現状写真集』)、一部を掲載した(写真図版7-1~4)。この区画整理に伴う昭和57年3月の確認調査写真を参考として掲載した(写真図版7-5~7)。



第5図 大畑遺跡地点① 調査区位置図



第6図 矢ノロー里壇位置図 (1/25,000)

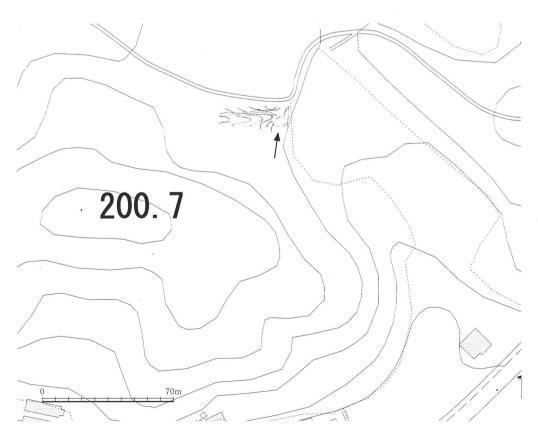
# 2 矢ノロー里壇

県遺跡番号 02247

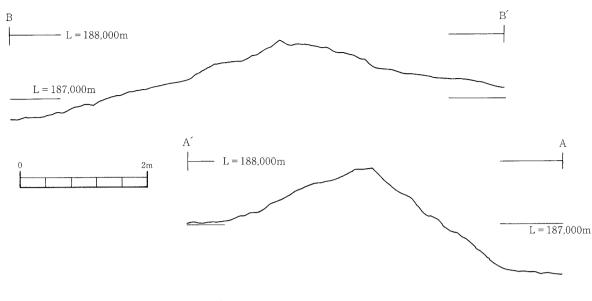
所 在 地 白石市大鷹沢大町字矢ノ口

調査対象面積 624m²

調査期日 平成22年5月17日~5月27日 矢ノロー里壇は、東北新幹線白石蔵王駅から東へ 4.8kmの山地にあり、現況は、杉林と草地である。 この一里塚は、宮城県教育委員会による歴史の道調 査事業(風間1981)の時に存在が知られていたもの で、白石と角田間の街道にある。今回、測量調査を 実施し、埋蔵文化財としての保護措置を検討した。 歴史の道調査事業時に確認されていた塚と落雷で焼けた老松切株の現存を確認できた。調査結果を受け、 遺跡登録を行っている。



第7図 矢ノロー里壇位置図



第8図 エレベーション図

塚の平面形は円形ではなく、長楕円形である。東西8m、南北5mの規模で、高さは道路底面から1.6mである。裾部南側一部に地形改変がある。現存する他の一里塚と比較すると規模が小さい。道路跡は幅4m、長さ38mほど確認されたが、更に西側の藪中に続くようである。反対側の塚は確認できなかった。

林道を挟んで、塚の北側にある碑には次のように記されている。「馬頭観世音 寛政六年甲寅 三月 十七日 □□丹□」とあり、赤彩されている。高さは68cm であった。西暦 1794 年のものである。

第9図 矢ノロー里壇と周辺地形図

#### 3 堰下遺跡

県遺跡番号 02081

所 在 地 白石市福岡深谷字関下 5-1、5-6

遺跡略号 セキ下

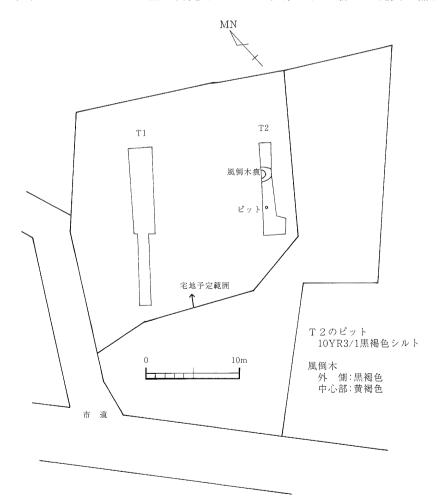
調査要因 個人住宅建設

調査期日 平成22年6月18日

調 査 面 積 520㎡ (掘削面積 45.45㎡)

今回の箇所はJR東日本東北本線白石駅から北へ約5.1kmの緩やかな丘陵上にあり、現況は畑地である。堰下遺跡は縄文及び古代の遺跡として登録されている遺跡であり、地表には多くの剥片、土器片が散布していた。個人住宅建設にあたり、耕作物を避け、確認調査トレンチ2箇所を設定した。

T1の基本層位は次のとおりである。第1層、表土、10YR6/3にぶい黄橙色シルト、層厚 20cm、土師器、ビニール片を含む、第2層、10YR7/8 黄橙色粘土質シルト、直径 70cm 以上の礫を含む、40cm 以上であった。T2は第1層、表土、10YR4/1 褐灰色シルト、縄文土器を含む、26cm、第2層、10YR3/1 黒褐色シルト、33cm、第3層、10YR8/3 浅黄橙色シルト、5cm 以上であった。時期不明の直径 15cm のピット 1 基が発見されている。第1、2層から縄文土器、土師器が少量出土した。また



第10図 堰下遺跡トレンチ配置図

第3層上面で風倒木痕1基を確認した。堆積土から縄文土器、剥片が出土した。トレンチ中央において、小礫が多い箇所があった。事業地の西側は以前の農地整備で削平を受け、東側は盛り土された箇所であると考えられた。

#### 4 白石城跡

県遺跡番号 02197

遺跡略号 SJ

所 在 地 白石市益岡町 55-15 地内

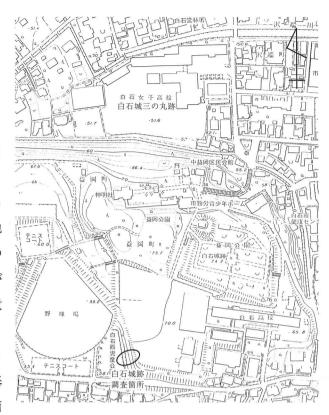
調 査 要 因 連絡通路建設

調査期日 平成22年7月6日~11月11日

調 査 面 積 80㎡ (掘削面積 12.48㎡)

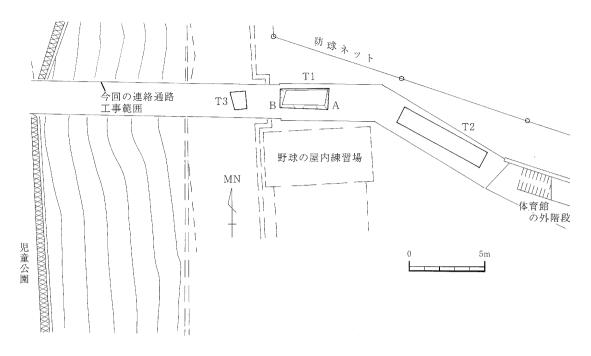
今回の箇所はJR東日本東北本線白石駅から 西へ約0.9kmの丘陵上にあり、現況は学校用地 (グランド)である。白石城跡は中世から近世の 城郭跡で、これまで城復元に伴う発掘調査等が 実施されていた。今回の事業地の一部は兀山遺 跡にも該当している。

今回、連絡通路の橋脚基礎が設置されることから確認調査を実施した。調査は室内練習場基礎、雑物を避けながら行った。トレンチは3箇所設定した。T1では近代以降の整地、盛土層

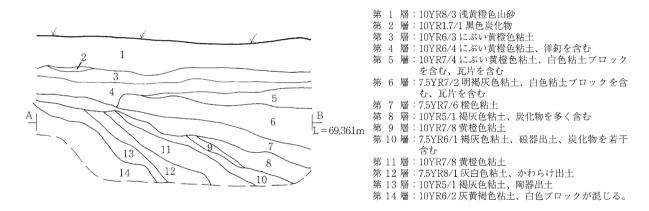


第 11 図 白石城跡位置図

が確認された。地層は東側から西側へ傾斜していた。陶磁器、瓦片が 5、6 層、10、12、13 層から出土した。柱穴等は確認されなかった。4 層からは洋釘 1 本が発見された。第 6 層以下が西へ傾斜しているが、白石城築城にかかるものではない。確認調査後、工事立会において、鉛製の小柄 1 点が発見されている。T2 では黄橙色山砂が堆積していた。T3 は白石城中ノ丸跡の土塁裾部である。第 1 層、10YR5/2 灰黄褐色土、山砂を所々に含んでいた、30cm、第 2 層、10YR6/8 明黄褐色粘土、盛り土層である。白色、黄色ブロックが多く混じる、20cm 以上である。遺物は出土しなかった。その他の工事立会箇所では、遺構、遺物は確認されなかった。



第 12 図 白石城跡地点① 確認調査トレンチ配置図



第 13 図 T1 南壁セクション

#### 5 白石城三の丸跡

県遺跡番号 02448

遺跡略号 SJ

所 在 地 白石市沢端町 7-5 地内

調査要因 グランド整備工事

調 査 期 日 平成 22 年 10 月 12 日~ 19 日、平成 23 年 3 月 7 日~ 9 日、7 月 19 日~ 22 日

調 査 面 積 13,187㎡ (掘削面積 858.79㎡)

今回の箇所はJR 東日本東北本線白石駅から北西へ約0.9kmの段丘上にあり、現況は学校跡地である。 白石城跡は中世から近世の城郭跡で、これまで城復元に伴う発掘調査等が実施されていた。県指定文 化財の片倉家中武家屋敷旧小関家は、今回の箇所の北側に所在している。 安政年間の白石城下絵図では、今回の箇所は白石城三ノ丸に該当し、禄高の高い家臣団の屋敷地、 馬場等になっている。

今回、グランド造成工事に先立ち、埋蔵文化財の有無を確認するため、調査を実施した。トレンチは合計 22 箇所設定した。その結果、過去に校舎等が建っていた箇所は、過去の掘削により遺構は破壊されていることが判明した。一方、グランドとして使用されていた箇所は遺構、遺物が確認された。T12、13、18、19、20、21、22 ではピット、土坑、溝、陶磁器、瓦片、金属製品が発見された。T5、8、10、11、14、15 などで近世陶磁器が発見された。

安政年間絵図に描かれた南北の溝、土塁は確認されなかった。明治中期以降の学校用地造成等により 既に破壊されたものと推定される。

学校跡地の東側から確認調査トレンチ5箇所を設定した。一部を除きほとんどが攪乱で、1.3 m程が埋め戻された土であった。トレンチ1では、北端において攪乱されていない土層が確認された。また、砂が埋土の直線的な掘り込みが確認されたが、遺物はなく、時期が不明であることから新しい可能性がある。

T2、3、4では攪乱が著しかった。T4付近で巴文瓦片を採取した。

T5では、東側が攪乱で、西半分は一部できちんとした土層(2層)が確認された。この土層からは近世と思われる陶磁器がややまとまって出土し、炭化物も含まれている。西側半分は、攪乱が交互に入っていた。攪乱は2層、3層、砂礫層を切って堆積している。

T6、7 は攪乱が著しかった。T8 では一部で土層が確認され、陶磁器が若干出土した。炭化物も混じっていた。T8、10 の攪乱部において、近世に属すると思われる陶磁器が発見された。

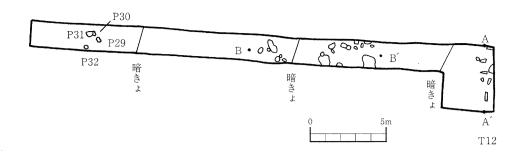
T9では一部で土層が確認され、炭化物が含まれていた。T10では、攪乱が著しかったが、黄褐色砂層、土層が一部で確認された。T11では、東側において陶磁器が出土したが、西側では出土は確認されなかった。基盤の層は黄褐色砂であった。トレンチ西側においては、昭和40年以前の建物跡と推定されるコンクリート基礎が計8個発見され、東西方向に並んでいた。また、それに沿う土管も発見された。基礎の大きさは縦94cm、横63cm、厚さ10cm以上であった。

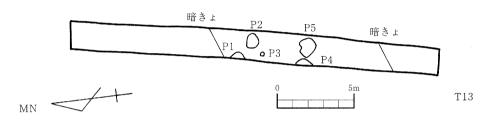
T12、13では遺構、遺物が確認された。T12では、ピット、柱穴が31基発見された。志野を含む陶磁器、P6からは青銅製品 1点が出土した。掘り下げを行った P1~5の深さは6~12cm である。T13では、ピット5基、陶磁器が確認された。T13での遺物取り上げは、陶磁器 1が P1~3付近、陶磁器 2が P5と南側暗渠間となっている。

T14では、溝状遺構が断面で発見されたが、時期不明である。遺物取り上げは西側から陶磁器 1、2、3、東側は陶磁器 4 とした。T15 においても溝状遺構が断面で確認された。何れも陶磁器がややまとまって出土した。T15 の陶磁器 1 はトレンチ西端、陶磁器 2 はそれに接する東側のものとして取り上げた。T16、17では攪乱がひどく、明確な遺構、土層は確認されなかった。陶磁器が若干出土した。

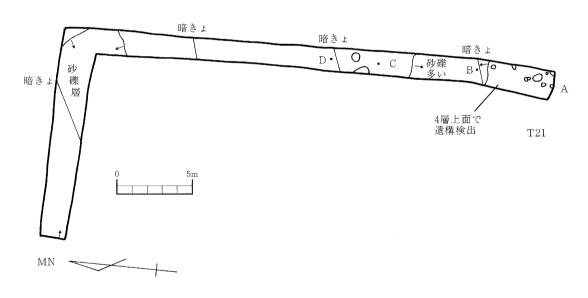
T18では、トレンチの半分が暗渠であったが、深掘り箇所の断面からはピット 2 基が発見された。遺物は出土しなかった。基本層位は第 1 層、盛り土(上は山砂、下は燃え滓のようなもの)、30cm、第 2 層 10YR6/3 にぶい黄橙色シルト質砂、29cm、第 3 層、2.5Y7/6 明黄褐色砂、19cm 以上であった。第 2 層と遺構埋土は区別が難しかった。

第14図 白石城三の丸跡調査区位置図

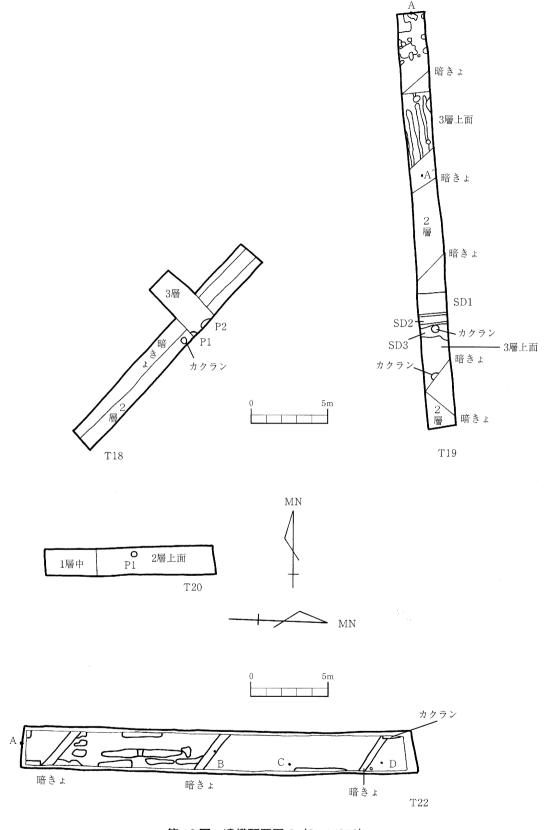




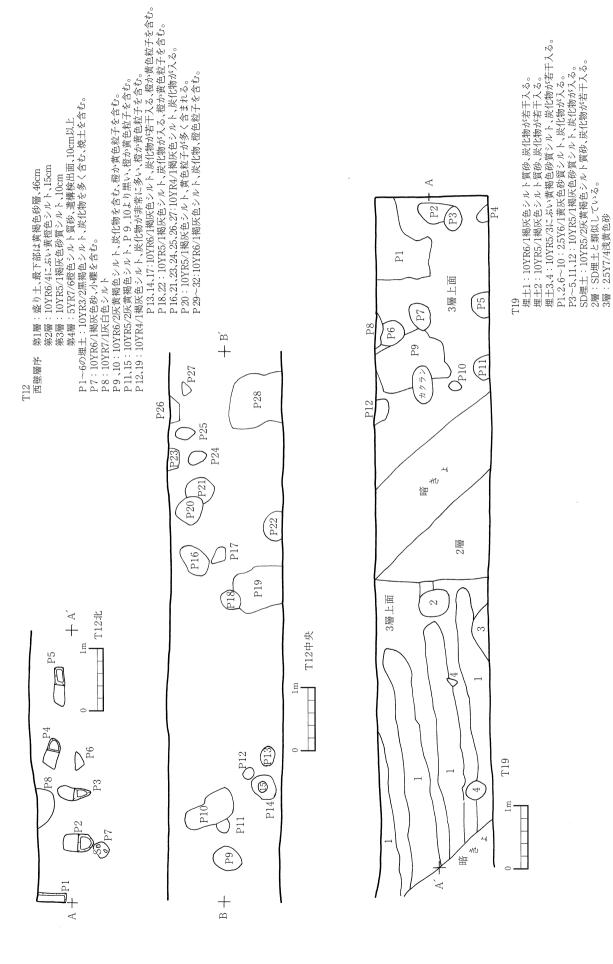
P1~5 10YR5/2灰黄褐色砂質シルト、炭化物を含む。



第 15 図 遺構配置図 (S=1/250)



第 16 図 遺構配置図 2 (S=1/250)



第 17 図 トレンチ詳細図 1

T19では10数基のピット類15基、畝間状遺構及び溝状遺構が7条確認された。このピットの中には近代に属するものも含まれている。丸瓦の玉縁破片が出ている(写真図版12-5、6)。暗渠が5本確認された。T19の陶磁器1は西側から1と2本目の暗渠間出土、陶磁器2は2本目と3本目間出土、陶磁器3は3本目の暗渠前後である。ピット12は半裁し、深さを確認した。埋土から陶磁器が1点出土した。今回の調査区では、北東から南西方向の暗渠が3本確認された。

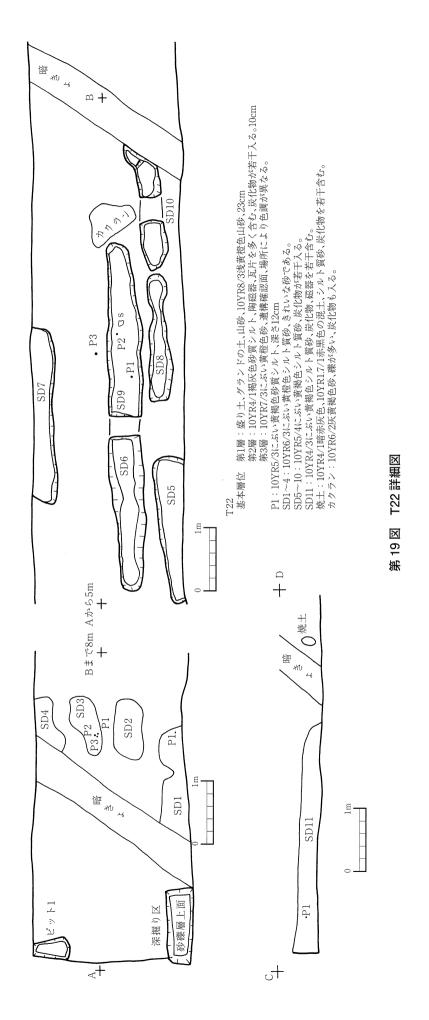
T20 では、焼土を含む直径 15cm のピット 1 基 (10YR4/1 褐灰色シルト質砂、10YR5/3 赤褐色の焼土が混じる)が確認された。基本層位は第 1 層、表土、カクラン、プラスチック等が入る、55cm、第 2 層、10YR6/4 にぶい黄橙色シルト、西側ほど黄色味が強く、小礫が多くなる、5cm 以上であった。

T21では、トレンチ全体から陶磁器が出土したため、遺物取り上げは次のように分けた。陶磁器1は南側砂礫層上の2~3層出土、陶磁器2はP11、12付近の2~3層出土、陶磁器3は南側の砂礫層中出土、陶磁器4は南から2番目の暗渠北側、陶磁器5は南から3番目の暗渠南側、陶磁器6はトレンチ北側で東西に延長した箇所、陶磁器7は南から2本目の暗渠北側で、部分的に存在する5Y6/3オリーブ黄色シルト、粘性がやや強い層出土である。第2層と4層の混土で、この層にはガラス片が含まれていた。丸瓦の頭部片が出土している。陶磁器2の箇所では鬼瓦破片(写真図版13-8)1点が出土している。角状に尖っており、7条の沈線が施文されているものである。長さは約6cmである。陶磁器には織部もある。ピット類は12基発見された。

T22では、溝状遺構が11条確認されたが、SD1、5、8,10、SD2、6、9、SD4、7が本来同一の遺構で、後世の削平により、途切れたものと考えられる。SD6、9は中間で、土層観察ベルトでもって南北に分け、遺物取り上げを行ったものである。ピット1基、焼土1基が発見された。SD8では、キセルの脂返しの管部分が出土した。SD3では、完形品の小杯が発見された。内部に朱色の物質が付着していた。SD3のP3は、鉄器であり、長さ4.9cmの管状のものである。トレンチ南側から産地不明、江戸時代の紅を入れた四角の容器片が見つかっている。

T21 遺構確認面は褐色砂上 P9,10,8b,3:10YR5/1褐灰色シルト、酸化鉄分が縞状に入る。 P8a,6,2,4,11,12:10YR5/1褐灰色シルト、酸化鉄分、炭 化物を多く含む。 P1,5:10YR5/3にぶい貴褐色シルト

第 18 図 トレンチ詳細図 2



反番号	種別	出土位置、層位	特機	(共	写真図版
<u>]-1</u>	小柄	白石城跡、20101007、工事立会	鉛製、中空	長さ5cm、幅1.6cm、厚さ0.5cm、重量17.7g	11-4
7-2	不明	白石城三の丸跡、T12、P6埋土上部	青銅製、金属板が折り曲げられている。	長さ3.4cm、幅1.5cm、厚さ0.9cm、重量6.2g	14-6

第20図 出土した金属器

#### 6 本郷遺跡

#### 地点①

県遺跡番号 02121

遺跡略号 HG

所 在 地 白石市字堂場前32番3、32番4の一部ほか

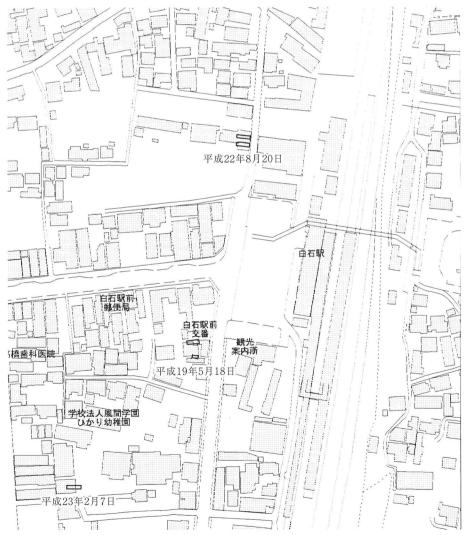
調査要因 個人住宅建設

調査期日 平成22年8月20日

調 査 面 積 185.47㎡ (掘削面積 16.92㎡)

今回の事業地は JR 白石駅前である。周囲はアパートや倉庫群が立ち並んでいる。この箇所は以前、 事務所等が建っていた場所である。幕末の白石城下絵図では、水田地帯として描かれている箇所である。 住宅等が立ち並ぶようになったのは、東北本線開通の明治 20 年以降である。本郷遺跡は、これまで調 査事例が少なく、遺構分布が不明な遺跡であった。

事業地内にトレンチを2箇所設定した。T1では、土師器片が出土した。トレンチ西側は、焼土を含む 攪乱が厚く堆積している。基本層位は第1層、表土、近現代陶磁器、木片を含む、直径20-30cmの丸石



第 21 図 本郷遺跡調査区位置図 (S=1/2,500)

を多く含む、40cm、第 2層、10YR6/1 褐 灰 色 シルト質砂、直径 30cm 程の石を含む、43cm 以 上、土師器を若干含む、 攪乱は 25YR7/8 橙色土 である。

#### 地 点 ②

県遺跡番号 02121

遺跡略号 HG

所 在 地 白石市字柳町 16

調査期日 平成23年2月7日

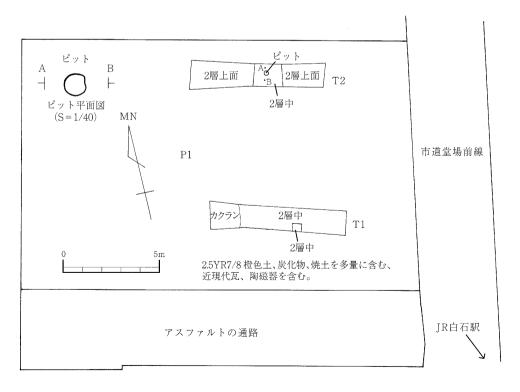
調 査 面 積 253.76㎡ (掘削面積 19㎡)

本郷遺跡はJR 東北本線白石駅を中心とした遺跡であり、古代の散布地として登録され、過去に、地表から土師器、須恵器が発見されている。今回の箇所は遺跡範囲の西端にあたる。

今回、2.3m ほどの基礎を伴う園舎が建築されることになったため確認調査を実施した。トレンチは 事業地中央に1箇所設定した。なお、事業地東側には公共下水道管が埋設されていたことから、トレンチ拡張は行わなかった。

調査の結果、次の層位が確認された。第1層、10YR5/2灰黄褐色土、層中に黄褐色山砂層が入る、建物コンクリート基礎あり、層厚33cm、第2層、10YR7/6明黄褐色砂質シルト、第3層ブロックが若干混じる、28cm、第3層、10YR4/1褐灰色土、しまり強、下部は4層ブロックを含む、上部に土師器を含む、56cm、第4層、5YR7/3にぶい橙色土、酸化鉄分を含む、5cm以上であった。遺物取り上げは深掘区より西は陶磁器1、同東は陶磁器2とした。

トレンチ内の大部分は攪乱であり、中央で深掘りを行ったが、近代以降の陶磁器、洋釘、針金、ビニール片が含まれていた。攪乱の厚さは 60cm ほどであった。



第22図 本郷遺跡地点① トレンチ配置図

## 7 砂押遺跡

県遺跡番号 02397

所 在 地 白石市大鷹沢大町字佐野道

152 地内

調 查要 因 範囲確認

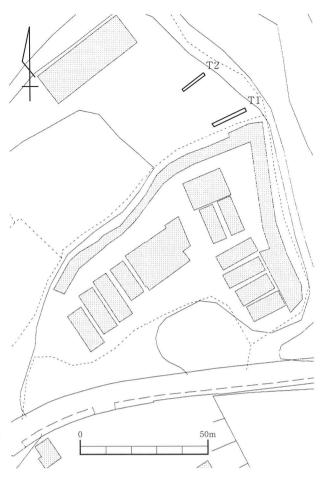
調査期日 平成22年3月18日~5月17日

調 査 面 積 913.01㎡ (掘削面積 35.04㎡)

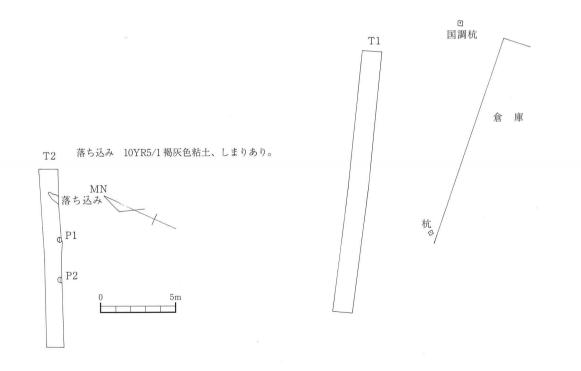
砂押遺跡は、東北新幹線白石蔵王駅から東へ約 2kmの丘陵上に位置している。

地元の口碑で戦国期に廃絶したという寺院跡 (長陽寺)があったと推定されている箇所の試掘 調査を実施した。砂押遺跡は古代の散布地として 登録されており、土師器、須恵器が出土している。

調査では、地表に農業用黒ビニールが張ってあったので、それらを慎重に除去した後、発掘を行った。トレンチは2カ所設定した。調査の結果、いずれも過去に地形改変が実施され、削平や盛土がなされていたことが判明した。T2では、ピット2基と三角形状の落ち込み1つが確認された。ピットは約40cmほどの方形を呈していた。埋土



第23図 砂押遺跡調査区図



第24図 砂押遺跡トレンチ配置図





0 5cm

#### 第25図 発見された銭貨

は 10YR6/1 褐灰色粘土でしまりがあった。遺物は出土していない。ピット 1 は深さ 5cm 以上、ピット 2 は深さ 5cm であった。ピット 2 の東半分は完掘した。落ち込みは 110cm × 60cm の大きさで、断面では溝状に落ち込む。T2 の基本層位は次のとおりである。第 1 層、10YR5/1 褐灰色シルト、18cm、第 2 層、10YR7/8 黄橙色粘土、礫が多い、10cm 以上であった。付近から寛永通宝銅銭が表採された。背面は 12 波で、直径 2.3cm、孔径 0.6cm、重量は 4g である(第 25 図、写真図版 10-5)。遺構が確認されたことから遺跡範囲拡大を行った。

## 8 馬牛沼遺跡

県遺跡番号 02449

遺跡略号 BGN

所 在 地 白石市斉川字馬牛

調査期日 平成22年11月22日~11月29日

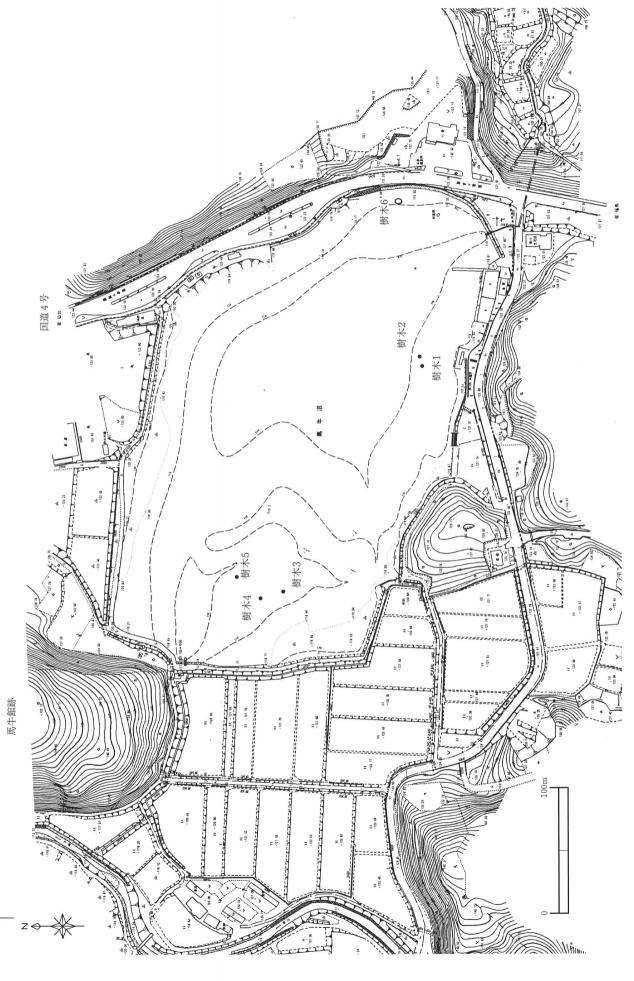
馬牛沼は白石市役所から南へ 6.1km の国道 4 号線沿いに位置している。

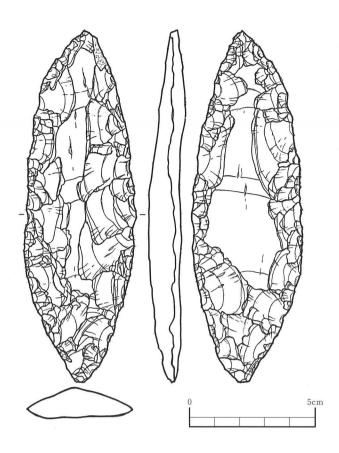
馬牛沼底において石器が採取されており、昭和59年11月、故中橋文化財保護委員長が遺跡登録カードを作成しているが、遺跡登録されていなかった箇所である。長さ13.9cm、幅4.3cm、厚さ1.2cmの尖頭器であるが、現物は不明である。

遺跡が所在するか否かを確認するため、沼干しが行われているこの時期に踏査を行った。その結果、 沼の西側において土師器1点、中世陶器、土師器底部片が発見された。

埋没林と思われる樹木群が確認された(高橋 1978)。埋没林は根が放射状に地表に拡がっており、数カ所にまとまりをもって分布している。埋没林は東側で1箇所、南、北、西側では多数確認できた。多寡はあるものの、沼全体に拡がっている。北側のものは幹が横たわっているものが多い。

沼中央は水があり踏査できなかった。沼の東側は小礫が多数散布している。礫の下は茶褐色土が堆積しており、堅く、黒褐色腐植土は分布していない。礫に混じって、須恵器片1点、近世陶磁器が採取された。周囲には現代陶磁器、剥片(写真図版 16-4-1)が散布していた。北側は腐食土が厚く堆積しており、注意していないと足を取られる状況であった。剥片1点が発見された(写真図版 16-4-2)。北東箇所で陶器片1点を発見した。沼の西と南側は腐食土が堆積しているが、下には黄白色粘土層が堆積している。北側も同様の堆積状況と考えられる。遺物の取り上げは1が沼の南西、2が東、3が北東、4が北側である。





埋没林の年代測定と樹種同定を委託した(第4章)。年代測定の結果、古代と縄文時代早期の所産であると考えられる。樹木1、2、5、6は根が沼底に放射状に伸びているものであるが、樹木4は根が埋没しており、幹しか確認できなかったものである。3は幹の下部、根が残っているものである。歯種同定の結果はケヤキ、トネリコ属、ハンノキ属となっている。

第27図 馬牛沼遺跡出土石器

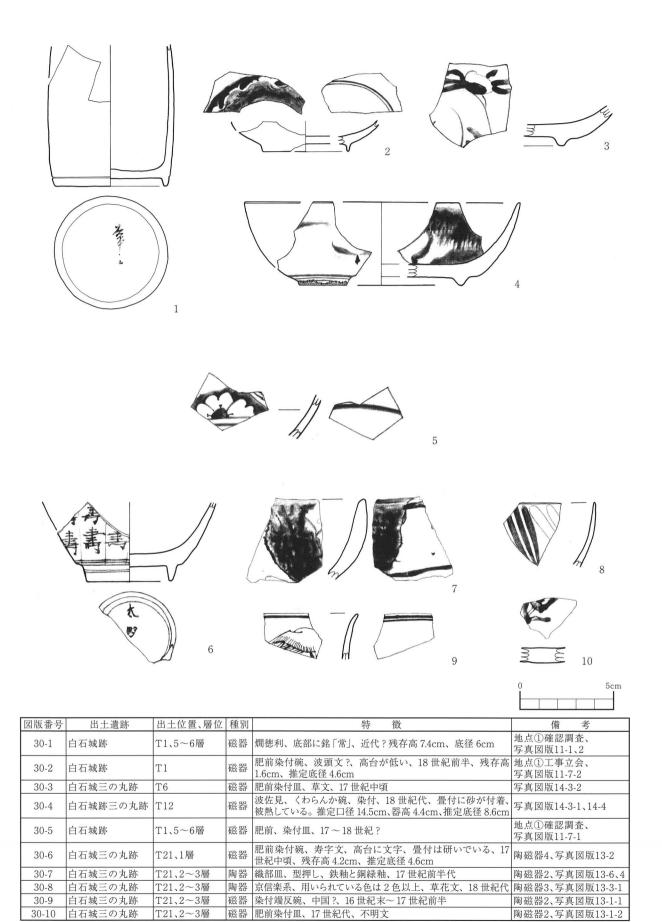


第28図 三部山遺跡、田上遺跡調査箇所

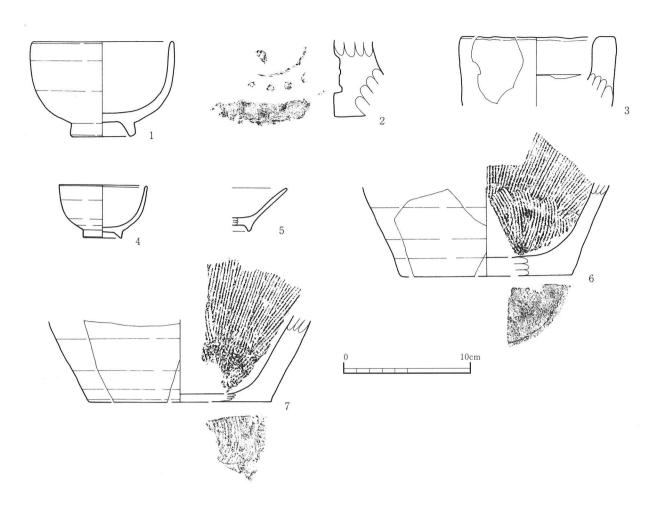


図版番号	種別	出土位置、層位	特 徴	備考
29-1	土師器、高坏	大畑遺跡地点①、T3、SI1	外面、ヨコナデ→ケズリ、内面、ヘラミガキ、黒 色処理、推定底径 7.4cm、残存高 5.5cm	写真図版10-2
29-2	土師器、高坏	大畑遺跡地点①、T3、SI1	外面、ヨコナデ→ケズリ、内面、ヘラミガキ、黒 色処理、ケズリ、推定底径 10.8cm、残存高 6.8cm	写真図版10-1
29-3	土師器、坏	大畑遺跡地点①、T3、SI1	外面、ヨコナデ、ケズリ、内面、ヘラミガキ、黒 色処理、推定口径 16.2cm、残存高3cm	写真図版10-3-2
29-4	平瓦	大畑遺跡地点①、T3、3層	凸面、平行タタキ目、凹面、布目	写真図版10-3-1、10-4
29-5	平瓦	大畑遺跡地点①、立会、4層	凸面、格子タタキ、凹面、マメツ	写真図版10-3-3
29-6	中世陶器、体部破片	馬牛沼遺跡地点①	内外面、ナデ、長石が多い、産地不明	写真図版16-1-3
29-7	土師器、体部破片	馬牛沼遺跡地点①	外面、ナデ、内面、マメツ	写真図版16-1-2
29-8	土師器、底部破片	馬牛沼遺跡地点①	外面、マメツ、内面、剥落	写真図版16-1-1
29-9	須恵器、体部破片	馬牛沼遺跡地点②	外面、平行タタキ、内面、ヨコナデ	写真図版16-2-2
29-10	鉄釉擂鉢、口縁部破片	馬牛沼遺跡地点②	鉄釉、内面、摺り目	
29-11	鉄釉擂鉢、口縁部破片	馬牛沼遺跡地点②	鉄釉、内面、摺り目、岸窯、17 世紀代	写真図版16-2-1
29-12	鉄釉擂鉢、底部破片	馬牛沼遺跡地点②	鉄釉、糸切り痕、内面、摺り目、	
29-13	鉄釉擂鉢、体部破片	馬牛沼遺跡地点②	鉄釉、内面、摺り目、岸窯、17世紀代	写真図版16-3

第29図 出土遺物



第30図 出土陶磁器



図版番号	出土遺跡	出土位置、層位	種別	特	備考	
31-1	白石城三の丸跡	T4	陶器	肥前陶器、呉器手碗、茶筅ずりなし、17世紀後半,口径 11cm、器高 7.5cm、底径 4.5cm	写真図版11	3
31-2	白石城三の丸跡	T4付近で表採	軒丸瓦	連珠巴文、裏面に接合痕あり、燻し瓦	写真図版15	5-1.2
31-3	白石城三の丸跡	T13、陶磁器1	石製鉢	内面に煤が付着、軽い、近世?	写真図版12	2-3,4
31-4	白石城三の丸跡	T22,SD3		瀬戸美濃、灰釉小杯、18世紀後半?内面に紅か朱漆、外面は黒色物質付着、口径 6.8cm、器高 4.2cm、底径 3cm	出土位置P1 写真図版13	
31-5	白石城三の丸跡	T14	磁器	肥前青磁皿、型押し文様、畳付に砂付着、17世紀代、器高 3.5cm	写真図版12	2-1,2
31-6	白石城三の丸跡	T12,P28	陶器	地方窯、鉄釉擂鉢、18世紀以降、底面の釉を拭き取っている、胎土 に白色粒子が多い、残存高 7.1cm、推定底径 13.4cm	写真図版15	5-3,4
31-7	白石城三の丸跡	T9、1~2層	陶器	鉄釉擂鉢、糸切り底、底面にも鉄釉、産地不明、近世、残存高 6.4cm、推定底径 14.2cm	写真図版15	5-5.6

第31図 出土遺物

# 第4表 市内遺跡出土陶磁器等一覧

			স্থ	4表 市內遺跡出土陶城	
番号	出土遺跡	出土位置、層位	種別	特	備考
		表採 T1、1~2層	陶器	産地不明、近世? 鉄釉摺鉢、産地不明、近世	4月13日、地点①工事立会
		T1、1~2層 T2、1~2層	磁器	跃租指幹、產地不明、近世 近現代	3月8日、地点①確認調査 3月8日、地点①確認調査
		T2、1~2層	磁器	不明	3月8日、地点①確認調査
		T2、1~2層	磁器	現代、灰皿	3月8日、地点①確認調查
		T1、4層	陶器	小野相馬?灰釉鉢、18~19世紀前半	5月19日、地点②確認調査
		表採	陶器	大堀相馬、鉢か片口、発色悪い、目跡あり、19 世紀代	6月21日工事立会
		T1 T1	磁器	銅版転写、染付碗、20 世紀 大堀相馬?灰釉瓶類、19 世紀代	8月3日確認調査
			陶器	大堀相馬、灰釉鉢、18 世紀代	8月3日確認調査
		表採	陶器	産地時期不明	8月3日確認調査
		表採	磁器	近現代	8月3日確認調査
		表採	磁器	瀬戸美濃、徳利か瓶、新しい	8月3日確認調査
	本郷遺跡地点①		瓦質土器 磁器	瓦質火鉢、近世? 瀬戸美濃、擂絵、染付碗、19 世紀後半	
	本郷遺跡地点①		陶器	棚戸夫族、藩絃、架竹幌、19 世紀夜十 大堀相馬、青釉土瓶、19 世紀中頃	
	本郷遺跡地点①		磁器	瀬戸美濃、染付端反碗、19世紀前半~中頃	
	本郷遺跡地点①		磁器	染付皿、摺絵、19 世紀後半	
	本郷遺跡地点①		陶器	大堀相馬、灰釉皿、18世紀以降	
	本郷遺跡地点①		磁器	瀬戸美濃、青磁小型碗、19~20世紀 2015年 - 1011年 - 10	
	本郷遺跡地点① 本郷遺跡地点①		磁器陶器	瀬戸美濃、染付皿、19 世紀中頃 タイル、2 点	
		T1	陶器	小野相馬、碗?淡青色釉、18 世紀	地点①確認調査
		T1	陶器	大堀相馬、灰釉碗、18世紀	地点①確認調査
25	白石城跡	T1、5~6層	磁器	肥前、染付?釉にむらあり、17世紀代	地点①確認調査、写真図版11-6-2
		T1、5~6層	磁器	瀬戸美濃、小坏	地点①確認調査
27		T1、5~6層	磁器	瀬戸美濃、時期不明	地点①確認調査
		T1、10層 T1、12層	磁器 素焼き	瀬戸美濃、電線関係、内面に釉、現代 近世、かわらけ皿	地点①確認調查 地点①確認調查、写真図版10-6
		T1、13層	系統 O	灰釉皿、産地時期不明	地点①確認調査
		T1	陶器	小野相馬?、灰釉香炉、18世紀?	地点①工事立会
32	白石城跡	T1	陶器	肥前、長石釉の碗か皿、17 ~ 18 世紀	地点①工事立会
		T1	陶器	大堀相馬、灰釉碗、18世紀代	地点①工事立会、写真図版11-6-3
		T1	陶器 磁器	小野相馬?、淡青色釉、碗?、18世紀	地点①工事立会
		T1 T1	磁器 陶器	地方窯、染付德利?、年代不明 地方窯、白釉碗、鎬状文様、年代不明	地点①工事立会 地点①工事立会、写真図版11-6-1
		T1	磁器	瀬戸美濃、白磁小杯、年代不明	地点①工事立会
		T1	素焼き	瓦質土器、近世~近代	地点①工事立会
		T1	陶器	近代以降	地点①工事立会
		T1	陶器	現代	地点①工事立会
	白石城三の丸跡 白石城三の丸跡		素焼き 磁器	不明 瀬戸美濃、染付碗、19 世紀前~中頃	2点
	白石城三の丸跡		陶器	大堀相馬、白濁釉小碗、18 世紀後半以降	陶磁器2
	白石城三の丸跡		陶器	地方窯、小型甕、鉄釉?、近世	陶磁器2、写真図版11-5-2
45	白石城三の丸跡	Т3	磁器	肥前染付碗、草文、17~18世紀	陶磁器2
	白石城三の丸跡		陶器	大堀相馬、灰釉碗、18世紀	陶磁器2
	白石城三の丸跡		陶器	大堀相馬、鉄釉碗、18世紀	陶磁器2
	白石城三の丸跡 白石城三の丸跡		陶器 不明	鉄釉灌鉢、近世、地方窯、近世 時期不明、釉裏紅、口縁に抉り入り	
	白石城三の丸跡		磁器	肥前染付碗、17~18世紀	
	白石城三の丸跡		陶器	大堀相馬、掛け分け碗、18 世紀代	
	白石城三の丸跡			小野相馬、18 世紀代	
	白石城三の丸跡		磁器	肥前染付、近世	
	白石城三の丸跡	T5、2層上面 T5深掘区、2層上面	磁器	肥前染付皿、近世 肥前、青緑釉皿、17 世紀後半	
		T5深掘区、2層上面 T5深掘区、2層上面		肥前、呉器手碗、17 世紀後半	
		T5深掘区、2層上面		肥前染付碗、近世	
58	白石城三の丸跡	T5深掘区、2層上面	陶器	地方窯、鉄釉鉢、近世	写真図版11-5-1
	白石城三の丸跡		陶器	鉄釉擂鉢、近世、胎土に白色粒子	AT TO THE PLAN OF
	白石城三の丸跡 白石城三の丸跡		磁器磁器	肥前染付皿、17~18世紀代 地方窯、染付碗、漆継ぎ、近世	写真図版14-3-3
	白石城三の丸跡		陶器	地方窯、米円棚、徐継さ、江世 地方窯、外面は鉄釉、内面は黒釉、19 世紀代?	
	白石城三の丸跡		磁器	瀬戸美濃?染付碗、19世紀前半?	
64	白石城三の丸跡	T8、2層	陶器	小野相馬、灰釉香炉、18 世紀代	
	白石城三の丸跡		磁器	瀬戸美濃、染付碗、19世紀中頃	
	白石城三の丸跡		陶器	鉄釉擂鉢、地方窯、近世 小野和東 ※素名熱型 19 世紀代	字實際嗎14·1
	白石城三の丸跡		陶器 陶器	小野相馬、淡青色釉皿、18 世紀代 小型甕、内外面が鉄釉、釉切れ、近世?	写真図版14-1
	白石城三の丸跡			近代以降	3点
	白石城三の丸跡		磁器	近現代	2点
71	白石城三の丸跡	T11	陶器	鉄釉擂鉢、地方窯、18 世紀以降	
	白石城三の丸跡		磁器	被熱、地方窯、碗 ?19 世紀代	写真図版14-2-4
	<u>白石城三の丸跡</u> 白石城三の丸跡		磁器 磁器	肥前染付碗、18 世紀代 瀬戸美濃、擂絵染付碗、19 世紀後半代	写真図版14-5-1
	白石城三の丸跡		陶器	柳戸夫族、福松泉門朔、19 世紀後千代 小野相馬、碗?淡青色釉、18 世紀代	
	白石城三の丸跡		磁器	肥前染付、筒形碗、18世紀後半?	
77	白石城三の丸跡	T11	磁器	地方窯、小碗、呉須による絵、近世	写真図版14-2-1
	白石城三の丸跡		磁器	瀬戸美濃、染付碗、草文、19世中~後半	
	白石城三の丸跡		素焼き	産地時期不明 主際 原子制 45.2 17.45.47.27.4	是
	白石城三の丸跡 白石城三の丸跡		陶器 陶器	志野、長石釉、鉢?、17 世紀初め 大堀相馬、鉢か皿、18 世紀後半~ 19 世紀前半	写真図版13-3-2
	白石城三の丸跡		磁器	A堀伯馬、野が皿、18 世紀後半~ 19 世紀前半 瀬戸美濃 ?、染付端反碗、19 世紀前半~中頃	
	白石城三の丸跡		陶器	産地時期不明	
	白石城三の丸跡		陶器	外面、鉄釉、内面、白釉、白色粒子が多い、近代?	
	白石城三の丸跡	T12北半	磁器	肥前染付皿、底部片、近世	
	白石城三の丸跡	T12	磁器、陶器	現代	3点
	白石城三の丸跡		素焼き	土師質皿	

19	er en la challante dels	11 1 14 100 100 14	#66 HH	the Att.	備考
19   日本語での大松 772	番号 出土遺跡	出土位置、層位	種別	特	備考
19 日本					
□ 自日本での対象「12」 信仰					Pén rié GP vis Alà
**** ***					<b>陶做舒用于</b>
6 日の社会の政権 74.5.1 日本 日本 (本年本) 1.1.2.1					
60					
19   「日本のの大利 〒13   四秋   日本の   日本					
(2) 自己性についた   下記   内部					75
98					
50   日本歌 つかは   741   1   1   1   1   1   1   1   1   1					
100   日本語との大型   111	98 白石城三の丸跡	T13	磁器	肥前染付碗、近世	
10   日本東京の大田   12   東京の	99 自石城三の丸跡	T13	陶器	大堀相馬、灰釉仏飯器、18 世紀代	陶磁器1、写真図版14-2-2
10 日本元の大学   11 日本の大学   12 日本の	100 白石城三の丸跡	T14	陶器	土管、近代以降	
103 日本語本の大型   1711	101 白石城三の丸跡	T14	素焼き	不明	陶磁器1
104 日本語との大部   114	102 白石城三の丸跡	T14	磁器	肥前?近世以降	陶磁器1
104 日本語との大部   114	103 白石城三の丸跡	T14	素焼き	上師質土器、鉢、近世~近代	陶磁器2
105 日に長三の大の   114					陶磁器4、写真図版14-5-2
1802 日で東京の大阪   714   信仰					陶磁器4
197   古京新三の大部   14   現留				瀬戸美濃、近現代	陶磁器4
1888 日本経過三の表 114   初毎   大泉山北、 第75 動。 日本紀代   改成   公成   公成   公成   公成   公成   公成   公成					
四の   日の   日の   日の   日の   日の   日の   日の					
100   日本社 - 10 総計   10 日本社 - 10 総計   20 日本社 - 10 化 - 10 総計   20 日本社 - 10 化 - 10 総計   20 日本社 - 10 化					
111 日本語 - 1					
12  日本地三の大陸 T15					
13  日本   10 日本   1					
14  日本紙 - 19 大郎   15  日本紙 - 19 日本紙					
15.15 日本   日本   日本   日本   日本   日本   日本   日本					
146 日本紙 - 10 年   147 日本紙 - 147 日					
137 日本   15 日本   1					
13  日本保 - つく					PP 现在 6計 4
19 日本   日本   日本   日本   日本   日本   日本   日本					安東岡県1459
1900   日本版					<b>ラ県凶版14-5-3</b>
12  日の報子の見格   11  11-28					
122   白石級 - O					
122   日本版   102					The TM DE 1
124   古名城三の大路   11.9.1.~28					
125					
1926   日本統一の大統 「19.1-12編					
1277	125 白石城三の丸跡	T19、1~2層	陶器	大堀相馬、灰釉皿、18世紀代	
1928   日本近三の大路   19.1 - 12版	126 白石城三の丸跡	T19、1~2層	陶器	小野相馬、淡青色釉、片口?18世紀代	陶磁器1
199   日本統三の大師   1919.1 ~ 2階   海管	127 白石城三の丸跡	T19、1~2層	磁器	肥前染付、蓋?花文、17~18世紀	陶磁器1
130   日本版一の大約   719.1 ~ 2階   日本版   大規相馬   日海線検疫機   19 世紀中午   19.1 ~ 2階   日本版   19.1 ~ 28 ~ 28 ~ 28 ~ 28 ~ 28 ~ 28 ~ 28 ~ 2	128 白石城三の丸跡	T19、1~2層	陶器	岸窯、鉄釉擂鉢、17世紀代	
130   日本版一の大約   719.1 ~ 2階   日本版   大規相馬   日海線検疫機   19 世紀中午   19.1 ~ 2階   日本版   19.1 ~ 28 ~ 28 ~ 28 ~ 28 ~ 28 ~ 28 ~ 28 ~ 2				小野相馬、碗?、淡青色釉、18世紀代	
33  日本城三の大勝   下19.1 - 2階   内容   大規相馬   白寒輪旋突線、19 世紀音平   日本城三の大勝   下19.1 - 2階   内容   交換的期間   大規相馬   白寒輪旋突線、19 世紀代   日本城三の大勝   下20.1 - 2階   田彦   交換的期間   日本城三の大勝   下20.1 - 2階   田彦   変換的期間   と表情に   日本城三の大勝   下20.1 - 2階   田彦   変換が別用   日本城三の大勝   下20.1 - 2階   田彦   変換が別用   日本城三の大勝   下21.2 - 3階   田彦   世紀春代   田彦林代   和日文章科作第三十、17 世紀中東、後寒   写真図版14.2 3   日本城三の大勝   下21.2 - 3階   田彦   田原春代   北島韓和   江東北京   北島韓和   江東北京   田藤春代   和田文章科作第三十、17 世紀中東、後寒   写真図版14.2 3   円成金三の大勝   下21.2 - 3曜   田彦   田原春代   北島韓和   江東北京   田原春代   北島韓和   江東北京   田原春代   北島韓和   江東北京   田原春代   北島韓和   江東北京   田原春代   和田立   日本城三の大勝   下21.2 - 3曜   田彦   天鶴木   大曜田馬   18 世紀代   南田立   田原春代   北田立   日本城三の大勝   下21.2 - 3曜   田彦   田彦   田原春代   北田立   田彦   田原春代   北田立   田原春代   田原春代   田田本   田恵春代   田田本					
132   白石城三の丸脈 T19.1~2層   開露   産地中利の明   133   白石城三の丸脈 T19.28世   日報   近現代   近現代   近現代   近月   近日城三の丸脈 T12.1~2層   超器   近現代   近月   近日城三の丸脈 T12.1~28   超器   近期余十回、地区泉湖、17 世紀後年   地区水水、地区水水、大田   近月   近月   近月   近月   近月   近月   近月   近					
133   日本版三の丸版   179.128理土   超影   逆現代   234   日本版三の丸版   179.1.028   超影   茂地木川、麻花色絵体、19 世紀代   35   日本版三の丸版   172.2.93   超影   茂地木川、麻花色絵体、19 世紀後半、新にわかめる   母級別   137   日本版三の丸版   172.2.93   相影   形成   124   125   124   125   1					
324 日本版三の丸筋   1720,1-2   28					
135   日本版三の大郎   12-0.1-2 場					
136   白石城三の丸除 下21.2-3層	13年 日石城二の元助	T20、1~2届			写直図版14-2-3
137   白石坂ごの丸跡 721.2~3厘   拍祭   担給を付除、外部は多草 77両は不明文、18 世紀?   物路器2   138   白石坂ごの九路 721.2~3厘   神経   伏核、大鬼相馬、18 世紀代   物路器2   地域 大鬼相馬、18 世紀代   物路器2   地域 大原祖馬、18 世紀代   地域 大原祖島2   地域 大原油					
338   白石坂ごの九路   721.2~3厘   両野   灰柏原、大翅相馬、18 世紀代   両雄盤2   140   白石坂三の九路   721.2~3厘   両野   灰柏、大翅相馬、18 世紀代   両雄盤2   141   白石坂三の九路   721.2~3厘   両部   灰柏土瓜、大翅相馬、19 世紀前半か   両雄盤2   142   白石坂三の九路   721.2~3厘   両部   円配   大柏土瓜、大翅相馬、19 世紀前半か   阿磁盤2   143   白石坂三の九路   721.2~3厘   両部   一部   円配   一部   円配   一部   円配   一部   円面   一部   円面   一部   円面   一部   円面   一部   一部   一部   一部   一部   一部   一部   一					
1339   日石岐三の丸藤   T21,2~3   漫勝   灰骸、大屋相馬、18 世紀代   段盛彦2   141   白石岐三の丸藤   T21,2~3   海勝   灰敷土瓶、大鹿相馬、19 世紀前半か   段盛彦2   141   白石岐三の丸藤   T21,2~3   海勝   灰敷土瓶、大鹿相馬、19 世紀前半か   段盛彦2   日名岐三の丸跡   T21,2~3   海勝   灰敷土瓶、大鹿相馬、19 世紀前半か   段盛彦4   日名岐三の丸跡   T21,2~3   海路   安藤   田恵麻付画、 七新文、16 世紀代   南盛巻4   日名岐三の丸跡   T21,2~3   海路   田麻麻付画、 立世   海羅春1   日名岐三の丸跡   T21,2~3   海路   田麻麻付画、 立世   海羅春6   日名岐三の丸跡   T21,2~3   海路   田麻麻付画、 立世   海路   田麻麻付画、 立世   海羅春6   日名岐三の丸跡   T21,2~3   海路   海路   北京   北京   北京   北京   北京   北京   北京   北					
144   白石味三の丸原   721,2~3   22,2   23   23   24   24   24   24   24   2					
144   白石城三の丸跡   T21,2~3層   内部   内部   大阪   大阪   大阪   大阪   大阪   大阪   大阪   大					
142   白石城三の丸跡   T21.2~3暦   段階   肥前弥付皿、花介文、軸に56-59.1   T世紀中頃   陶磁器4   143   白石城三の丸跡   T21.2~3階   段器   肥前歌付皿、大東、16 世紀代   陶磁器6   日右城三の丸跡   T21.2~3階   段器   肥前歌付皿、近世   陶磁器6   旧前歌付頭、近世   陶磁器6   旧前歌付頭、近世   陶磁器6   旧前歌付頭、近世   陶磁器6   旧前歌付頭、近世   陶磁器6   旧前歌付頭、近世   陶磁器6   旧前歌付頭、近世   陶磁器6   旧前歌行面、近世   陶磁器6   旧前歌付頭、近世   陶磁器7   日右城三の丸跡   T21.2~3層   磁器   肥前歌付頭、近世   田前歌付頭、近世   陶磁器6   田前歌付面、近世   南越器6   田前歌付面、近世   南越器6   田前歌付面、近世   南越器6   田前歌付面、近世   国右城三の丸跡   T22確認面   南部   北京   北京   北京   北京   北京   北京   北京   北					
144   白石城三の丸跡   T21.2~3勝   段器   瀬戸美魚天神川、大窯、16 世紀代   陶磁器6   日右城三の丸跡   T21.2~3陽   祝器   肥前泉行圃、 近世   開東行圃、 近世   開東行風、 近世   開東行風、 近世   開東行風、 近世   開東行風、 近世   開東行風、 近世   開東行風、 近世時代   日右城三の丸跡   T22確認面   現器   開東行風、 開降力工 17 世紀代   日右城三の丸跡   T22確認面   祝器   肥前陶器、 作種加、 7 世紀代   日右城三の丸跡   T22確認面   祝器   肥前陶器、 7 世紀代   日右城三の丸跡   T22確認面   祝器   肥前剛子、 17 世紀後半~18 世紀前半代   日右城三の丸跡   T22確認面   預器   大規相馬、 15 世紀時期 19 世紀時間   日本城三の丸跡   T22確認面   開器   大規相馬、 15 世紀中国   日本城三の丸跡   T22確認面   開器   大規相馬、 15 世紀中国   日本城三の丸跡   T22確認面   内器   大規相馬、 19 世紀中国   日本城三の丸跡   T22確認面   内器   大規相馬・ 19 世紀中   日本城三の丸跡   T22確認面   内器   大規相馬・ 19 世紀中国   日本城三の丸跡   T22確認面   開路   大規目馬・ 19 世紀代   日本城三の丸跡   T22を建図面   素後き   不明   日本城三の丸跡   T22を建図面   素後き   不明   開日   日本城三の丸跡   T22と継   経路   肥前小瓜、 17 戸珍代   田本城三の丸跡   T22と確認面   開路   東接き   近日   日本城三の丸跡   T22と確認面   開路   北京町町代   田本城三の丸跡   T22と確認面   田本城市八、 24世紀   田本城三の丸跡   T22と確認面   日本城市の丸跡   T22と確認面   日本城市駅、 18 世紀代半以降   日本城三の丸跡   T22と確認面   日本城市の丸跡   T22と確認面   日本城市駅、 18 世紀代半以降   日本城三の丸跡   T22と確認面   日本城市駅、 18 世紀代半以降   日本城三の丸跡   T22と確認面   日本城市駅、 18 世紀年代半以降   日本城市の丸跡   T22と確認面   日本城市駅、 18 世紀年代半以降   日本城市の丸跡   T22と確認面   日本城市駅、 18 世紀 日本地川   日本城市の丸町   T22を確認面   日本城市駅   大規和馬   日本城市駅   和本城市駅   東京城市駅   東京城市駅   東京城市					
144   日石城三の九路   721、2~3層   経器   肥前条付風、近世   内蔵器6   旧前条日元   12、2~3層   経器   肥前条付風、フェーマク印版、18 世紀前半代   内蔵器6   旧前条日元   147   日石城三の九路   721、2~3層   経器   肥前条付機、フェーマク印版、18 世紀前半代   内蔵器6   旧前条日   日石城三の九路   721、2~3層   経路   飛成器6   田前条付機、万世   日超   日超   日石城三の九路   721、甲12、坝土   電器   深成さ   電路   東京   北京   日超   日超   日超   日面   東京   日面   日面   日面   日面   日面   日面   日面   日					
145   自石城三の丸跡   721、2~3層   磁器					
146   日石城三の丸跡   721、22-3層   磁器   把商染付線、近世   海磁帯6   地域帯6   地域形6   地域形					
147   日石城三の丸跡 T21, P12, 埋土 磁器			THE PH		
148   日石城三の九勝 T222確認面   索妣き   遊、整悠、鉄紙 19 世紀代   日石城三の九勝 T22確認面   磁器   肥前兩陽、灰釉皿、17 世紀代   日石城三の九勝 T22確認面   磁器   肥前東外統、兩帰ウ文、17 世紀後半~18 世紀前半代   日石城三の九勝 T22確認面   極器   肥前東外統、兩帰ウ文、17 世紀以降   日石城三の九勝 T22確認面   陶器   大堀相馬、土瀬口縁部、19 世紀以降   日石城三の九勝 T22確認面   陶器   大堀相馬、土瀬口縁部、19 世紀以降   日石城三の九勝 T22確認面   陶器   大堀相馬、白海種原、18 世紀传   日石城三の九勝 T22確認面   陶器   大堀相馬、白海種原、18 世紀传   日石城三の九勝 T22確認面   陶器   大堀相馬、白海種原、18 世紀中頃   日石城三の九勝 T22確認面   陶器   大堀相馬、白海種原、18 世紀中頃   日石城三の九勝 T22確認面   陶器   大堀相馬、白海種原、18 世紀中頃   日石城三の九勝 T22確認面   陶器   大堀相馬、白海衛主版、約95の銀掛け孔部分、19 世紀前半以降   小野相馬破、次青色種、18 世紀代   日石城三の九勝 T22確認面   陶器   炭土 大畑相馬、小野相馬 線、次青色種、18 世紀代   日石城三の九勝 T22確認面   南器   堤上 中 中 中 中 中 中 中 中 中 中 中 中 中 中 中 中 中 中					四   収収 石計り
149   白石城三の丸跡 722確認面   段響   肥前陶器、灰釉皿、17 世紀代   151   白石城三の丸跡 722確認面   段響   脱前軟件隊、					
150   白石城三の丸跡 T22確認面   磁器   肥前炎(+除、 雨除)文、17 世紀後半~18 世紀前半代   田前炎(-中族)   日本城三の丸跡 T22確認面   内容   内容   内容   内容   内容   内容   内容   内					
151 白石城三の丸跡 T22確認面   磁器   肥前、詳細不明、江戸時代   152 白石城三の丸跡 T22確認面   陶器   大堀相馬、土地口総部、19 世紀以降   154 白石城三の丸跡 T22確認面   陶器   大堀相馬、白海経碗、18 世紀後半以降   155 白石城三の丸跡 T22確認面   陶器   大堀相馬、青海経碗、18 世紀後半以降   156 白石城三の丸跡 T22確認面   陶器   大堀相馬、青海経元 19 世紀中頃   156 白石城三の丸跡 T22確認面   陶器   大堀相馬、青海社工瓶、19 世紀中頃   157 白石城三の丸跡 T22確認面   陶器   大堀相馬、青海土工瓶、19 世紀中頃   157 白石城三の丸跡 T22確認面   陶器   大堀相馬、赤沙野相馬、18 世紀代   158 白石城三の丸跡 T22確認面   陶器   大堀相馬の小野相馬、針?外面は鉄箱、内面は灰箱、18 世紀代   159 白石城三の丸跡 T22確認面   陶器   堤・資金網剛路、小型銀 19 世紀代   156 白石城三の丸跡 T22確認面   素焼き   かわらけ、土部質土器、近世   161 白石城三の丸跡 T22北側   磁器   肥前小杯、白磁?江戸時代   162 白石城三の丸跡 T22北側   磁器   肥前小杯、白磁?江戸時代   163 白石城三の丸跡 T22北側   鐵器   肥前小杯、白磁?江戸時代   164 白石城三の丸跡 T22北値配面   磁器   肥前小杯、白磁?江戸時代   165 白石城三の丸跡 T22北値配面   磁器   肥前水内・白磁?17~18 世紀   166 白石城三の丸跡 T22北値配面   磁器   肥前染付、瓶烟、近世   167 白石城三の丸跡 T22北確認面   磁器   肥前線反小杯、炎付、17~18 世紀   169 白石城三の丸跡 T22北確認面   磁器   肥前線反小杯、炎付、17~18 世紀   160 白石城三の丸跡 T22北確認面   陶器   上世報、大堀相馬、白海箱碗、18 世紀代   171 白石城三の丸跡 T22北確認面   陶器   上世代   18 世紀代   18 世紀元の丸跡 T22北確認面   18 世紀代   18 世紀元の丸跡 T22北確認面   18 世紀元列、京本は一本の丸跡 T22北確認面   18 世紀八本   18 世紀代   18 世紀元の丸跡 T22北確認面   18 世紀八本   18 世紀代   18 世紀元の丸跡 T22北確認面   18 世紀八本   18 世紀末   18 世紀代   17 白石城三の丸跡 T22北確認面   18 世郎   18 世紀八本   18 世紀代   18 世紀元の丸跡 T22北確認面   18 世郎・新不明、新瀬、和の種類は不明   18 世紀元の丸跡 T22北確認面   18 世紀元の本が T22北確認面   18 世紀元の丸跡 T22北確認面   18 世紀元の本が T22北確認面   18 世紀元の本が T22北確認面   18 世紀元の丸跡 T22北確認面   18 世紀元の本が T22北確認面面   18 世紀元の本が T22北確認面面   18 世紀元の本が T22					
152   白石城三の丸跡 T22確認面   陶器 大規相馬、上版口終部、19 世紀後平以降   日					1
153   自石城三の丸跡   T22確認面   陶器   大堀相馬、白湯雜碗、18 世紀代   日					
154   白石城三の丸跡   T22確認面   陶器					
155   白石城三の丸跡   T22確認面   陶器   大堀相馬、青釉土瓶、19 世紀中頃   大塚祖馬、白爾松   大塚祖馬、白爾松土麻、金90手の紐掛け孔部分、19 世紀前半以降   157   白石城三の丸跡   T22確認面   陶器   大塚祖馬が小野相馬・蘇・子外面は鉄・木の面は灰釉、18 世紀代   159   白石城三の丸跡   T22確認面   陶器   堤・鈴和陶器、小型碗?19 世紀代   160   白石城三の丸跡   T22確認面   素焼き   かわらけ、土師質土器、近世   T22確認面   素焼き   不明   超器   肥前小杯、白磁? 江戸時代   日名城三の丸跡   T22確認面   素焼き   肥前小杯、白磁? 江戸時代   日名城三の丸跡   T22北側   磁器   肥前小杯、白磁? 江戸時代   日名城三の丸跡   T22北側   磁器   肥前小瓜、江戸時代   日名城三の丸跡   T22北側   磁器   肥前小瓜、江戸時代   日名城三の丸跡   T22北側   極器   肥前小瓜、江戸時代   日名城三の丸跡   T22北側   極器   肥前小瓜、江戸時代   四面域三の丸跡   T22北線   西域   聚焼き   五質土器?   166   白石城三の丸跡   T22北線認面   磁器   肥前端反小杯、白磁?17~18 世紀   田前端区小丸跡   T22北確認面   磁器   肥前端区小杯、白磁?17~18 世紀   日名城三の丸跡   T22北確認面   磁器   肥前端区小杯、白磁?17~18 世紀   日石城三の丸跡   T22北確認面   陶器   肥前端区小杯、原付、17~18 世紀   日石城三の丸跡   T22北確認面   陶器   肥前端区小杯、原付、18 世紀代   170   白石城三の丸跡   T22北確認面   陶器   産地不明、鉄釉描鉢、近世描鉢、口緑部に発色悪い黒釉、鉄釉、底部は鉄釉、近世   171   白石城三の丸跡   T22北確認面   陶器   産地不明、鉄釉描鉢、近世描鉢、口縁部に発色悪い黒釉、鉄釉、底部は鉄釉、近世   2点   日本域三の丸跡   T22北確認面   陶器   産地平明、鉄釉描鉢、近世描鉢、口縁部に発色悪い黒釉、鉄釉、底部は鉄釉、近世   2点   日本域三の丸跡   T22北確認面   陶器   産地時期不明、版類、釉の種類は不明   電本の種類に不明   電本の種類に不明   電本の種類に不明   電本の種類に不明   電本の種類に不明   電本の種類に発布   下22北確認面   陶器   産地時期不明、版類、釉の種類は不明   電本の種類に不明   電級   和の種類に不明   電本の種類に不明   電本の種類に不明   電本の種類に不明   電本の種類に不明   電本の種類に不明   電本の種類に不明   電本の種類に不明   電本の種類に不明   電球   和の種類に不明   和の種類に不明   和の種類に不明   和の種類に不明   和の種類に不明   和の種類に不明   電球   和の種類に不明   和の種類に不明   和の種類に不明   年本で、18世紀   日本で、2点   和の種類に不明   和の種類に対明   和の種類に不明   和の種類に不明   和の種類に不明   和の種類に対明   和					
156   白石城三の丸跡   T22確認面   陶器   大堀相馬、白湯和土瓶、釣り手の組掛け孔部分、19 世紀前半以降   158   白石城三の丸跡   T22確認面   陶器   小野相馬碗、淡青色和、18 世紀代   159   白石城三の丸跡   T22確認面   陶器   大堀相馬か小野相馬、針?外面は鉄綿、内面は灰釉、18 世紀代   160   白石城三の丸跡   T22確認面   素焼き   かわらけ、土師質土器、近世   161   白石城三の丸跡   T22確認面   素焼き   水砂の19 世紀代   162   白石城三の丸跡   T22年報   磁器   肥前小瓜、江戸時代   163   白石城三の丸跡   T22北側   磁器   肥前小瓜、江戸時代   164   白石城三の丸跡   T22北側   段器   旋器   肥前小瓜、江戸時代   165   白石城三の丸跡   T22北側   段器   旋器   旋動形形肌   近野神田・					
157   白石城三の丸跡   T22確認面   陶器					
157   白石城三の丸跡   T22確認面   陶器					
159   白石城三の丸跡   T22確認面   南器					
161   白石城三の丸跡   T22確認面   素焼き かわらけ、土師質土器、近世   162   白石城三の丸跡   T22北側   磁器   肥前小杯、白磁?江戸時代   田前小杯、白磁?江戸時代   田前小杯、白磁?江戸時代   日名城三の丸跡   T22北側   磁器   肥前小杯、白磁?江戸時代   日名城三の丸跡   T22北側   陶器   廃土時期不明、鉄釉擂鉢   日名城三の丸跡   T22北側   南器   廃土時期不明、鉄釉擂鉢   五質土器?   日名城三の丸跡   T22北値配面   磁器   肥前端子、水類、近世   日名城三の丸跡   T22北値配面   磁器   肥前端子、水類、近世   田前城三の丸跡   T22北確認面   磁器   肥前端子、水類、近世   田前城三の丸跡   T22北確認面   磁器   肥前端子、水類、近世   田前城三の丸跡   T22北確認面   磁器   肥前端子、水類、18世紀(孝里以降   日名城三の丸跡   T22北確認面   内器   R2   R2   R2   R2   R2   R3   R3   R3					
161   白石城三の丸跡   T224権認面   素焼き   不明   磁器   肥前小杯、白磁?江戸時代   田前小杯、白磁?江戸時代   日名城三の丸跡   T22北側   磁器   肥前小杯、白磁?江戸時代   日名城三の丸跡   T22北側   機器   肥前小瓜、江戸時代   日名城三の丸跡   T22北側   索焼き   瓦賀土器?   日名城三の丸跡   T22北値   索焼き   瓦賀土器?   日名城三の丸跡   T22北値認面   磁器   肥前端反小杯、白磁?17~18世紀   日名城三の丸跡   T22北確認面   磁器   肥前端反小杯、白磁?17~18世紀   日名城三の丸跡   T22北確認面   磁器   肥前端反小杯、白磁?17~18世紀   日名城三の丸跡   T22北確認面   磁器   肥前端反小杯、白磁?17~18世紀   日名城三の丸跡   T22北確認面   内器   円面端底、移行、17~18世紀   日名城三の丸跡   T22北確認面   内器   大堀相馬、白濁釉碗、18世紀後半以降   「170   白石城三の丸跡   T22北確認面   内器   広地不明、鉄橋橋鉢、18世紀代   西域三の丸跡   T22北確認面   内器   産地不明、鉄橋橋鉢、17世紀前半   日本城三の丸跡   T22北確認面   内器   陸地時期不明、瓶類、釉の種類は不明   日本域三の丸跡   T22北確認面   内器   産地時期不明、瓶類、釉の種類は不明   日本域三の丸跡   T22北確認面   内器   産地時期不明、瓶類、釉の種類は不明   日本域三の丸跡   T22北確認面   内器   産地時期不明、瓶類、和の種類は不明   日本域三の丸跡   T22北確認面   内器   産地時期不明、瓶類、和の種類は不明   日本域三の丸跡   T22北確認面   内器   産地時期不明、瓶類、和の種類は不明   日本域三の丸跡   T22北確認面   内器   産地時期不明、瓶類、和の種類は不明   日本域三の丸跡   T22北確認面   内器   位置   日本域三の丸跡   T22北確認面   内器   位置   日本域三の丸跡   T22北確認面   内器   位置   日本域三の丸跡   T22北確認面   内器   位置   日本域三の丸跡   T22北確認面   内器   日本域三の丸跡   T22北確認面   内器   位置   日本域三の丸跡   T22北確認面   内器   日本域三の丸跡   T221   日本域 □   T221   日本域三の丸跡   T221   日本域正の土地域三の丸跡   T221   日本域正の丸跡   T221   日本域正の土地域三の土地域三の丸跡   T221   日本域正の土地域三の土地域三の土地域三の土地域三の土地域三の土地域三の土地域三の土地域三					
161   白石城三の丸跡   T22推認面   素焼き   不明   一般語   一級語   一級	160 白石城三の丸跡	T22確認面			
162   白石城三の丸跡   T22北側   磁器   肥前小杯、白磁? 江戸時代   日				不明	
163   白石城三の丸跡   T22北側   磁器   肥前小皿、江戸時代				肥前小杯、白磁?江戸時代	
164   白石城三の丸跡   T22北側   肉器   廃地時期不明、鉄釉擂鉢   五貫土線   五間・東京・東京・東京・東京・東京・東京・東京・東京・東京・東京・東京・東京・東京・					
165   白石城三の丸跡   T22北側   素焼き   瓦質土器?					
166   白石城三の丸跡   T22北確認面   磁器   肥前染付、瓶類、近世					
167   白石城三の丸跡   T22北確認面   磁器   肥前端反小杯、白磁?17~18 世紀   田前端反小杯、白磁?17~18 世紀   田前端反小杯、染付、17~18 世紀   日右城三の丸跡   T22北確認面   陶器   大堀相馬、白濁釉碗、18 世紀後半以降   日石城三の丸跡   T22北確認面   陶器   小野相馬碗、淡青色釉、瓶類、18 世紀代   日石城三の丸跡   T22北確認面   陶器   産地不明、鉄釉擂鉢、近世清鉢、口縁部に発色悪い黒釉、鉄釉、底部は鉄釉、近世   171   白石城三の丸跡   T22北確認面   陶器   産地不明、鉄釉擂鉢、近世清鉢、口縁部に発色悪い黒釉、鉄釉、底部は鉄釉、近世   2点   日本城三の丸跡   T22北確認面   陶器   岸窯   擂鉢、17 世紀前半   日本城三の丸跡   T22北確認面   陶器   産地時期不明、板類、釉の種類は不明   日本域三の丸跡   T22北確認面   陶器   産地時期不明、灰釉、皿   日本域三の丸跡   T22北確認面   陶器   産地時期不明、灰釉、皿   日本域三の丸跡   T22北確認面   磁器   液佐見、くわらんか皿、染付、草花文、18 世紀   日本域三の丸跡   T22北確認面   2点   14元   14元					
168   白石城三の丸跡   T22北確認面   磁器   肥煎端反小杯、染付、17~18 世紀   日の   日石城三の丸跡   T22北確認面   陶器   大堀相馬、白濁袖碗、18 世紀後半以降   170   白石城三の丸跡   T22北確認面   陶器   小野相馬碗、淡青色釉、瀬原   18 世紀代   日石城三の丸跡   T22北確認面   陶器   産地不明、鉄釉補鉢、近世描鉢、口緑部に発色悪い黒釉、鉄釉、底部は鉄釉、近世   171   白石城三の丸跡   T22北確認面   陶器   岸窓、擂鉢、17 世紀前半   日本城三の丸跡   T22北確認面   陶器   岸窓、擂鉢、17 世紀前半   日本城三の丸跡   T22北確認面   陶器   産地時期不明、瓶類、釉の種類は不明   日本域三の丸跡   T22北確認面   陶器   産地時期不明、瓶類、釉の種類は不明   日本域三の丸跡   T22北確認面   限器   産地時期不明、灰釉、皿   日本域三の丸跡   T22北確認面   磁器   成佐見、くわらんか皿、染付、草花文、18 世紀   日本域三の丸跡   T22北確認面   磁器   成佐見、くわらんか皿、染付、草花文、18 世紀   日本域三の丸跡   T22北確認面   磁器   成佐見、くわらんか皿、染付、草花文、18 世紀   日本域三の丸跡   T22北確認面   成器   成佐見、くわらんか皿、染付、草花文、18 世紀					
169   白石城三の丸跡   T22北確認面   陶器   大堀相馬、白濁釉碗、18 世紀後半以降   170   白石城三の丸跡   T22北確認面   陶器   小野相馬碗、淡青色釉、瓶類、18 世紀代   171   白石城三の丸跡   T22北確認面   陶器   産地不明、鉄釉擂鉢、近世擂鉢、口緑部に発色悪い黒釉、鉄釉、底部は鉄釉、近世   2点   172   白石城三の丸跡   T22北確認面   陶器   廃出時期不明、瓶類、釉の種類は不明   174   白石城三の丸跡   T22北確認面   陶器   産地時期不明、瓶類、釉の種類は不明   174   白石城三の丸跡   T22北確認面   陶器   産地時期不明、灰釉、皿字   175   白石城三の丸跡   T22北確認面   磁器   液佐見、くわらんか皿、染付、草花文、18 世紀					
170         白石城三の丸跡         T22北確認面         陶器         小野相馬碗、淡青色釉、瓶類、18 世紀代           171         白石城三の丸跡         T22北確認面         陶器         産地不明、鉄釉擂鉢、近世擂鉢、口縁部に発色悪い黒釉、鉄釉、底部は鉄釉、近世         2点           172         白石城三の丸跡         T22北確認面         陶器         岸窯、擂鉢、17 世紀前半?           173         白石城三の丸跡         T22北確認面         陶器         産地時期不明、瓶類、釉の種類は不明           174         白石城三の丸跡         T22北確認面         陶器         産地時期不明、灰釉、皿?           175         白石城三の丸跡         T22北確認面         磁器         波佐見、くわらんか皿、染付、草花文、18 世紀					
171 白石城三の丸跡 T22北確認面     陶器     産地不明、鉄釉擂鉢、近世擂鉢、口縁部に発色悪い黒釉、鉄釉、底部は鉄釉、近世 2点       172 白石城三の丸跡 T22北確認面     陶器     岸窯、擂鉢、17 世紀前半?       173 白石城三の丸跡 T22北確認面     陶器     産地時期不明、板類、釉の種類は不明       174 白石城三の丸跡 T22北確認面     陶器     産地時期不明、灰釉、皿?       175 白石城三の丸跡 T22北確認面     磁器     波佐見、くわらんか皿、染付、草花文、18 世紀					
172     白石城三の丸跡     T22北確認面     陶器     岸窯、擂鉢、17世紀前半?       173     白石城三の丸跡     T22北確認面     陶器     産地時期不明、瓶類、釉の種類は不明       174     白石城三の丸跡     T22北確認面     陶器     産地時期不明、灰釉、皿?       175     白石城三の丸跡     T22北確認面     磁器     液佐見、くわらんか皿、染付、草花文、18世紀					2点
173     白石城三の丸跡     T22北確認面     陶器     産地時期不明、瓶類、釉の種類は不明       174     白石城三の丸跡     T22北確認面     陶器     産地時期不明、灰釉、皿?       175     白石城三の丸跡     T22北確認面     磁器     波佐見、くわらんか皿、染付、草花文、18 世紀					2555
174         白石城三の丸跡         T22北確認面         陶器         産地時期不明、灰釉、皿?           175         白石城三の丸跡         T22北確認面         磁器         波佐見、くわらんか皿、染付、草花文、18 世紀					
175 白石城三の丸跡 T22北確認面 磁器 波佐見、くわらんか皿、染付、草花文、18世紀					
1/10   日日敬二の凡跡  TZZR(健認日					2 占
	[176]日石城三の丸跡	ト  1 Z Z 式 催 認 <b>由</b>	陶器	八畑作馬、炊柚帆、18 世紀代	19 <i>1</i> %

77 17	als I street	115 1 77, FFR 100 71.	66 Hul	the any	J-H- s-t-V
番号	出土遺跡 白石城三の丸跡 1	出土位置、層位	種別 磁器	特 徴 肥前、蛇目凹高台、底面に鉄化粧、皿か鉢、19 世紀前半	備考
	白石城三の丸跡		磁器	肥前染付、蓋、圈線、18世紀代	
	白石城三の丸跡		陶器	小野相馬、鉢類、淡青色釉、18世紀代	3点
	白石城三の丸跡		陶器	小野相馬、碗、淡青色釉、18 世紀代	
	白石城三の丸跡		磁器	波佐見、染付皿、見込みは蛇目釉剥、17世紀後半~末	
	白石城三の丸跡		磁器	肥前、白磁皿、近世	
	白石城三の丸跡		陶器	堤、焙烙、透明釉、19世紀前半代	
	白石城三の丸跡		陶器	瀬戸美濃、灰釉、器種不明、近世 瀬戸美濃、染付小杯、銅版転写、雷文ほか、19 世紀後半	
	白石城三の丸跡 白石城三の丸跡		磁器 陶器	瀬戸夫優、衆国小作、銅版転与、富文はか、19 世紀校十 大堀相馬、青釉土瓶、19 世紀中(幕末)	
	白石城三の丸跡		陶器	大堀相馬、鉄絵皿、19世紀前半代	
	白石城三の丸跡		陶器	小野相馬、皿、淡青色釉、18世紀代	
	白石城三の丸跡	T22南確認面	陶器	大堀相馬、白濁釉碗、18 世紀後半以降	4点
	白石城三の丸跡		陶器	大堀相馬、灰釉碗、18 世紀代	4点
	白石城三の丸跡			肥前白磁、角小皿、型押し、梅花文、19世紀前半	
	自石城三の丸跡 白石城三の丸跡		陶器	唐津、長石釉、鉢 ?17 世紀初め   肥前陶器、透明釉碗、17 世紀末~ 18 世紀代	2点
	白石城三の丸跡		陶器	施制网部、25号組制、17 世紀末~16 世紀八 織部、鉄絵、鉢 217 世紀初め	写真図版13-3-3
	白石城三の丸跡		陶器	肥前、京焼風陶器、見込みに呉須絵、山水文、高台内に線刻「正」か、17世紀後半	<b>子</b> 英国版13-3-3
	白石城三の丸跡		陶器	小野相馬、淡青色釉、18 世紀代	2点
	白石城三の丸跡		陶器	瀬戸美濃?柳茶碗?釉が薄い、18世紀末~19世紀前半?	
	白石城三の丸跡		陶器	大堀相馬、土瓶の蓋、山水文、19 世紀中頃	
	白石城三の丸跡		陶器	大堀相馬、青釉土瓶、19世紀中頃	0.14
	白石城三の丸跡		磁器	肥前、染付碗、18 世紀以降 肥前、色絵碗か鉢、花文、幕末~明治?	2点
	白石城三の丸跡 白石城三の丸跡		陶器 磁器	肥削、包経腕が鉢、化义、幕木~明治!  産地不明、紅?の四角容器、白磁、江戸時代、幅 2cm、器高 1cm	写真図版14-7
	白石城三の丸跡		磁器	瀬戸美濃、染付碗、19世紀代	2 24 101 MA 1 2 1
	白石城三の丸跡		磁器	肥前、染付皿、江戸時代	
	白石城三の丸跡		磁器	肥前、青磁?皿か鉢、江戸時代	
206	白石城三の丸跡	T22南確認面	陶器	大堀相馬、灰釉、碗?江戸時代	
	白石城三の丸跡		陶器	大堀相馬、灰釉にあめ釉流し、18世紀後半	
	白石城三の丸跡		陶器	堤、焙烙、19世紀中頃 一種新物体、毛維、充体工用	
	白石城三の丸跡 白石城三の丸跡		陶器	鉄釉摺鉢、近世、産地不明 瀬戸美濃?鉄釉擂鉢、江戸時代	
	白石城三の丸跡		陶器	産地不明、鉄釉播鉢、近世、胎土は小野相馬に類似	
	白石城三の丸跡		陶器	岸窯、鉄釉擂鉢、17世紀代	
	白石城三の丸跡		素焼き	瓦質土器、器種不明	
214	自石城三の丸跡	T22南確認面	素焼き	瓦質鉢、江戸時代	
	白石城三の丸跡		素焼き	瓦質土器、表面剥落	2点
	白石城三の丸跡		陶器	大堀相馬、灰釉碗、18 世紀後半~19 世紀初め	
	白石城三の丸跡		陶器	小野相馬、淡青色釉鉢、18世紀代	
	白石城三の丸跡 白石城三の丸跡		陶器	肥前、刷毛目文、鉄絵風景文、18 世紀代 大堀相馬、青釉土瓶、19 世紀中頃	
		T22、ピット1埋土	磁器	肥前碗、染付?江戸時代	
	白石城三の丸跡		陶器	瀬戸美濃?鉄釉擂鉢、江戸時代	出土位置P1
	白石城三の丸跡		磁器?	染付?瓶類、草花文、地方窯? 19 世紀代	出土位置P2
	白石城三の丸跡		陶器	大堀相馬、灰釉碗、18 世紀代	
224	白石城三の丸跡	T22,SD5	陶器	小野相馬?灰釉皿、18世紀?	
225	白石城三の丸跡		陶器	小野相馬、鉢?淡青色釉、18 世紀代	
225 226	白石城三の丸跡 白石城三の丸跡	T22、SD5	磁器	肥前青磁、器種不明、江戸時代	
225 226 227	白石城三の丸跡 白石城三の丸跡 白石城三の丸跡	T22,SD5 T22,SD5	磁器 素焼き	肥前青磁、器種不明、江戸時代 不明	
225 226 227 228	白石城三の丸跡 白石城三の丸跡	T22,SD5 T22,SD5 T22,SD6	磁器	肥前青磁、器種不明、江戸時代 不明 肥前青磁、皿?江戸時代 唐津、灰釉、皿?17 世紀初め	
225 226 227 228 229 230	白石城三の丸跡 白石城三の丸跡 白石城三の丸跡 白石城三の丸跡 白石城三の丸跡 白石城三の丸跡 白石城三の丸跡	T22,SD5 T22,SD5 T22,SD6 T22,SD6 T22,SD6 T22,SD6	磁器 素焼き 磁器 陶器 陶器	肥前青磁、器種不明、江戸時代 不明 肥前青磁、皿?江戸時代 唐津、灰釉、皿 217 世紀初め 大堀相馬、白濁釉碗、18 世紀後半以降	
225 226 227 228 229 230 231	白石城三の丸跡 白石城三の丸跡 白石城三の丸跡 白石城三の丸跡 白石城三の丸跡 白石城三の丸跡 白石城三の丸跡	T22,SD5 T22,SD5 T22,SD6 T22,SD6 T22,SD6 T22,SD6 T22,SD7	磁器 素焼き 磁器 陶器 陶器 磁器	肥前青磁、器種不明、江戸時代 不明 肥前青磁、皿?江戸時代 唐津、灰釉、皿?17世紀初め 大堀相馬、白濁釉碗、18世紀後半以降 肥前染付皿、江戸時代	
225 226 227 228 229 230 231 232	白石城三の丸跡 白石城三の丸跡 白石城三の丸跡 白石城三の丸跡 白石城三の丸跡 白石城三の丸跡 白石城三の丸跡 白石城三の丸跡 白石城三の丸跡	T22.SD5 T22.SD5 T22.SD6 T22.SD6 T22.SD6 T22.SD6 T22.SD7 T22.SD7	磁器 素焼き 磁器 陶器 磁器 磁器	肥前青磁、器種不明、江戸時代 不明 肥前青磁、皿?江戸時代 唐津、灰釉、皿?17 世紀初め 大堀相馬、白濁釉碗、18 世紀後半以降 肥前染付皿、江戸時代 岸窯、鉄釉描鉢、17 世紀代	
225 226 227 228 229 230 231 232 233	白石城三の丸跡 白石城三の丸跡 白石城三の丸跡 白石城三の丸跡 白石城三の丸跡 白石城三の丸跡 白石城三の丸跡 白石城三の丸跡 白石城三の丸跡 白石城三の丸跡	T22,SD5 T22,SD5 T22,SD6 T22,SD6 T22,SD6 T22,SD7 T22,SD7 T22,SD7	磁器 素焼き 磁器 陶器 磁器 磁器 機器	肥前青磁、器種不明、江戸時代 不明 肥前青磁、皿?江戸時代 唐庫、灰釉、皿?17世紀初め 大堀相馬、白濁種頗、18世紀後半以降 肥前染付皿、江戸時代 岸窯、鉄釉擂鉄、17世紀代 大堀相馬、灰釉碗、18世紀代	
225 226 227 228 229 230 231 232 233 234	白石城三の丸跡 白石城三の丸跡 白石城三の丸跡 白石城三の丸跡 白石城三の丸跡 白石城三の丸跡 白石城三の丸跡 白石城三の丸跡 白石城三の丸跡 白石城三の丸跡 白石城三の丸跡	T22, SD5 T22, SD5 T22, SD6 T22, SD6 T22, SD6 T22, SD7 T22, SD7 T22, SD7 T22, SD7 T22, SD7	磁器 素焼き 陶器 陶器 陶器 陶器 陶器	肥前青磁、器種不明、江戸時代 不明 肥前青磁、皿?江戸時代 唐津、灰釉、皿?江7世紀初め 大堀相馬、白濁釉碗、18 世紀後半以降 肥前染付皿、江戸時代 岸窯、鉄釉擂鉢、17 世紀代 大堀相馬、灰釉碗、18 世紀代 大堀相馬、灰釉碗、18 世紀代 大堀相馬、灰釉碗、18 世紀代 大堀相馬、灰釉・18 世紀代	
225 226 227 228 229 230 231 232 233 234 235	自石城三の丸跡 自石城三の丸跡 自石城三の丸跡 自石城三の丸跡 自石城三の丸跡 自石城三の丸跡 自石城三の丸跡 自石城三の丸跡 自石城三の丸跡 自石城三の丸跡	T22,SD5 T22,SD6 T22,SD6 T22,SD6 T22,SD6 T22,SD7 T22,SD7 T22,SD7 T22,SD7 T22,SD7 T22,SD7	磁器 素焼き 磁器 陶器 磁器 磁器 機器	肥前青磁、器種不明、江戸時代 不明 肥前青磁、皿?江戸時代 唐庫、灰釉、皿?17世紀初め 大堀相馬、白濁種頗、18世紀後半以降 肥前染付皿、江戸時代 岸窯、鉄釉擂鉄、17世紀代 大堀相馬、灰釉碗、18世紀代	
225 226 227 228 229 230 231 232 233 234 235 236	白石城三の丸跡 白石城三の丸跡 白石城三の丸跡 白石城三の丸跡 白石城三の丸跡 白石城三の丸跡 白石城三の丸跡 白石城三の丸跡 白石城三の丸跡 白石城三の丸跡 白石城三の丸跡	T22,SD5 T22,SD5 T22,SD6 T22,SD6 T22,SD6 T22,SD7 T22,SD7 T22,SD7 T22,SD7 T22,SD7 T22,SD7 T22,SD7 T22,SD7	磁器 素磁器 胸器 胸器 胸器 胸路 胸路 胸路 胸路 胸	肥前青磁、器種不明、江戸時代 不明 肥前青磁、皿?江戸時代	
225 226 227 228 229 230 231 232 233 234 235 236 237	自石城三の丸跡 自石城三の丸跡 自石城三の丸跡 自石城三の丸跡 自石城三の丸跡 自石城三の丸跡 自石城三の丸跡 自石城三の丸跡 自石城三の丸跡 自石城三の丸跡 自石域三の丸跡 自石域三の丸跡 自石域三の丸跡 自石域三の丸跡 自石域三の丸跡 自石域三の丸跡	T22,SD5 T22,SD6 T22,SD6 T22,SD6 T22,SD6 T22,SD7 T22,SD7 T22,SD7 T22,SD7 T22,SD7 T22,SD7 T22,SD7 T22,SD7 T22,SD7	磁器 素焼き 陶器 胸盤器 胸盤器 胸と 胸と 胸と 胸と 胸を といる の の の の の の の の の の の の の の の の の の の	肥前青磁、器種不明、江戸時代 不明 肥前青磁、皿?江戸時代 唐津、灰釉、皿?17世紀初め 大堀相馬、白濁釉碗、18世紀後半以降 肥前染付皿、江戸時代 岸窯、鉄釉擂鉢、17世紀代 大堀相馬、灰釉碗、18世紀代 大堀相馬、灰釉・瓶、19世紀前半 大堀相馬、灰釉・瓶、19世紀前半 大堀相馬、灰釉・瓶、19世紀前半	
225 226 227 228 229 230 231 232 233 234 235 236 237 238	自石城三の丸跡 自石城三の丸跡 自石域三の丸跡 自石域三の丸跡 自石域三の丸跡 自石城三の丸跡 自石城三の丸跡 自石城三の丸跡 自石城三の丸跡 自石城三の丸跡 自石域三の丸跡 自石域三の丸跡 自石域三の丸跡 自石域三の丸跡 自石域三の丸跡 自石域三の丸路 自石域三の丸路 自石域三の丸路 自石域三の丸路 自石域三の丸路 自石域三の丸路 自石域三の丸路 自石域三の丸路	T22,SD5 T22,SD6 T22,SD6 T22,SD6 T22,SD6 T22,SD7 T22,SD8 T22,SD8 T22,SD8	磁素機能 素磁	肥前青磁、器維不明、江戸時代 不明 肥前青磁、皿?江戸時代	出土位置PI
225 226 227 228 229 230 231 232 233 234 235 236 237 238 239	白石城三の丸跡 白石城三の丸跡 白石城三の丸 白石域三の丸 白石域三の丸 白石域三の丸 白石域三の丸 白石域三の丸 白石域三の丸 白石域三の丸 白石域三の丸 白石域三の丸 白石域三の丸 白石域三の丸 白石域三の丸 白石域三の丸 自白石域三の丸 自白石域三の丸 自白石域三の丸 自白石域三の丸 自白石域三の丸 自白石域三の丸 自白石域三の丸 自白石域三の丸 自白石域三の丸 自白石域三の丸 自白石域三の丸 自白石域三の丸 自白石域三の丸 自白石域三の 丸 自白石域三の 丸 自白石域三の 丸 上 自白石域三 の 丸 上 自白石域三 の 丸 上 的 自 石 は 三 の り と り 自 日 石 域 三 の れ 上 り 自 日 石 域 三 の れ 上 り 自 日 石 域 三 の れ と り 自 日 百 長 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日	T22,SD5 T22,SD6 T22,SD6 T22,SD6 T22,SD6 T22,SD7 T22,SD8 T22,SD8 T22,SD8 T22,SD9 T22,SD9 T22,SD9	磁素焼き 素磁関	肥前青磁、器種不明、江戸時代 不明 肥前青磁、皿?江戸時代 唐津、灰釉、皿?江戸時代 唐津、灰釉、皿?江戸時代 唐津、灰釉、皿?江丁世紀初め 大堀相馬、白濁釉碗、18 世紀後半以降 肥前來付Ⅲ、江戸時代	出土位置P1 出土位置P2
225 226 227 228 229 230 231 232 233 234 235 236 237 238 239 240	自石城三の丸跡 自石城三の丸跡 自石城三の丸丸跡 自石城三の丸丸跡 自石城三の丸地三の丸 自石城三の丸 自石城三の丸 自石城三の丸 自石城三の丸 自石城三の丸 自石域三の丸 自石域三の丸 自石域三の丸 直白石域三の丸 直白石域三の丸 自石域三の丸 直白石域三の丸 自石域三の丸 自石域三の丸 自石域三の丸 自石域三の丸 自石域三の丸 自石域三の丸 自石域三の丸 自石域三の丸 長 自石域三の丸 大 自石域三の丸 大 自石域三の丸 大 自石域三の丸 大 自石域三の丸 大 自石域三の丸 大 自石域三の丸 大 自石域三の丸 大 自石域三の丸 大 自石域三の 大 大 自石域三 の 大 大 は 自石域三 の 大 大 は 自石域三 の 大 大 は 自 石 は 三 の 大 と 自 と 自 と 自 と 自 と 自 と と と と と と と と ら と ら	T22,SD5 T22,SD6 T22,SD6 T22,SD6 T22,SD6 T22,SD7 T22,SD8 T22,SD8 T22,SD8 T22,SD9 T22,SD9 T22,SD9	磁素焼き 機構器 機器器 胸臓器器 胸臓器 胸臓器 胸臓器 胸臓器 胸臓器 胸臓器 胸臓器 胸臓器	肥前青磁、器種不明、江戸時代 不明 肥前青磁、皿?江戸時代 唐津、灰釉、皿?17世紀初め 大堀相馬、白濁釉碗、18世紀後半以降 肥前染付皿、江戸時代 貯窯、鉄釉揺鉢、17世紀代 大堀相馬、灰釉碗、18世紀代 大堀相馬、灰釉碗、18世紀代 大堀相馬、灰釉の、18世紀代 大堀相馬、灰釉の、18世紀代 大堀相馬、灰釉の、18世紀市半 大堀相馬、灰釉の、18世紀後半以降 五質土器・ 肥前、透明釉碗、17世紀後半~18世紀前半 肥前淡付碗、江戸時代 瀬戸、擂鉢、呉須鉢絵筒茶碗、草花文、イッチン、19世紀後半 肥前染付、焼き継ぎ、19世紀代・	
225 226 227 228 229 230 231 232 233 234 235 236 237 238 239 240 241	自石城三の丸跡 自石城三の丸跡 自石城三の丸跡 自石城三の丸跡 自石城三の丸跡 自石城三の丸地跡 自石城三のの丸地跡 自石城三のの丸地跡 自石城三のの丸地跡 自石城三のの丸地跡 自石城三のの丸地跡 自石石城三のの丸地跡 自石石城三の九東 自古石城三の九東 自古石城三 自古石城三 自古石城三 自古石城三 自古石城三 自古石城三 自古石城三 自古石城三 自古石城 自古石城 自古石城 自古石城 自古石城 自古石城 自古石城 自古石 自古石 自古石 自古石 自古石 自古石 自古石 自古石 由 自古石 由 由 由 由 由 由 由 由 由 由 由 由 由 由 由 由 由 由 由	T22,SD5 T22,SD6 T22,SD6 T22,SD6 T22,SD7 T22,SD8 T22,SD8 T22,SD8 T22,SD9 T22,SD9 T22,SD9 T22,SD9	磁素磁 機 機 機 機 器 器 器 器 器 器	肥前青磁、器種不明、江戸時代 不明 肥前青磁、皿?江戸時代 唐津、灰釉、皿?江戸時代 唐津、灰釉、皿?江戸時代 唐津、灰釉、皿?江戸時代 医前染付皿、江戸時代 岸窯、鉄釉擂鉢、17 世紀代 大堀相馬、灰釉碗、18 世紀代 大堀相馬、灰釉碗、18 世紀代 大堀相馬、灰釉・瓶、19 世紀前半 大堀相馬、灰釉・瓶、19 世紀前半 地前、灰釉・瓶、19 世紀前半 地前、近明釉碗、17 世紀後半~18 世紀前半 地前染付碗、江戸時代 瀬戸、擂鉢、鉄釉、片口付、18 世紀前半 瀬戸美濃、呉須慈統前茶碗、草花文、イッチン、19 世紀後半 肥前染付、焼き継ぎ、19 世紀代? 高台破片、染付、江戸時代	
225 226 227 228 229 230 231 232 233 234 235 236 237 238 239 240 241 242	自石城三の丸跡 自石城三の丸跡 自石城三の丸丸跡 自石城三の丸丸跡 自石城三の丸地三の丸 自石城三の丸 自石城三の丸 自石城三の丸 自石城三の丸 自石城三の丸 自石域三の丸 自石域三の丸 自石域三の丸 直白石域三の丸 直白石域三の丸 自石域三の丸 直白石域三の丸 自石域三の丸 自石域三の丸 自石域三の丸 自石域三の丸 自石域三の丸 自石域三の丸 自石域三の丸 自石域三の丸 長 自石域三の丸 大 自石域三の丸 大 自石域三の丸 大 自石域三の丸 大 自石域三の丸 大 自石域三の丸 大 自石域三の丸 大 自石域三の丸 大 自石域三の丸 大 自石域三の 大 大 自石域三 の 大 大 は 自石域三 の 大 大 は 自石域三 の 大 大 は 自 石 は 三 の 大 と 自 と 自 と 自 と 自 と 自 と と と と と と と と ら と ら	T22,SD5 T22,SD6 T22,SD6 T22,SD6 T22,SD6 T22,SD7 T22,SD8 T22,SD8 T22,SD8 T22,SD9 T22,SD9 T22,SD9 T22,SD9 T22,SD9 T22,SD9 T22,SD9	磁素焼き 機構器 機器器 胸臓器器 胸臓器 胸臓器 胸臓器 胸臓器 胸臓器 胸臓器 胸臓器 胸臓器	肥前青磁、器種不明、江戸時代 不明 肥前青磁、皿?江戸時代 唐津、灰釉、皿?17世紀初め 大堀相馬、白濁釉碗、18世紀後半以降 肥前染付皿、江戸時代 貯窯、鉄釉揺鉢、17世紀代 大堀相馬、灰釉碗、18世紀代 大堀相馬、灰釉碗、18世紀代 大堀相馬、灰釉の、18世紀代 大堀相馬、灰釉の、18世紀代 大堀相馬、灰釉の、18世紀市半 大堀相馬、灰釉の、18世紀後半以降 五質土器・ 肥前、透明釉碗、17世紀後半~18世紀前半 肥前淡付碗、江戸時代 瀬戸、擂鉢、呉須鉢絵筒茶碗、草花文、イッチン、19世紀後半 肥前染付、焼き継ぎ、19世紀代・	
225 226 227 228 229 230 231 232 233 234 235 236 237 238 240 241 242 243 244	自石城三の九末跡 自石城三の九末跡 自石石城三のの九末跡 自石石城三のの九末跡 自石石城三のの九末跡 自石石城三の九末跡 自石石城三の九末跡 自石石城三の九末跡 自石石城三の九末跡 自石石城三の九末跡 自石石城三の九末跡 自石石城三の九末跡 自石石城三の九末跡 自石石城三の九末跡 自石石城三の九末跡 自石石城三の九五 自石石城三の 自石石城三のの九五 自石石城三の 自石石城三の 自石石城三の 自石石城三 自白石城三 自白石城三 自白石城三 自白石城三 自白石城三 自白石城三 自白石城三 自白石城三 自白石城三 自白石城三 自白石城三 自白石城三 自白石城三 自白石城三 自白石城三 自白石城三 自白石石城三 自白石石城三 自白石石城三 自白石石城三 自白石石城三 自白石石城三 自白石石城三 自白石石城三 自白石石城三 自白石石城三 自白石石城三 自白石石城三 自白石石城三 自白石石城三 自白石石太 自白石石城三 自白石石城三 自白石石太 自白石石太 自白石石太 自白石石太 自白石石太 自白石石太 自白石石 自白石石	T22,SD5 T22,SD6 T22,SD6 T22,SD6 T22,SD6 T22,SD7 T22,SD9	磁素 焼 いっぱい かいかい かいかい かいかい かいかい かいかい かいかい かいかい	肥前青磁、器種不明、江戸時代 不明 ・	
225 226 227 228 230 231 232 233 234 235 236 237 238 239 240 241 242 243 244 245	自石城三の丸族跡 自石石城三の丸丸跡 自石石城三の丸丸跡 自石石城三の丸丸跡 自石石城三の丸丸跡 自石石城三の丸丸跡 自石石城三の丸丸跡 自石石城三の丸丸跡 自石石城三の丸丸跡 自石石城三の丸丸跡 自石石城三の丸丸跡 自石石城三の丸丸跡 自石石城三の丸丸跡 自石石城三の丸丸跡 自石石城三の丸丸跡 自石石城三の丸丸跡 自石石城三の丸丸跡 自石石城三の丸丸 自石石城三の丸丸 自石石城三の丸丸 自石石城三の丸丸 自石石城三の丸丸 自石石城三の丸丸 自石石城三の丸丸 自百石城三の丸丸 自百石城三の丸丸 自百石城三の丸丸 自百石城三の丸丸跡 自百石城三の丸丸跡 自百石城三の丸丸 自百石城三の丸丸 自百石城三の丸丸 自百石城三の丸丸 自百石城三の丸丸 自百石城三の丸丸 自百石城三の丸 自百石城三の丸 自百石城三の丸 自百石城三の丸 自百石城三の丸 自百石城三の丸 自百石城三の丸 自百石城三の丸 自百石城三の丸 自百石城三の丸 自百石城三の丸 自百石城三の 自百石城三の 自百石城三 り り 自百石城三 り り 自百石城三 り り 自百石城三 り り り 自百石城三 り り り 自百石城三 り り り 自百石城三 り り り り り り 自 百石城 り り り り り り り り り り り り り り り り り り り	T22,SD5 T22,SD6 T22,SD6 T22,SD6 T22,SD7 T22,SD9	磁素磁陶陶磁陶陶陶陶文陶磁素磁陶陶磁磁素	肥前青磁、器種不明、江戸時代 不明 肥前青磁、皿?江戸時代 唐津、灰釉、皿?江戸時代 唐津、灰釉、皿?江戸時代 唐津、灰釉、皿?江戸時代 唐瀬、灰釉(重)17 世紀初め 大堀相馬、白濁釉碗、18 世紀後半以降 肥前染付皿、江戸時代 大堀相馬、灰釉碗、18 世紀代 大堀相馬、灰釉元 版、19 世紀前半 大堀相馬、灰釉元 版、19 世紀前半 大堀相馬、大田市、19 世紀前半 肥前、凌明釉碗、17 世紀後半~18 世紀前半 肥前、強明釉碗、17 世紀後半~18 世紀前半 肥前染付碗、江戸時代 瀬戸、擂鉢、鉄釉、片口付、18 世紀前半 瀬戸美濃、呉須後結前茶碗、草花文、イッチン、19 世紀後半 肥前染付、焼き継ぎ、19 世紀代? 高合破片、染付、江戸時代 瓦質土器?瓶類、江戸時代 瓦質土器?瓶類、江戸時代? 小野相馬碗、添花文?17 世紀代? 鉄釉、産地時期不明	出土位置P2
225 226 227 228 229 230 231 232 233 234 235 236 237 240 241 242 243 244 245 246 246 247	自石城三の丸族跡 自石城三の九丸跡 自石域三のの丸丸跡 自石域三のの丸丸跡 自石域三のの丸丸跡 自石域三のの丸丸跡 自石域三のの丸丸跡 自石域三のの丸丸跡 自石域三のの丸丸跡 自石域三のの丸丸跡 自石域三のの丸丸跡 自石域三のの丸丸跡 自石域三のの丸丸跡 自石石域三のの丸丸 自石石域三のの丸丸 自石石域三のの丸丸 自石石域三のの丸丸 自石石域三のの丸丸 自石石域三のの丸丸 東 自石石域三のの丸丸 東 自石石域三のの丸丸 東 自石石域三のの丸丸 東 自石石域三のの丸丸 東 自石石域三のの丸丸 東 自石石域三のの丸 東 自石石域三のの丸丸 東 自石石域三のの丸 東 自石石域三のの丸 東 自石石域三のの丸 東 自石石域三のの カ 東 自石石域三のの カ 東 自 石石域三のの カ 東 日 石 域三 の の カ れ 大 い の の カ れ 大 い の り の り の り の り し 日 石 は し ら の り ら り ら り ら り ら り ら り ら り ら り ら ら ら ら	T22, SD5 T22, SD5 T22, SD6 T22, SD6 T22, SD6 T22, SD7 T22, SD9 T22, SD8 T22, SD9 T22, SD11 T22 T22	磁素磁陶陶磁陶器	肥前青磁、器種不明、江戸時代 不明 肥前青磁、皿?江戸時代 唐津、灰釉、皿?江戸時代 唐津、灰釉、皿?江戸時代 唐津、灰釉、皿?江戸時代 唐楽、鉄釉揺炼、18世紀後半以降 肥前染付皿、八丁時代 大堀相馬、灰釉症域、18世紀代 大堀相馬、灰釉症域、19世紀前半 大堀相馬、白濁釉碗、18世紀後半以降 瓦質土馬。白濁釉碗、18世紀後半以降 瓦質土陽。 (2) (3) (4) (4) (4) (4) (4) (4) (4) (4) (4) (4	出土位置P2
225 226 227 228 229 230 231 232 233 234 235 236 237 240 241 242 243 244 245 246 247 247	自石石城三の九丸跡跡 自石石城三の九丸跡跡 自白石城三のの九丸跡 自白石城三のの九丸跡 自白石城三のの九丸跡 自白石城三ののの九丸跡 自白石城三ののの九丸 自白石石城三ののの 自白石石城三ののの 自白石石城三ののの 自白石石城三ののの 自白石石城三ののの 自白石石城三ののの 自白石石城三のの 自白石石城三のの 自白石石城三のの 自白石石城三のの 自白石石城三のの 自白石石城三のの 自白石石城三のの 自白石石城三のの 自白石石城三の 自白石石城三の 自白石石城三の 自白石石城三の 自白石石城三の 自白石石城三の 自白石石城三の 自白石石城三の 自白石石城三の 自白石石城三の 自白石石城三の 自白石石城三の 自白石石城三の 自白石石城三の 自白石石城三の 自白石石城三 自白石石城三 自白石石城三 自白石石城三 自白石石城三 自白石石城三 自白石石城三 自白石石城三 自白石石城三 自白石石城三 自白石石城三 自白石石城三 自白石石城三 自白石石城三 自白石石城三 自白石石城三 自白石石城 上 自白石石城三 自白石石城三 自白石石城三 自白石石城 上 自白石石城 上 日 日 日 石石城 上 日 日 日 日 石石城 上 日 日 石 日 日 日 石 日 日 日 日 石 日 日 日 日 日 日 日	T22、SD5 T22、SD6 T22、SD6 T22、SD6 T22、SD6 T22、SD7 T22、SD7 T22、SD7 T22、SD7 T22、SD7 T22、SD7 T22、SD7 T22、SD7 T22、SD7 T22、SD8 T22、SD8 T22、SD8 T22、SD8 T22、SD9	磁素磁陶陶磁 胸胸 內 內 內 內 內 內 內 內 內 內 內 內 內 內 內 內 內 內	肥前青磁、器種不明、江戸時代 不明 ・	出土位置P2
225 226 227 228 229 230 231 232 233 234 235 236 237 238 240 241 242 243 244 245 246 247	自石石域三のの丸丸 (基本) (基本) (基本) (基本) (基本) (基本) (基本) (基本)	T22、SD5 T22、SD6 T22、SD6 T22、SD6 T22、SD6 T22、SD7 T22、SD7 T22、SD7 T22、SD7 T22、SD7 T22、SD7 T22、SD7 T22、SD7 T22、SD8 T22、SD8 T22、SD9	磁素磁陶 内	肥前青磁、器種不明、江戸時代  唐藤、灰釉、皿?江戸時代  唐藤、灰釉、皿?江戸時代  唐藤、灰釉、皿?江戸時代  唐藤、灰釉、皿?江戸時代  尼前染付皿、江戸時代  定無相馬、白濁釉碗、18 世紀後半以降  肥前染付皿、江戸時代  大堀相馬、灰釉碗、18 世紀代  大堀相馬、灰釉魚、18 世紀代  大堀相馬、灰釉金、18 世紀市半  大堀相馬、灰釉金、18 世紀前半  肥前染付碗、江戸時代  剛戸、擂鉢、鉄釉、片口付、18 世紀前半  肥前染付碗、江戸時代  剛戸・擂鉢、鉄釉、片口付、18 世紀前半  肥前染付碗、江戸時代  西省・焼き糠ぎ、19 世紀代  高台破片、染付、江戸時代  五質土器・魚類、江戸時代  五質土器・魚類、江戸時代  五質土器・魚類、江戸時代  五質土器・魚類、江戸時代  、独村・焼き糠ぎ、19 世紀代  鉄能、産地時期不明  養藤、灰釉、大寺か皿、17 世紀代  養地不明、鉄釉擂鉢、近世  産地不明、朝絵染付皿、19 世紀後半代	出土位置P1 出土位置P3
225 226 227 228 229 230 231 232 233 234 235 236 237 241 242 243 244 245 246 247 248	自石石城三の九丸跡跡 自石石城三の九丸跡跡 自白石城三のの九丸跡 自白石城三のの九丸跡 自白石城三のの九丸跡 自白石城三ののの九丸跡 自白石城三ののの九丸 自白石石城三ののの 自白石石城三ののの 自白石石城三ののの 自白石石城三ののの 自白石石城三ののの 自白石石城三ののの 自白石石城三のの 自白石石城三のの 自白石石城三のの 自白石石城三のの 自白石石城三のの 自白石石城三のの 自白石石城三のの 自白石石城三のの 自白石石城三の 自白石石城三の 自白石石城三の 自白石石城三の 自白石石城三の 自白石石城三の 自白石石城三の 自白石石城三の 自白石石城三の 自白石石城三の 自白石石城三の 自白石石城三の 自白石石城三の 自白石石城三の 自白石石城三の 自白石石城三 自白石石城三 自白石石城三 自白石石城三 自白石石城三 自白石石城三 自白石石城三 自白石石城三 自白石石城三 自白石石城三 自白石石城三 自白石石城三 自白石石城三 自白石石城三 自白石石城三 自白石石城三 自白石石城 上 自白石石城三 自白石石城三 自白石石城三 自白石石城 上 自白石石城 上 日 日 日 石石城 上 日 日 日 日 石石城 上 日 日 石 日 日 日 石 日 日 日 日 石 日 日 日 日 日 日 日	T22、SD5 T22、SD5 T22、SD6 T22、SD6 T22、SD6 T22、SD6 T22、SD7 T22、SD7 T22、SD7 T22、SD7 T22、SD7 T22、SD7 T22、SD7 T22、SD7 T22、SD8 T22、SD8 T22、SD8 T22、SD8 T22、SD9 T22 SD9	磁素磁陶陶磁 胸胸 內 內 內 內 內 內 內 內 內 內 內 內 內 內 內 內 內 內	肥前青磁、器種不明、江戸時代 不明 ・	出土位置P2
225 226 227 228 229 230 231 231 235 236 237 238 240 241 242 243 244 245 246 247 248 249 250 251 251	自白石石が、	T22、SD5 T22、SD6 T22、SD6 T22、SD6 T22、SD6 T22、SD7 T22、SD7 T22、SD7 T22、SD7 T22、SD7 T22、SD7 T22、SD7 T22、SD8 T22、SD8 T22、SD8 T22、SD9 T21、SD9 T22、SD9 T22、SD9 T22、SD9 T21、SD9 T22、SD9 T21、SD9 T22、SD9 T22、SD9 T21、SD9 T22、SD9 T22、SD9 T22、SD9 T22、SD9 T21, SD9 T22、SD9 T22 SD9	磁素磁陶 物磁 胸 胸 胸 胸 胸 胸 胸 胸 胸 胸 胸 胸 胸 胸 胸 胸 胸 胸	肥前青磁、器種不明、江戸時代  唐津、灰釉、皿?江戸時代  唐津、灰釉、皿?江戸時代  唐津、灰釉、皿?江戸時代  唐津、灰釉、皿?江戸時代  上瀬ヶ付皿、江戸時代  大堀相馬、白濁釉碗、18 世紀後半以降  肥前染付面、仄戸時代  大堀相馬、灰釉碗、18 世紀前半  大堀相馬、灰釉金、18 世紀前半  肥前染付碗、江戸時代  肥前染付碗、江戸時代  郷戸、擂鉢、鉄釉・片口付、18 世紀前半  肥前染付碗、江戸時代  瀬戸、擂鉢、鉄釉・片口付、18 世紀前半  肥前染付、江戸時代  和声楽は、呉須鉢絵満茶碗、草花文、イッチン、19 世紀後半  肥前染付、焼き継ぎ、19 世紀代?  高台殿片、染付、江戸時代  入野相馬碗、淡青色紙・18 世紀代  投統、産地時期不明  美濃、灰釉、大鉢か皿、17 世紀代  養地不明、鉄釉精密、近世 産地不明、銀絵染付皿、19 世紀後半代  大堀相馬、灰釉血、18 世紀代  流花、天釉、大銀石、17 世紀代  養地不明、鉄釉精密、近世 産地不明、鉄釉精密、近世 産地不明、銀絵染付皿、19 世紀後半代  大堀相馬、灰釉血、18 世紀代  流佐見、染付拡頻、18 世紀代  沈佐見、染付拡頻、18 世紀代  沈佐見、染付拡頻、18 世紀代  北徳代、、ジン唐草文、蛇目凹高台、見込みに環状松竹梅文、朱書き、19世紀、底径8.7cm	出土位置P1 出土位置P3 工事立会資料 工事立会資料 陶磁器2
225 226 227 228 229 230 231 232 233 235 236 237 240 241 242 243 244 245 246 247 248 250 251 252 253	自百石石が、大田の大田の大田の大田の大田の大田の大田の大田の大田の大田の大田の大田の大田の大	T22、SD5 T22、SD6 T22、SD6 T22、SD6 T22、SD6 T22、SD7 T22、SD7 T22、SD7 T22、SD7 T22、SD7 T22、SD7 T22、SD7 T22、SD7 T22、SD8 T22、SD8 T22、SD9 T21、SD9 T22、SD9 T21、SD9 T22、SD9 T21、SD9 T22、SD9 T21、SD9 T22、SD9 T21、SD9 T22、SD9 T22、SD9 T22、SD9 T21、SD9 T22、SD9 T21、SD9 T21、SD9 T22、SD9 T21、SD9 T22、SD9 T21、SD9 T21、SD9 T22、SD9 T21、SD9 T21、SD9 T21、SD9 T21、SD9 T21、SD9 T21、SD9 T21、SD9 T21、SD9 T21、SD9 T21、III	磁素磁陶陶磁陶陶陶陶 内面素陶磁器器器器器器器器器器器器器器器器器器器器器器器器器器器器器器器器器器器器	肥前青磁、器種不明、江戸時代 唐華、灰釉、皿?江戸時代 唐華、灰釉、皿?江戸時代 唐華、灰釉、皿?江戸時代 唐華、灰釉、皿?江戸時代 唐瀬、灰釉原、白濁釉碗、18 世紀後半以降 肥前染付皿、江戸時代 片窯、鉄釉矯鉢、17 世紀代 大堀相馬、灰釉碗、18 世紀市 大堀相馬、灰釉の、18 世紀市 大堀相馬、灰釉の、18 世紀市 大堀相馬、灰釉の、18 世紀市 大堀相馬、灰和馬、白濁稚碗、18 世紀市 大堀相馬、灰和馬、白濁稚碗、18 世紀市 に前染付碗、江戸時代 瀬戸、擂鉢、鉄釉、片口付、18 世紀前半 瀬戸美濃、呉須鉄絵筒茶碗、草花文、イッチン、19 世紀後半 肥前染付碗、江戸時代 五宜土器?瓶類、江戸時代 五宜土器?瓶類、江戸時代 五宜土器?瓶類、江戸時代? 小野相馬碗、淡青色釉、18 世紀代 産地不明、淡青色釉、18 世紀代 建地不明、砂線染付面、19 世紀後半代 大城相馬、灰和皿、18 世紀代 産地不明、砂線染付面、19 世紀後半代 大城相馬、灰和皿、18 世紀代 定境日、染付瓶類、18 世紀代 に前染付流、第2 小側 北京 大学 大塚和馬、灰和皿、18 世紀代 定庭地不明、砂線染付皿、19 世紀後半代 大城相馬、灰和皿、18 世紀代 に前染付、京シの庫草文、蛇目凹高台、見込みに環状松竹梅文、朱書き、19世紀、底径8.7cm 肥前確保、京シの庫草文、蛇目凹高台、見込みに環状松竹梅文、朱書き、19世紀、底径8.7cm	出土位置P1 出土位置P3 工事立会資料 内破器2 陶磁器2
225 226 227 228 229 230 231 232 233 234 235 236 237 238 240 241 242 243 244 245 246 247 248 249 250 250 250 251 251	自石石域域三のの丸丸丸丸丸丸丸丸丸丸丸丸丸丸丸丸丸丸丸丸丸丸丸丸丸丸丸丸丸丸丸丸丸	T22、SD5 T22、SD5 T22、SD6 T22、SD6 T22、SD6 T22、SD7 T22、SD7 T22、SD7 T22、SD7 T22、SD7 T22、SD7 T22、SD7 T22、SD7 T22、SD9 T21、SD9 T22、SD9 T22、SD9 T21、SD9 T22、SD9 T21、SD9 T22、SD9 T21、SD9 T21、SD9 T22、SD9 T21、SD9 T21、SD9 T22、SD9 T21、SD9 T21、SD1 T21 T21 T22 T22 T22 T22 T21 T21,推乱 T1、推乱 T1、推乱 T1、推乱	磁素磁陶陶磁陶陶陶陶文本陶磁陶陶磁器器器器器器器器器器器器器器器器器器器器器器器器器	肥前青磁、器種不明、江戸時代 原津、灰釉、皿?江戸時代 唐津、灰釉、皿?江戸時代 唐津、灰釉、皿?江戸時代 唐津、灰釉、皿?江戸時代 唐楽、鉄釉描露、18世紀後半以降 肥前染付皿、江戸時代 左樂、鉄釉描露、17世紀代 大堀相馬、反釉生版、19世紀前半 大堀相馬、反釉生版、19世紀前半 大堀相馬、白濁釉碗、18世紀後半以降 瓦質士器? 肥前、透明釉碗、17世紀後半~18世紀前半 瀬戸美濃、呉須鉄絵前茶碗、草花文、イッチン、19世紀後半 肥前染付、焼き継ぎ、19世紀代? 高台破片、染付、江戸時代 瓦質士器? 瓶類、江戸時代?  大野相馬碗、淡青色釉、18世紀 東質士器? 瓶類、江戸時代 電資士器? 瓶類、江戸時代?  大野相馬碗、淡青色和、18世紀 東質士器? 瓶類、江戸時代?  大野相馬碗、淡青色和、18世紀 産地不明、鉄釉描涂、近世 産地不明、鉄釉描涂、近世 産地不明、駅線が付加、19世紀後半代 大堀相馬、広田 産地不明、駅和、18世紀代 波佐見、染付瓶類、18世紀代 波佐見、染付瓶類、18世紀代	出土位置P2 出土位置P1 出土位置P3 工事立会資料 工事立会資料 内廢磁器2 内廢磁器2 内磁器2
225 226 227 228 229 230 231 231 232 235 236 237 240 241 242 243 244 245 246 247 248 250 251 252 252 253 254 255 254 255	白白石が城三のの九丸丸丸丸丸丸丸丸丸丸丸丸丸丸丸丸丸丸丸丸丸丸丸丸丸丸丸丸丸丸丸丸丸丸丸	T22、SD5 T22、SD5 T22、SD6 T22、SD6 T22、SD6 T22、SD7 T22、SD7 T22、SD7 T22、SD7 T22、SD7 T22、SD7 T22、SD7 T22、SD7 T22、SD9 T22、SD8 T22、SD8 T22、SD8 T22、SD9 T22、SD9 T22、SD9 T22、SD9 T22、SD9 T22、SD9 T21、SD9 T22、SD9 T22、SD1 T22 T21、T21 T22 T22、T21、T21 T21 T21 T21 T21 T21 T21 T21 T21 T21	磁素磁陶物経器器器器器器器器器器器器器器器器器器器器器器器器器器器器器器器器器器器器	肥前青磁、器種不明、江戸時代  唐庫、灰釉、皿?江戸時代  唐庫、灰釉、皿?江戸時代  唐庫、灰釉、皿?江戸時代  唐庫、灰釉、皿?江戸時代  唐座、灰釉、皿?江戸時代  定案、鉄無描鑑、17世紀代  大堀相馬、灰釉碗、18世紀代  大堀相馬、灰釉碗、18世紀前半  大堀相馬、灰釉金、18世紀前半  大堀相馬、内一時代  原前※行碗、江戸時代  原戸、紫熱、共口付、18世紀前半  瀬戸渓線、呉須鉄絵筒茶碗、草花文、イッチン、19世紀後半  肥前※付碗、江戸時代  高合破片、染付、江戸時代  五質土器・取頼、江戸時代  五質土器・取頼、江戸時代  小野相馬碗、淡青色釉・18世紀  上間がよけ、焼き継ぎ、19世紀代?  露軸、一般ので、素をしまり、大田・大田・大田・大田・大田・大田・大田・大田・大田・大田・大田・大田・大田・大	出土位置P2 出土位置P1 出土位置P3 工事立会資料 工事立会資料 内施器2 内施器2 内施器2 内施器2
225 226 227 228 229 230 231 232 233 234 235 236 237 238 240 241 242 243 244 245 246 251 252 253 253 254 255 255 255	自自有行動の大力、大力、大力、大力、大力、大力、大力、大力、大力、大力、大力、大力、大力、大	T22、SD5 T22、SD6 T22、SD6 T22、SD6 T22、SD6 T22、SD7 T22、SD7 T22、SD7 T22、SD7 T22、SD7 T22、SD7 T22、SD7 T22、SD8 T22、SD8 T22、SD9 T22、SD9 T22、SD9 T22、SD9 T22、SD9 T22、SD9 T22、SD9 T22、SD9 T21、SD9 T22、SD9 T22、SD9 T21、SD9 T22、SD9 T21, KD9 T22, KD9 T21, KD9 T22, KD9 T21, K	磁素磁陶陶磁胸 阿爾爾 医骨髓	肥前青磁、器種不明、江戸時代 唐津、灰釉、皿?江戸時代 唐津、灰釉、皿?江戸時代 唐津、灰釉、皿?江戸時代 唐津、灰釉、皿?江戸時代 医前条付皿、江戸時代 上瀬州馬、 白濁釉碗、18 世紀後半以降 肥前染付皿、江戸時代 大堀相馬、灰釉碗、18 世紀前半 大堀相馬、灰釉施、18 世紀前半 下前、透明釉碗、17 世紀後半~18 世紀前半 肥前染付碗、江戸時代 瀬戸、擂鉢、鉄釉・片口付、18 世紀前半 肥前染付碗、江戸時代 瀬戸、擂鉢、鉄香、株・ 芹口付、18 世紀前半 肥前染付、江戸時代 、海戸・器・ 製須鉄絵画茶碗、草花文、イッチン、19 世紀後半 肥前染付、焼き継ぎ、19 世紀代? 高台殴片、染付、江戸時代 入野相馬碗、淡青色紙・18 世紀 ・原前染付碗、菊花文 217 世紀代? 鉄組、産地時期不明 美濃、灰釉、大体か皿、17 世紀代 産地不明、鉄船擂祭、近世 産地不明、鉄船擂祭、近世 産地不明、鉄船擂祭、近世 産地不明、鉄船擂祭、近世 産地不明、銀絵染付皿、19 世紀後半代 大堀相馬、灰釉血、18 世紀代 液佐見、染付拡頻、18 世紀代 肥前染付、ミジン唐草文、蛇目凹高台、見込みに環状松竹梅文、朱書き、19世紀、底径8.7cm 肥前整器、輪花皿、口さび、18 世紀後半~19 世紀前半 蓮地子照、東須鉄絵皿、19 世紀前半? 薩地不明、炎行皿、幕末~明治 距前染付皿、蛇目凹高台。輪花、風景文、19 世紀前半	出土位置P1 出土位置P3 工事立会資料 工事立会資料 国磁器2 陶磁器2 陶磁器2 陶磁器1
225 226 227 228 229 230 231 232 235 236 237 240 241 242 242 243 245 250 251 252 253 254 255 255 256 257	自百石石石石石石石石石石石石石石石石石石石石石域域三ののののののののののののののの	T22、SD5 T22、SD6 T22、SD6 T22、SD6 T22、SD6 T22、SD7 T22、SD7 T22、SD7 T22、SD7 T22、SD7 T22、SD7 T22、SD7 T22、SD8 T22、SD8 T22、SD9 T22、SD9 T22、SD9 T22、SD9 T22、SD9 T22、SD9 T22、SD9 T22、SD9 T21、SD9 T22、SD9 T22、SD9 T21、SD9 T22、SD9 T21、SD9 T22、SD9 T21, EBD9 T21, EBD9 EBD9 EBD9 EBD9 EBD9 EBD9 EBD9 EBD9	磁素磁陶陶磁陶陶陶陶 内面素陶磁素构成 的 网络黑器 医骨髓 医骨髓 医骨髓 医骨髓 医甲基甲基甲基甲基甲基甲基甲基甲基甲基甲基甲基甲基甲基甲基甲基甲基甲基甲基甲基	肥前青磁、器種不明、江戸時代 唐華、灰釉、皿?江戸時代 唐華、灰釉、皿?江戸時代 唐華、灰釉、皿?江戸時代 唐華、灰釉、皿?江戸時代 唐瀬、灰釉原、白濁釉碗、18 世紀後半以降 肥前染付皿、江戸時代 片窯、鉄釉描鉢、17 世紀代 大堀相馬、灰釉碗、18 世紀代 大堀相馬、灰釉碗、18 世紀前半 大堀相馬、灰釉・瓶、19 世紀前半 肥前染付碗、江戸時代 夏丁 擂鉢、鉄釉、片口付、18 世紀前半 肥前染付碗、江戸時代 瀬戸・擂鉢、鉄釉、片口付、18 世紀前半 瀬戸美濃、呉須鉄絵筒茶碗、草花文、イッチン、19 世紀後半 肥前染付碗、江戸時代 夏丁 井谷、泉村、江戸時代 夏丁 井谷、泉村、江戸時代 夏丁 井谷、泉村、江戸時代 東山 新水 大手の畑、北戸時代 東地 明、淡青色釉、18 世紀 肥前染付碗、菊花文 17 世紀代 建地 明、泉釉醤か、近世 産地不明、初絵染付皿、19 世紀代 変地時期不明 美濃、灰釉、大鉢の皿、17 世紀代 変地の場の場の場の場の場の場の場の場の場の場の場の場の場の場の場の場の場の場の場	出土位置P1 出土位置P1 出土位置P3 工事立会資料 陶磁器2 陶磁器2 陶磁器2 陶磁器1 陶磁器1
225 226 227 228 229 230 231 232 233 234 235 236 237 240 241 242 243 244 245 250 251 252 253 254 255 255 256	自自有行動の大力、大力、大力、大力、大力、大力、大力、大力、大力、大力、大力、大力、大力、大	T22、SD5 T22、SD5 T22、SD6 T22、SD6 T22、SD6 T22、SD6 T22、SD7 T22、SD7 T22、SD7 T22、SD7 T22、SD7 T22、SD7 T22、SD7 T22、SD9 T22、SD9 T22、SD9 T22、SD9 T22、SD9 T22、SD9 T22、SD9 T22、SD9 T22、SD9 T21 T22 T22 T22 T21 T22 T21 T22 T21 T21	磁素磁陶陶磁胸 阿爾爾 医骨髓	肥前青磁、器種不明、江戸時代 唐津、灰釉、皿?江戸時代 唐津、灰釉、皿?江戸時代 唐津、灰釉、皿?江戸時代 唐津、灰釉、皿?江戸時代 医前条付皿、江戸時代 上瀬州馬、 白濁釉碗、18 世紀後半以降 肥前染付皿、江戸時代 大堀相馬、灰釉碗、18 世紀前半 大堀相馬、灰釉施、18 世紀前半 下前、透明釉碗、17 世紀後半~18 世紀前半 肥前染付碗、江戸時代 瀬戸、擂鉢、鉄釉・片口付、18 世紀前半 肥前染付碗、江戸時代 瀬戸、擂鉢、鉄香、株・ 芹口付、18 世紀前半 肥前染付、江戸時代 、海戸・器・ 製須鉄絵画茶碗、草花文、イッチン、19 世紀後半 肥前染付、焼き継ぎ、19 世紀代? 高台殴片、染付、江戸時代 入野相馬碗、淡青色紙・18 世紀 ・原前染付碗、菊花文 217 世紀代? 鉄組、産地時期不明 美濃、灰釉、大体か皿、17 世紀代 産地不明、鉄船擂祭、近世 産地不明、鉄船擂祭、近世 産地不明、鉄船擂祭、近世 産地不明、鉄船擂祭、近世 産地不明、銀絵染付皿、19 世紀後半代 大堀相馬、灰釉血、18 世紀代 液佐見、染付拡頻、18 世紀代 肥前染付、ミジン唐草文、蛇目凹高台、見込みに環状松竹梅文、朱書き、19世紀、底径8.7cm 肥前整器、輪花皿、口さび、18 世紀後半~19 世紀前半 蓮地子照、東須鉄絵皿、19 世紀前半? 薩地不明、炎行皿、幕末~明治 距前染付皿、蛇目凹高台。輪花、風景文、19 世紀前半	出土位置P1 出土位置P3 工事立会資料 工事立会資料 国磁器2 陶磁器2 陶磁器2 陶磁器1
225 226 227 228 229 230 231 232 235 236 237 240 241 242 245 245 250 251 252 253 254 255 254 255 256 257 258 259 260 260 260 260 260 260 260 260 260 260	自白石石石石石石石石石石石石石石石石石石石石石石石石石石石石石石石石石石石石	T22、SD5 T22、SD5 T22、SD6 T22、SD6 T22、SD6 T22、SD6 T22、SD7 T22、SD7 T22、SD7 T22、SD7 T22、SD7 T22、SD7 T22、SD7 T22、SD9 T22、SD9 T22、SD9 T22、SD9 T22、SD9 T22、SD9 T22、SD9 T22、SD9 T22、SD9 T21 T22 T22 T22 T21 T22 T21 T22 T21 T21	磁素磁陶陶磁陶 胸胸 陶 陶 文 海	肥前青磁、器種不明、江戸時代 唐津、灰釉、皿?江戸時代 唐津、灰釉、皿?江戸時代 唐津、灰釉、皿?江戸時代 唐津、灰釉、皿?江戸時代 唐楽、鉄釉擂练、18世紀後半以降 肥前染付皿、近丁時代 大堀相馬、灰釉症 版、18世紀代 大堀相馬、灰釉症 版、18世紀前半 大堀相馬、灰釉症 版、18世紀前半 大堀相馬、白濁釉碗、18世紀後半以降 夏賀士器。白濁釉碗、18世紀後半以降 夏賀士器。東須鉄絵筒茶碗、草花文、イッチン、19世紀後半 肥前染付、焼き継ぎ、19世紀代? 高合破片、染付、江戸時代 寛宜士器?瓶類、江戸時代 寛宜士器?瓶類、江戸時代 夏賀士器?瓶類、江戸時代 東省大田・京田・京田・京田・京田・京田・京田・京田・京田・京田・京田・京田・京田・京田	出土位置P1 出土位置P1 出土位置P3 工事立会資料 工事立会資料 問政器2 問政器2 問政器2 問政器1 陽成器1 陽成器1
225 226 227 228 229 230 231 232 233 234 240 241 242 242 243 245 255 256 257 258 259 259 260 261	自白石石石域域三ののの丸丸丸丸丸丸丸丸丸丸丸丸丸丸丸丸丸丸丸丸丸丸丸丸丸丸丸丸丸丸丸	T22、SD5 T22、SD5 T22、SD6 T22、SD6 T22、SD6 T22、SD6 T22、SD7 T22、SD7 T22、SD7 T22、SD7 T22、SD7 T22、SD7 T22、SD7 T22、SD8 T22、SD8 T22、SD8 T22、SD8 T22、SD9 T22、SD9 T22、SD9 T22、SD9 T22、SD9 T22、SD9 T22、SD9 T22、SD9 T21、SD9 T22、SD9 T22、SD9 T21、SD9 T22、SD9 T21、SD9 T22、SD9 T21、SD9 T22、SD9 T21、SD9 T21、SD9 T22、SD9 T21、SD9 T21、SD9 T22、SD9 T21、SD9 T21、SD9 T22、SD9 T22、SD9 T21、SD9 T22、SD9 T22、SD9 T22、SD9 T22、SD9 T21、SD9 T22、SD9 T22 SD9 T22 S	磁素磁陶陶磁陶陶陶文 阿爾茲爾 一個	肥前青磁、器種不明、江戸時代 唐華、灰釉、皿?江戸時代 唐華、灰釉、皿?江戸時代 唐華、灰釉、皿?江戸時代 唐華、灰釉、皿?江戸時代 唐瀬、灰釉病、18世紀後半以降 肥前染付皿、江戸時代 大堀相馬、灰釉碗、18世紀代 大堀相馬、灰釉病、18世紀前半 大堀相馬、灰釉赤流、19世紀前半 肥前染付碗、江戸時代 夏丁 擂鉢、鉄釉、片口付、18世紀前半 肥前染付碗、江戸時代 瀬戸、擂鉢、鉄釉、片口付、18世紀前半 瀬戸美濃、呉須鉄絵筒茶碗、草花文、イッチン、19世紀後半 肥前染付碗、江戸時代 五宜土器?和類、江戸時代 五宜土器?和類、江戸時代 五宜土器?和類、江戸時代 五宜土器?和類、江戸時代 五宜土器?和類、江戸時代 五宜土器?和類、江戸時代 五度土器。和類、江戸時代 五度土器。和類、江戸時代 五度土器。和類、江戸時代 大堀相馬阪、灰布山、18世紀代 建地平明、炭釉精が、近世 産地不明、初絵染付皿、19世紀後半代 大堀相馬、灰和皿、18世紀代 波佐見、染付瓶類、18世紀代 流佐見、染付瓶類、18世紀代 大堀相馬、灰和皿、18世紀代 渡佐見、染付瓶類、18世紀代 東海洋波が原草文、蛇目凹高台、見込みに環状松竹梅文、朱書き、19世紀、底径8.7cm 肥前染付皿、ジン/唐草文、蛇目凹高台で19世紀前半 銅版転写、皿?19世紀後半 肥前染付皿、ジン/唐草文、蛇目凹高台で19世紀中頃 大堀相馬、灰釉土瓶、19世紀前半 銅版転写、皿?19世紀後半 肥前染付皿、ミン/唐草文、蛇目凹高台で19世紀中頃 大堀相馬、灰釉土瓶、19世紀前半	出土位置P1 出土位置P3 工事立会資料 工事立会資料 内破器2 内破器2 内破器2 内破器1 内破器1 内破器1
225 226 227 228 229 230 231 232 235 236 237 238 240 241 242 243 244 245 250 251 252 253 254 255 256 257 258 259 260 261 261 262 261 261 261 261 261 261 261	白白石石域域三ののののののののののののののののののののののののののののののののの	T22、SD5 T22、SD5 T22、SD6 T22、SD6 T22、SD6 T22、SD6 T22、SD7 T22、SD7 T22、SD7 T22、SD7 T22、SD7 T22、SD7 T22、SD7 T22、SD9 T21、SD9 T22、SD9 T22、SD9 T21、SD9 T22、SD9 T22、SD9 T21、SD9 T22、SD9 T21、SD9 T22、SD9 T21、SD9 T22、SD9 T21、SD1 T1, 推乱	磁素磁陶陶器器間陶陶素陶磁性素的磁性素的 医肠肠 医肠肠肠 医肠肠肠肠肠肠肠肠肠肠肠肠肠肠肠肠肠肠肠肠肠肠肠肠肠肠肠	肥前青磁、器種不明、江戸時代 唐庫、灰釉、皿?江戸時代 唐庫、灰釉、皿?江戸時代 唐庫、灰釉、皿?江戸時代 唐庫、灰釉、皿?江戸時代 唐楽、鉄稲馬、白濁種頗、18 世紀後半以降 肥前染付皿、江戸時代 大堀相馬、灰釉・腫、19 世紀前半 大堀相馬、灰釉・腫、19 世紀前半 大堀相馬、灰釉・腫、19 世紀前半 取前※付碗、江戸時代 瀬戸・護途、鉄和、片口付、18 世紀前半 瀬戸美濃、呉須鉄絵筒茶碗、草花文、イッチン、19 世紀後半 肥前染付・焼き継ぎ、19 世紀代? 高合破片、染付・江戸時代 五質士器・取頼、江戸時代 五質士器・取頼、江戸時代 五質十二年、和類、近戸時代 大堀相馬、大倉か皿、17 世紀代? 金地不明、剥縮染付皿、17 世紀代? 金地不明、鉄稲塘外・近世・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	出土位置P1 出土位置P3 工事立会資料 工事立会資料 内破器2 内破器2 内破器2 内破器1 内破器1 内破器1 内破器1 内破器1
225 226 227 228 229 230 232 233 234 236 237 238 240 241 242 243 244 245 250 251 252 253 254 255 256 257 258 258 259 260 261 262 262 263 264 265 266 267 268 268 268 268 268 268 268 268 268 268	自自石石石石 (	T22、SD5 T22、SD5 T22、SD6 T22、SD6 T22、SD6 T22、SD7 T22、SD7 T22、SD7 T22、SD7 T22、SD7 T22、SD7 T22、SD7 T22、SD9 T21、SD9 T22、SD9 T22、SD9 T21、SD9 T22、SD9 T22 T22 T22 T22、SD9 T22 T22 T22 T22 T22 T22 T22 T22 T22 T2	磁素磁陶陶磁陶陶陶陶陶陶陶陶陶陶陶、	肥前青磁、器種不明、江戸時代 唐蓮、灰釉、皿?江戸時代 唐蓮、灰釉、皿?江戸時代 唐蓮、灰釉、皿?江戸時代 唐蓮、灰釉、皿?江戸時代 唐瀬、灰釉鏡、18世紀後半以降 肥前染付皿、江戸時代 大堀相馬、灰釉鏡、18世紀代 大堀相馬、灰釉金、18世紀前半 大堀相馬、灰釉土瓶、19世紀前半 瀬戸渓線、呉須鉄絵筒茶碗、草花文、イッチン、19世紀後半 肥前染付硫、江戸時代 瀬戸渓線、呉須鉄絵筒茶碗、草花文、イッチン、19世紀後半 肥前染付、焼き継ぎ、19世紀代? 高合破片、染付、江戸時代 五質土器? 瓶類、江戸時代 五質土器? 瓶類、江戸時代 五質土器? 瓶類、江戸時代 東質土器? 瓶類、江戸時代 五質土器? 瓶類、江戸時代 大堀相馬、灰木かつ皿、17世紀代? 鉄純、産地時期不明 美濃、灰明、大鉄か皿、17世紀代 産地不明、銀彩雑活、近世 産地不明、明砂絵が開か、近世 産地不明、駅和擂鉢、近世 産地不明、駅和擂鉢、近世 産地不明、明砂絵が上れている。 北戸寺代、上戸時代 北戸寺代、大堀相馬、灰畑、18世紀代 産地本明、東付重類、18世紀代 産地不明、明砂絵館、18世紀代 産地不明、明砂絵面、19世紀前半 産地不明、泉付重類、18世紀代 定度見、架付瓶類、展生紀代 定度見、実付瓶類、19世紀前半 東戸美濃、呉須鉄絵皿、19世紀前半? 産地不明、染付皿、薬木一明治 肥前染付皿、蛇目凹高台?輪花、風景文、19世紀前半 頻販転写、皿?19世紀後半 肥前染付皿、蛇目凹高台?輪花、風景文、19世紀前半 頻販転写、皿?19世紀後半 た瀬中美濃、東河鉄路皿、19世紀前半 東海大郷和馬、灰和土瓶、19世紀前半 鉄糖、壺か甕、産地時期不明 地方窯、折り緑鉢? 鉄釉、目の地に奈足がとれている、胎土に白色粒子、近世? 岸窓、掘鉢、鉄釉、17世紀	出土位置P1 出土位置P3 工事立会資料 工事立会資料 四數器2 陶磁器2 陶磁器2 陶磁器1 陶磁器1 陶磁器1 陶磁器1
225 226 227 228 229 230 231 232 235 236 237 240 241 242 242 245 246 247 250 251 252 253 254 255 256 257 258 256 257 258 259 260 261 262 263 263 264 264 265 266 266 267 267 268 268 268 268 268 268 268 268 268 268	白白石石域域三ののののののののののののののののののののののののののののののののの	T22、SD5 T22、SD5 T22、SD6 T22、SD6 T22、SD6 T22、SD6 T22、SD7 T22、SD7 T22、SD7 T22、SD7 T22、SD7 T22、SD7 T22、SD7 T22、SD9 T21、SD9 T22、SD9 T22、SD9 T21、SD9 T22、SD9 T22、SD9 T21、SD9 T22、SD9 T21、SD9 T22、SD9 T21、SD9 T22、SD9 T21、SD1 T1, 推乱	磁素磁陶陶器器間陶陶素陶磁性素的磁性素的 医肠肠 医肠肠肠 医肠肠肠肠肠肠肠肠肠肠肠肠肠肠肠肠肠肠肠肠肠肠肠肠肠肠肠	肥前青磁、器種不明、江戸時代 唐庫、灰釉、皿?江戸時代 唐庫、灰釉、皿?江戸時代 唐庫、灰釉、皿?江戸時代 唐庫、灰釉、皿?江戸時代 唐楽、鉄稲馬、白濁種頗、18 世紀後半以降 肥前染付皿、江戸時代 大堀相馬、灰釉・腫、19 世紀前半 大堀相馬、灰釉・腫、19 世紀前半 大堀相馬、灰釉・腫、19 世紀前半 取前※付碗、江戸時代 瀬戸・護途、鉄和、片口付、18 世紀前半 瀬戸美濃、呉須鉄絵筒茶碗、草花文、イッチン、19 世紀後半 肥前染付・焼き継ぎ、19 世紀代? 高合破片、染付・江戸時代 五質士器・取頼、江戸時代 五質士器・取頼、江戸時代 五質十二年、和類、近戸時代 大堀相馬、大倉か皿、17 世紀代? 金地不明、剥縮染付皿、17 世紀代? 金地不明、鉄稲塘外・近世・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	出土位置P2 出土位置P1 出土位置P3 工事立会資料 西磁器2 陶磁器2 陶磁器2 陶磁器1 陶磁器1 陶磁器1 陶磁器1

# 第4章 自然科学分析1 馬牛沼遺跡における放射性炭素年代 (AMS 測定)

(株) 加速器分析研究所

#### 1 測定対象試料

馬牛沼遺跡は、宮城県白石市斉川字馬牛に所在する。測定対象試料は、沼底から採取された木片 (樹木 1:IAAA-110513、樹木 4:IAAA-110514、樹木 6:IAAA-110515) の合計 3 点である (表 1)。樹木 1、樹木 6 は樹皮が確認され、その直下の木質部より試料が採取された。

## 2 測定の意義

沼の形成年代を探る。

### 3 化学処理工程

- (1) メス・ピンセットを使い、根・土等の付着物を取り除く。
- (2) 酸 アルカリ 酸(AAA:Acid Alkali Acid)処理により不純物を化学的に取り除く。その後、超純水で中性になるまで希釈し、乾燥させる。AAA処理における酸処理では、通常  $1 \text{mol}/\ell$  (1 M) の塩酸(HCl)を用いる。アルカリ処理では水酸化ナトリウム(NaOH)水溶液を用い、0.001 M から 1 M まで徐々に濃度を上げながら処理を行う。アルカリ濃度が 1 M に達した時には 1 M 不満の場合は 1 M と表 1 C に記載する。
- (3) 試料を燃焼させ、二酸化炭素(CO2)を発生させる。
- (4) 真空ラインで二酸化炭素を精製する。
- (5) 精製した二酸化炭素を鉄を触媒として水素で還元し、グラファイト(C) を生成させる。
- (6) グラファイトを内径 1mm のカソードにハンドプレス機で詰め、それをホイールにはめ込み、 測定装置に装着する。

#### 4 測定方法

加速器をベースとした  $^{14}$ C-AMS 専用装置(NEC 社製)を使用し、 $^{14}$ C の計数、 $^{13}$ C 濃度( $^{13}$ C/ $^{12}$ C)、 $^{14}$ C 濃度( $^{14}$ C/ $^{12}$ C)の測定を行う。測定では、米国国立標準局(NIST)から提供されたシュウ酸(HOx II)を標準試料とする。この標準試料とバックグラウンド試料の測定も同時に実施する。

#### 5 算出方法

- (1)  $\delta^{13}$ C は、試料炭素の  $^{13}$ C 濃度 ( $^{13}$ C/ $^{12}$ C) を測定し、基準試料からのずれを千分偏差(‰)で表した値である(表 1)。AMS 装置による測定値を用い、表中に「AMS」と注記する。
- (2)  $^{14}$ C 年代(Libby Age:yrBP)は、過去の大気中  $^{14}$ C 濃度が一定であったと仮定して測定され、 1950 年を基準年 (0yrBP) として遡る年代である。年代値の算出には、Libby の半減期 (5568 年) を使用する(Stuiver and Polach 1977)。 $^{14}$ C 年代は $\delta$   $^{13}$ C によって同位体効果を補正する必要が

ある。補正した値を表 1 に、補正していない値を参考値として表 2 に示した。 $^{14}$ C 年代と誤差は、下 1 桁を丸めて 10 年単位で表示される。また、 $^{14}$ C 年代の誤差( $\pm$   $1\sigma$ )は、試料の  $^{14}$ C 年代がその誤差範囲に入る確率が 68.2%であることを意味する。

- (3) pMC (percent Modern Carbon) は、標準現代炭素に対する試料炭素の  $^{14}$ C 濃度の割合である。 pMC が小さい( $^{14}$ C が少ない)ほど古い年代を示し、pMC が 100 以上( $^{14}$ C の量が標準現代炭素と同等以上)の場合 Modern とする。この値も  $\delta$   $^{13}$ C によって補正する必要があるため、補正した値を表 1 に、補正していない値を参考値として表 2 に示した。
- (4) 暦年較正年代とは、年代が既知の試料の  $^{14}$ C 濃度を元に描かれた較正曲線と照らし合わせ、過去の  $^{14}$ C 濃度変化などを補正し、実年代に近づけた値である。暦年較正年代は、 $^{14}$ C 年代に対応する較正曲線上の暦年代範囲であり、 $^{14}$ C 標準偏差( $^{14}$ C 年代に対応する較正曲線上の暦年代範囲であり、 $^{14}$ C 年代、横軸が暦年較正年代を表す。暦年較正プログラムに入力される値は、 $^{13}$ C 補正を行い、下一桁を丸めない  $^{14}$ C 年代値である。なお、較正曲線および較正プログラムは、データの蓄積によって更新される。また、プログラムの種類によっても結果が異なるため、年代の活用にあたってはその種類とバージョンを確認する必要がある。ここでは、暦年較正年代の計算に、 $^{14}$ C 年代の分ので表である。を用した。暦年較正年代については、特定のデータベース、プログラムに依存する点を考慮し、プログラムに入力する値とともに参考値として表2に示した。暦年較正年代は、 $^{14}$ C 年代に基づいて較正(calibrate)された年代値であることを明示するために「cal BC/AD」(または「cal BP」)という単位で表される。

#### 6 測定結果

試料の  $^{14}$ C 年代は、樹木 1 が  $870 \pm 20$  yr BP、樹木 4 が  $9150 \pm 30$  yr BP、樹木 6 が  $940 \pm 20$  yr BP である。樹木 1 と樹木 6 はある程度近い年代値であるが、樹木 4 はこれらより大幅に古い値となっている。暦年較正年代( $1\sigma$ )は、樹木 1 が  $1160 \sim 1210$  cal AD の範囲、樹木 4 が  $8425 \sim 8293$  cal BC の間に 3 の範囲、樹木 6 が  $1038 \sim 1152$  cal AD の間に 3 つの範囲で示され、樹木 1 は古代から中世、樹木 4 は縄文時代早期、樹木 6 は古代に相当する値である。

試料の炭素含有率はすべて50%を超え、化学処理、測定上の問題は認められない。

表 1

測定番号		試料名	採取場所	試料	処理方法	δ <sup>13</sup> C (‰)	δ <sup>13</sup> C補正あり		
				形態		(AMS)	Libby Age (yrBP)	pMC (%)	
IA.	AA-110513	樹木1	馬牛沼遺跡 沼底	木片	AAA	-31.24 ± 0.32	870 ± 20	89.70 ± 0.25	
IA.	AA-110514	樹木4	馬牛沼遺跡 沼底	木片	AAA	-29.83 ± 0.39	9,150 ± 30	31.99 ± 0.14	
IA.	AA-110515	樹木6	馬牛沼遺跡 沼底	木片	AAA	-25.81 ± 0.44	940 ± 20	88.99 ± 0.25	

[#4462]

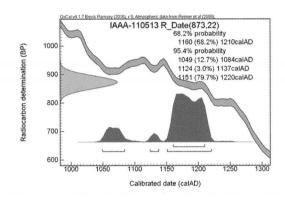
表 2

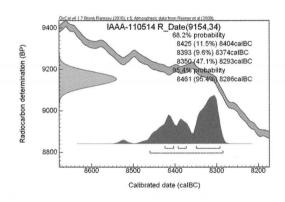
測定番号	δ <sup>13</sup> C補正なし Age (yrBP) pMC (%)		暦年較正用 (vrBP)	1σ暦年代範囲	2σ暦年代範囲		
IAAA-110513	980 ± 20	88.56 ± 0.24	(2)	1160calAD - 1210calAD (68.2%)	1049calAD - 1084calAD (12.7%) 1124calAD - 1137calAD ( 3.0%) 1151calAD - 1220calAD (79.7%)		
IAAA-110514	9,230 ± 30	31.68 ± 0.13		8425calBC - 8404calBC (11.5%) 8393calBC - 8374calBC (9.6%) 8350calBC - 8293calBC (47.1%)	8461calBC - 8286calBC (95.4%)		
IAAA-110515	950 ± 20	88.84 ± 0.23	937 ± 22	1038calAD - 1052calAD (11.5%) 1081calAD - 1128calAD (40.8%) 1134calAD - 1152calAD (15.9%)	1031calAD - 1156calAD (95.4%)		

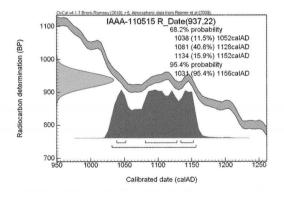
[参考值]

### 文 献

Stuiver M. and Polach H.A. 1977 Discussion: Reporting of <sup>14</sup>C data, *Radiocarbon* 19(3), 355-363 Bronk Ramsey C. 2009 Bayesian analysis of radiocarbon dates, *Radiocarbon* 51(1), 337-360 Reimer, P.J. et al. 2009 IntCal09 and Marine09 radiocarbon age calibration curves, 0-50,000 years cal BP, *Radiocarbon* 51(4), 1111-1150







[参考]暦年較正年代グラフ

## 第4章2 馬牛沼埋没樹の樹種同定

吉川純子(古代の森研究舎)

#### 1 はじめに

馬牛沼は、白石市斎川の馬牛館南麓に位置する沼で、天然の沼かどうかは明らかでないが8世紀末以前に小規模の水域が存在していたとされている。現在は冬期に水を抜いて沼干しが行われている、いわば潅漑用水の溜池となっている。この沼底には埋没樹の存在が知られており、樹種は沼の成立と密接に関連することから、これらの樹木の種類を明らかにするため、埋没樹のうち5点の樹種同定を行った。

樹木1~5の試料採取地点を図1に示した。試料1,2,5 は根株状の一部を、試料3,4 は根株から立ち上がった最上部をそれぞれ小ブロックで切り取り、剃刀で横断面、放射断面、接線断面の3 方向の切片を作成し、ガムクロラールでプレパラートに封入し、生物顕微鏡で観察・同定した。

#### 2 同定結果

木材組織の細胞構造を観察した結果、樹木1はケヤキの根材、樹木2はトネリコ属の根材、樹木3はトネリコ属の根から幹に移行する部分とみられる材、樹木4はハンノキ属ハンノキ節の幹材、樹木5はハンノキ属ハンノキ節の根材であった(表1、写真図版9)。以下に木材解剖学的記載を行う。

<b>秋</b> 1 M	十万年汉倒少倒性	
試料番号	樹種	部位
樹 木 1	ケヤキ	根材
樹 木 2	トネリコ属	根材
樹 木 3	トネリコ属	幹材
樹 木 4	ハンノキ属ハンノキ節	幹材
樹 木 5	ハンノキ属ハンノキ節	根材

表 1 馬牛沼埋没樹の樹種

ハンノキ属ハンノキ節(Alnus sect. Gymnothyrsus): 年輪内に小さい管孔が単独ないし数個放射方向に複合してほぼ均一に配列する散孔材で、横断面で放射組織の大きな集合が目立つ。道管の穿孔板は段数  $10\sim30$  段程度の階段状で、放射組織は単列同性である。樹木 5 は管孔密度がかなり少ないため根材である。

ケヤキ(Zelkova serrata Sieb. et Zucc.): 年輪最初に大きな道管が1列配列し、その後小さい道管が斜めや接線状に配列する環孔材。穿孔板は単一で、小道管にはらせん肥厚がある。放射組織は異性で7~8細胞幅で、上下端に時々結晶細胞がみられる。本試料は小道管がはっきりせず、道管壁がやや薄く抜けた感じで、柔細胞の細胞壁も薄く均質な感じであるため根材と同定した。

トネリコ属(Fraxinus): 年輪最初に大きな道管が1列配列し、小道管が放射方向ないし斜めに数個複合して配列する環孔材で道管の穿孔板は単一である。放射組織は同性で1~3細胞幅で10細胞高程度と比較的短い。樹木3は道管の配列がはっきりし小道管がかなり厚壁でほぼ幹材であるが、樹木2は道管の大きさの違いが少なく、配列はまばらでやや薄壁であることから根材と同定した。

#### 3. 考察

馬牛沼埋没樹の樹種を調査した結果、沼の南側2個体はケヤキとトネリコ属、沼の西側3個体

はトネリコ属 1 個体とハンノキ節 2 個体であった。ケヤキは渓谷林を形成するが地下水位が高い湿地などの場所には生育しない。ハンノキ属ハンノキ節は東北地方に5 種が生育し、ケヤマハンノキなど5 種は山地や渓流沿いに生育し、ハンノキは低地で湿地林を形成する。トネリコ属は東北地方に6 種が生育し、このうちトネリコをはじめとしてほとんどの種類が山地に生育するが、ヤマトアオダモはケヤキ同様渓谷林を形成し、ヤチダモは湿地に生育する。ただしこれら木材の細胞構造学的な種の区別はできない。樹木  $1\sim5$  が同時期に生育していたかどうかの確認はされていないが、少なくとも樹木 1 のケヤキが生育していた時にはこの地点の地下水位は比較的低かったと考えられる。高橋氏の調査によると、馬牛沼は8 世紀末頃から存在していたようだが、天気が続くと干上がる程度の水たまりではないかとしている(高橋 1978)。樹木  $3\sim5$  がある沼の中央付近は水が溜まりやすくハンノキ節やトネリコ属などが湿地林を形成し、地盤が固いとされる南側にはケヤキなどの渓谷林が形成されていた可能性もある。高橋氏によれば、沼の中央付近の樹木はスコップで切れるほど軟らかいが、南側の樹木は大変固い(高橋 1978)との記述があり、固さの違う要因として中央付近の樹木と南側の樹木が生育していた時期が異なる場合が考えられるが、もう一つの要因としては中央付近に湿地林が分布し南側は山地に生育する種類が分布したというように、地点により生育していた種類が異なる場合も考えられる。

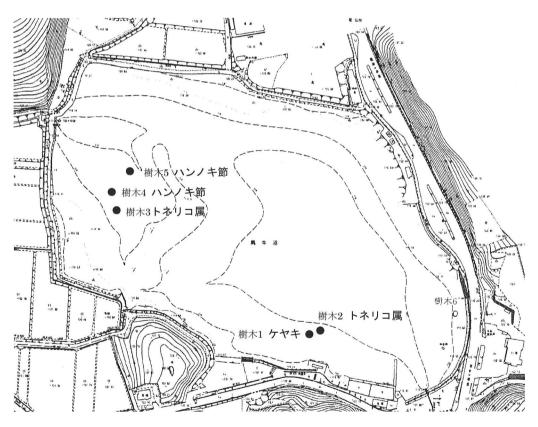


図 1 白石市馬牛沼埋没樹木分布図

#### 引用文献

高橋辰男. 1978. 馬牛館と馬牛沼の伝説. 山麓文化 創刊号. 白石地方文化研究所. 33-40.

## 第5章 ま と め

- 1 大畑遺跡では礎石建物跡の一部、竪穴住居跡が発見され、官衙中心域の一部が確認された。
- 2 矢ノロー里壇は、近世の白石角田街道沿いに位置する一里塚である。塚1基と街道の一部が発見された。
- 3 堰下遺跡、本郷遺跡、砂押遺跡では遺物、遺構の分布が確認された。
- 4 白石城跡では、近代以降の盛土層が確認され、近世、近代の陶磁器等が出土した。
- 5 白石城三の丸跡では、多数のピット等が確認され、多くの陶磁器、瓦、金属製品が出土した。三の 丸跡の侍屋敷跡に伴うものと考えられる。
- 6 馬牛沼遺跡では、古代〜近世の遺物が発見された。埋没林は年代測定の結果、縄文時代早期、古代 のものと推定される。

#### 引用参考文献

相原淳一ほか 1986 小梁川遺跡遺物包含層土器編 原頭遺跡・養源寺跡・大熊南遺跡 七ヶ宿ダム関連遺跡発掘調査報告書Ⅱ 宮城県文化財調査報告書第 117 集

相原淳一ほか 1988 小梁川遺跡 大梁川遺跡 (石器編) 七ヶ宿ダム関連遺跡発掘調査報告書 IV 宮城県文化財調査報告書第 126 集

相原淳一 2000 「福岡長袋地区の分布調査」『白石市文化財愛護友の会々報』第22号 pp.5-6

我妻健治ほか 1995 『よみがえる白石城』 碧水社

Kaoru Akoshima 2008 \[ \int A\tradition of local history at a small castle town in northeastern Japan,

1968 to 1977 :Nakahashi's legacy and beyond」『蔵王東麓の郷土誌 - 中橋彰吾先生追悼論文集 - 』pp.53-78

石川日出志 2009 「弥生時代・壺再葬墓の終焉」『考古学集刊』第17号 pp.9-20

伊藤玄三 1960 「宮城県青木の弥生式遺跡と出土々器」『東北考古学』1 pp.9-23

氏家和典 1957 「東北土師器の型式分類とその編年」 『歴史』 14 (『東北古代史の基礎的研究』 に再録)

遠藤智、清野俊太朗 1984 梅田遺跡調査報告書 白石市文化財調査報告書第22集

岡田清一ほか 1994 「第三編 中世 第二章 幕府政治の進展と刈田郡」『蔵王町史』通史編 pp.241-259

風間観静ほか 1981 白石・角田道 歴史の道調査報告書 宮城県文化財調査報告書第80集

片倉信光、後藤勝彦、中橋彰吾 1976 『白石市史』別巻 考古資料篇

加藤道男ほか 1984 二屋敷遺跡 東北自動車道遺跡調査報告書区 宮城県文化財調査報告書第99集

神原雄一郎 2009 「盛岡における縄文時代草創期・早期の土器」

『盛岡の縄文時代草創期 ~ 早期の土器文化』資料集 pp.69-178

菊地逸夫 1996 一本杉窯跡群 宮城県文化財調査報告書第 172 集

日下和寿、中橋彰吾ほか 1998 片倉小十郎の城 白石城跡発掘調査報告書 白石市文化財調査報告書第26集

日下和寿、佐藤敏幸 2008 市内遺跡発掘調査報告書Ⅲ 白石市文化財調査報告書第 31 集

日下和寿、櫻井和人ほか 2009 和尚堂遺跡ほか発掘調査報告書 白石市文化財調査報告書第37集

日下和寿、佐藤敏幸 2011 中ノ在家遺跡 白石市文化財調査報告書第39集

後藤勝彦 1984 「宮城県白石市上高野遺跡・保原平遺跡発掘調査報告」

『白石市史』3の(2)特別史下の(1) pp.567-645

坂井秀弥 2008 『古代地域社会の考古学』

佐川正敏、吉岡恭平、相原淳一 2005 「宮城県における土器出現期の現状と課題」『宮城考古学』第7号 pp.27-56

佐久間光平 2004 「宮城県の旧石器遺跡の現状」『宮城考古学』第6号 pp.35-50 佐々木和博、菊地逸夫 1985 「白石市兀山遺跡出土の古瓦」『赤い本 片倉信光氏追悼論文集』pp.55-64 佐々木洋治 1971 『高畠町史』別巻 考古資料編

佐藤敏幸 2011 「白石市内出土の搬入須恵器について」中ノ在家遺跡 白石市文化財調査報告書第39集 pp.4-8

佐藤祐輔 2010 「2009 年の考古学界の動向 弥生時代 東北」『考古学ジャーナル』601 pp.53-56

設楽博巳 2008 『弥生再葬墓と社会』

白石市教育委員会 1990 白石城の絵図・白石城下絵図

白石地域文化研究会 1982 「宮城県白石市下川原子 A 遺跡第 1 次調査報告」『赤い本』創刊号 pp.37-82 菅原祥夫、清野俊太朗、日下和寿 2009 八幡坂遺跡ほか発掘調査報告書 白石市文化財調査報告書第 34 集

芹沢長介 1981 「宮城県のやきもの」『日本やきもの集成』1 北海道 東北 関東 pp.124-128

高橋辰男 1978 「伝説と史実をさぐる - 馬牛館と馬牛沼 -」『山麓文化』創刊号 pp.33-40

千田和文ほか 1987 大館遺跡群 - 大新町遺跡 - 昭和61年度発掘調査概報

千葉直樹 2010 鍛冶沢遺跡ほか 宮城県文化財調査報告書第222集

土岐山武 1982 松田遺跡 仙南・仙塩・広域水道関係遺跡調査報告書Ⅱ 宮城県文化財調査報告書第 88 集

中橋彰吾 1972 白石市郡山横穴古墳群 白石市文化財調査報告書第 11 号

中橋彰吾 1987 「中世城館の規模と構造について」『白石市史』3の(3)特別史下の(2) pp.543-648

中橋彰吾ほか 1979 白石市の文化財 白石市文化財調査報告書第20集

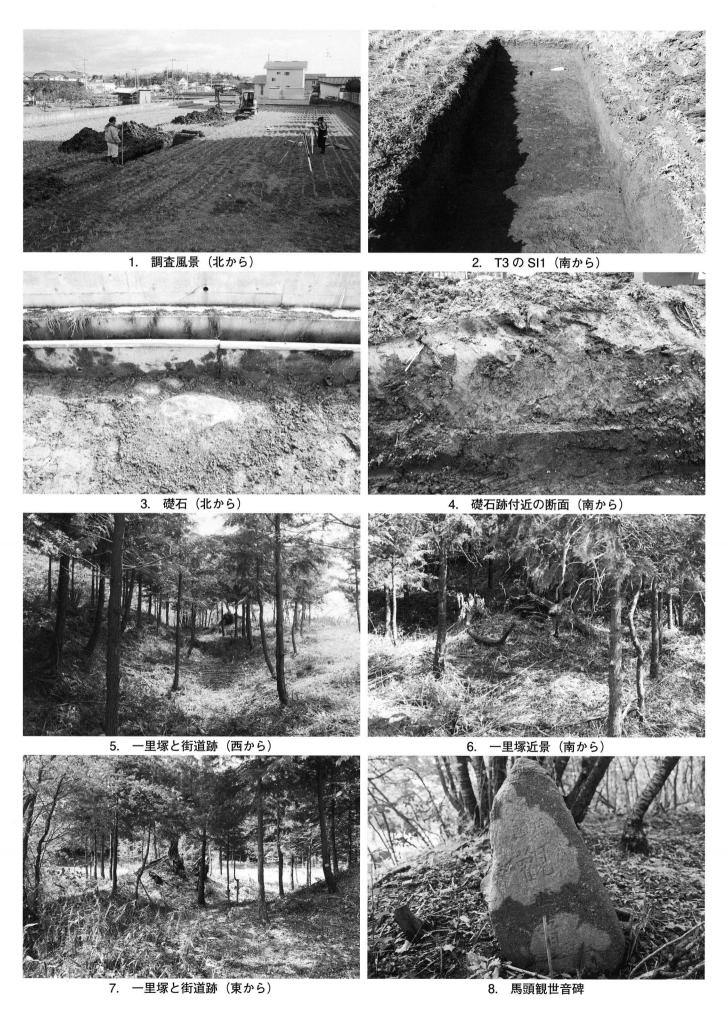
丹羽茂 1982 松田遺跡 東北自動車道遺跡調査報告書™ 宮城県文化財調査報告書第92集

丹羽茂ほか 1982 菅生田遺跡 東北自動車道遺跡調査報告書Ⅲ 宮城県文化財調査報告書第92集

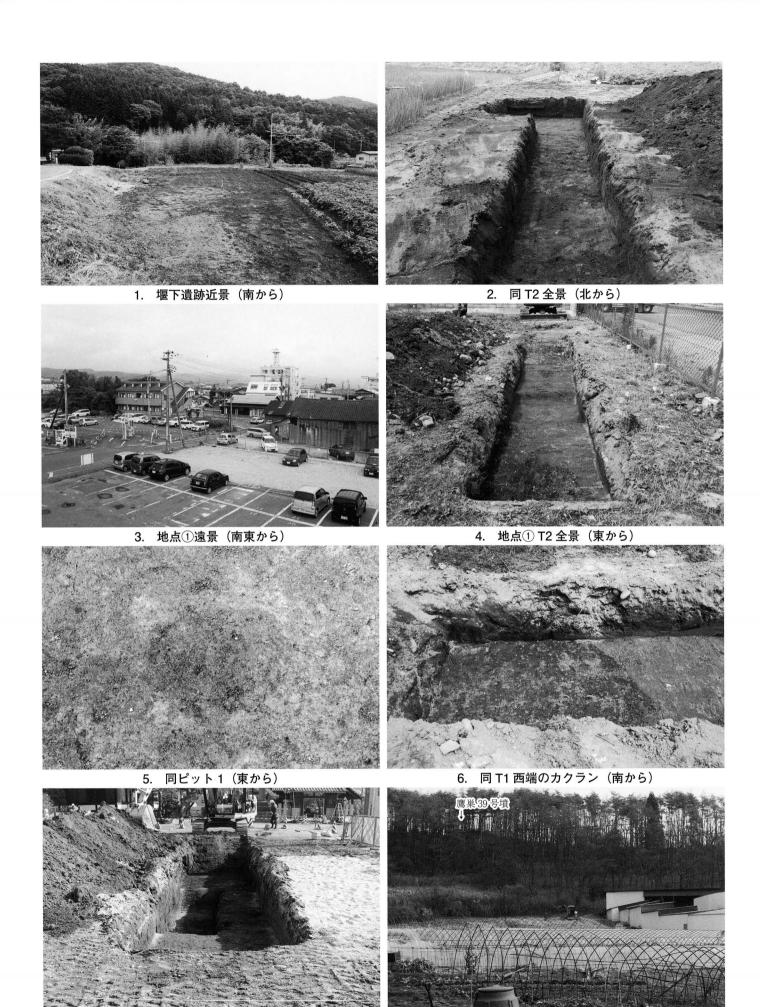
東影悠 2009 「東北地方における須恵器系埴輪の展開」『宮城考古学』第11号 pp.127-139

藤沼邦彦 2010 「陸奥国 (宮城県)」『古陶の譜 中世のやきもの』 pp.280-289

真山悟ほか 1985 小梁川東遺跡 七ヶ宿ダム関連遺跡発掘調査報告書 I 宮城県文化財調査報告書第 107 集村田晃一 1987 小梁川遺跡 七ヶ宿ダム関連遺跡発掘調査報告書Ⅲ 宮城県文化財調査報告書第 122 集



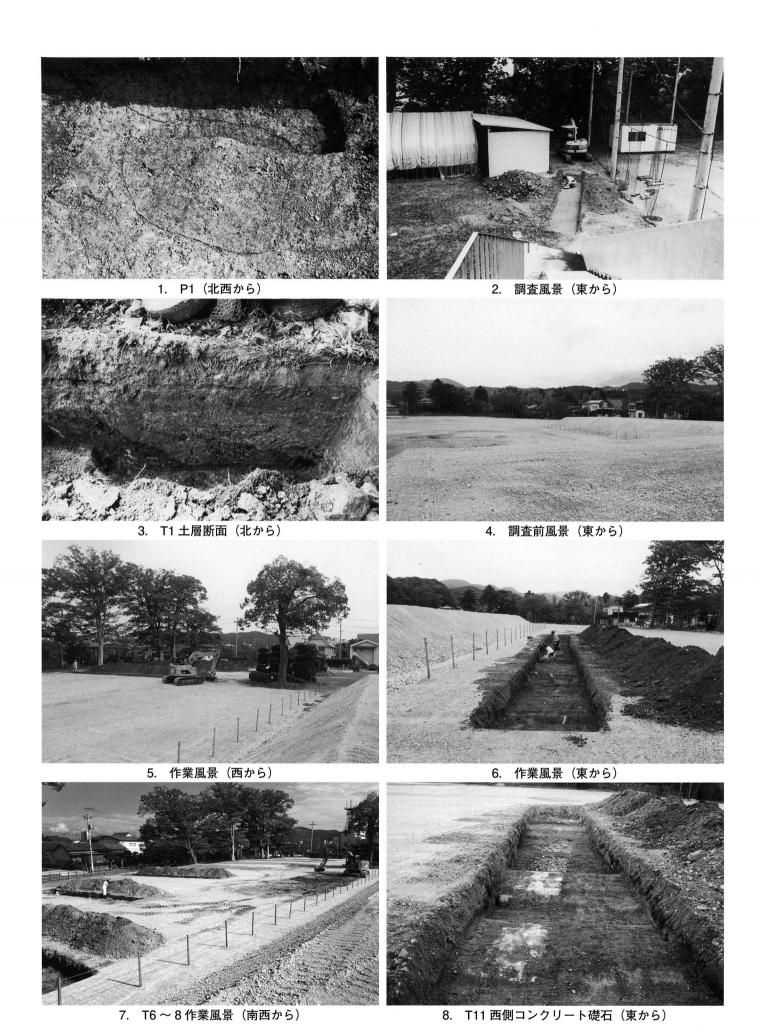
写真図版 1 大畑遺跡 (1~4)、矢ノロ一里壇 (5~8)



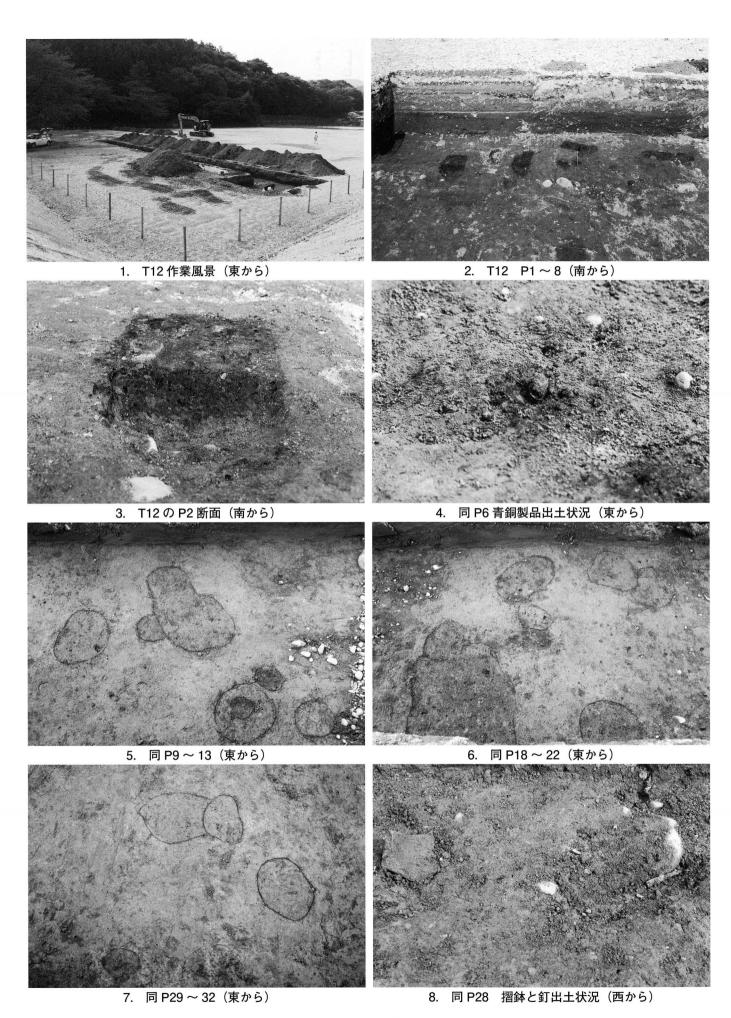
写真図版 2 堰下遺跡 (1、2)、本郷遺跡地点① (3~6)、同地点② (7)、砂押遺跡 (8)

7. 地点②トレンチ全景 (西から)

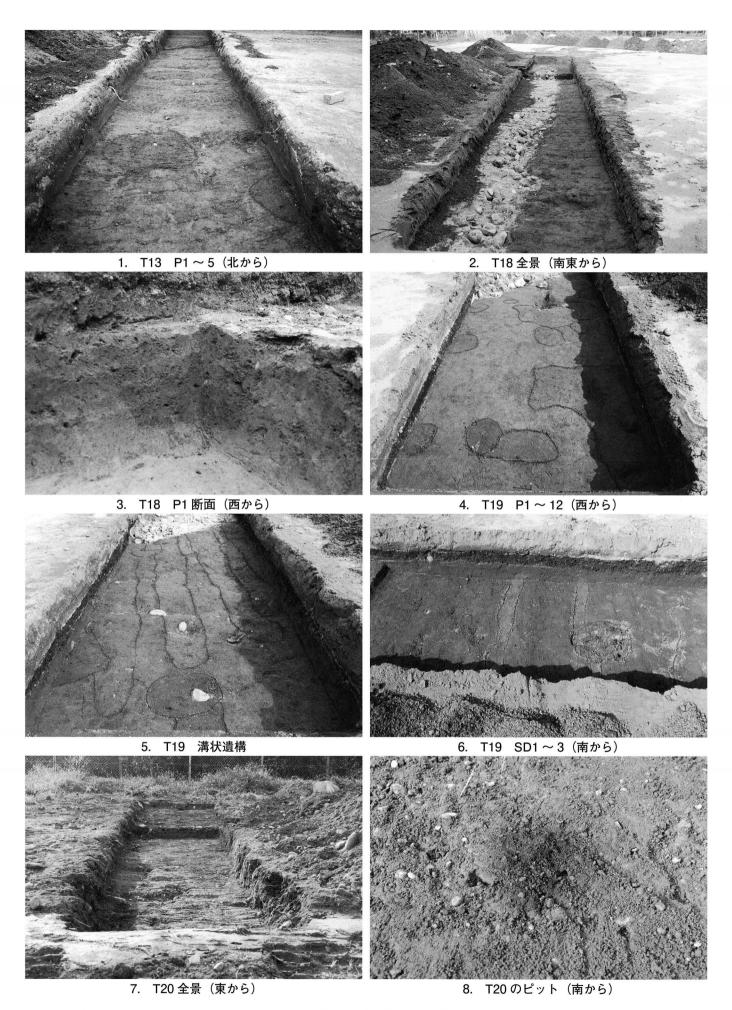
8. 砂押遺跡遠景(南から)



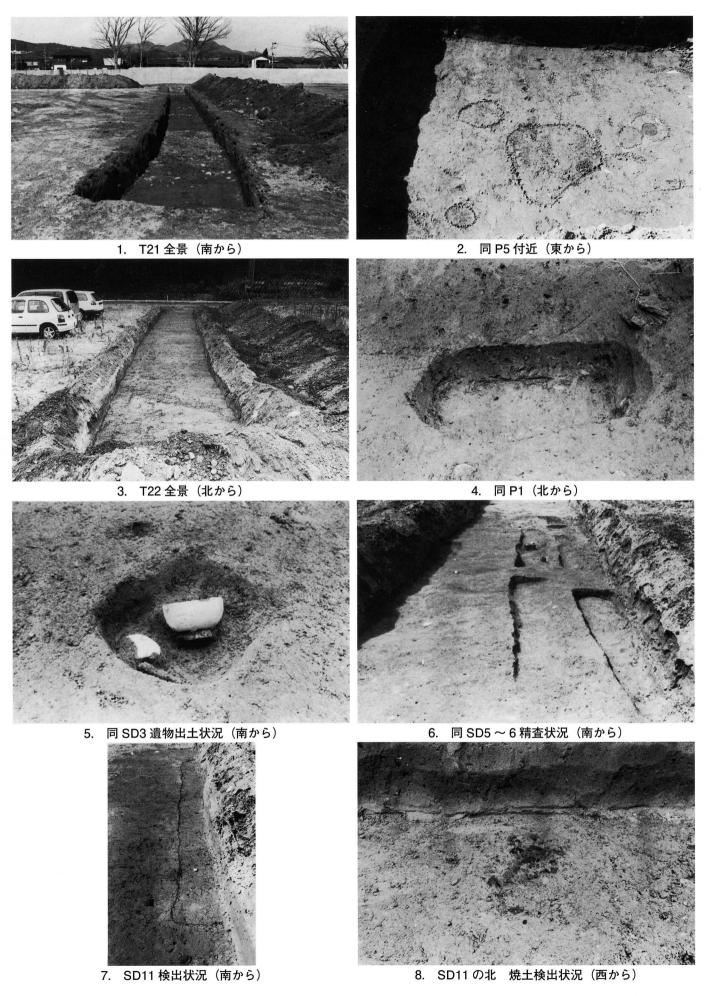
写真図版 3 砂押遺跡 (1)、白石城跡 (2、3)、白石城三の丸跡 (4~8)



写真図版 4 白石城三の丸跡



写真図版 5 白石城三の丸跡



写真図版 6 白石城三の丸跡



1. 大畑遺跡旧状(西から)

2. 同(西から)



3. 同(北から)

同(北から)



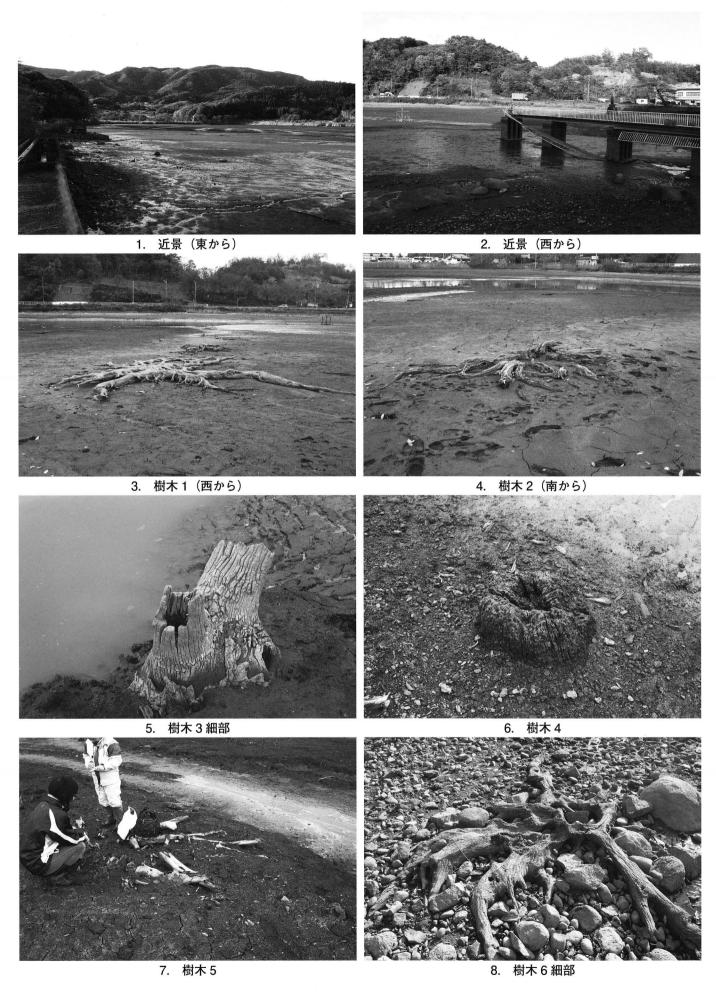
調査トレンチ T2(西から)



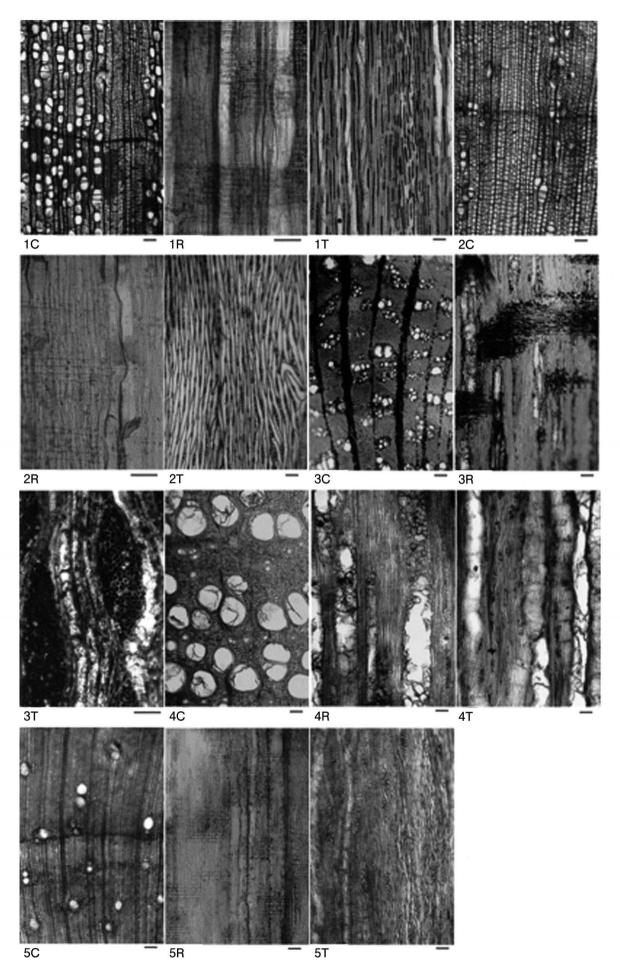


7. 調査トレンチ T4 (南から)

写真図版7 大畑遺跡



写真図版 8 馬牛沼遺跡



写真図版 9 馬牛沼埋没樹の顕微鏡写真

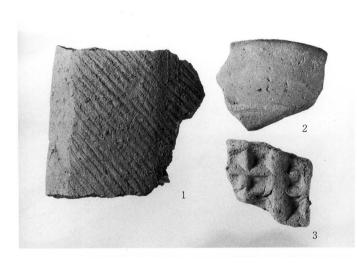
1-2.ハンノキ属ハンノキ節(1:幹材(樹木4),2:根材(樹木5)) 3.ケヤキ根材(樹木1) 4-5.トネリコ属(4:幹材(樹木3),5:根材(樹木2)) C:横断面R:放射断面T:接線断面、スケール=0.1mm



1. 大畑遺跡出土 高杯



2. 大畑遺跡出土 高杯



3. 大畑遺跡出土 瓦、土師器



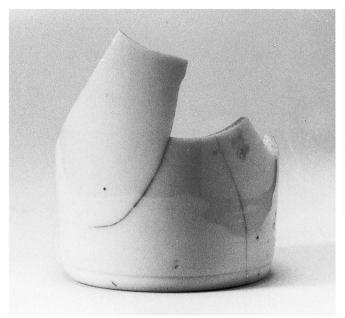
4. 大畑遺跡出土 瓦凹面



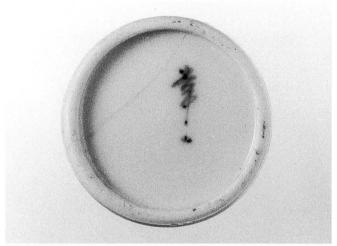
5. 砂押遺跡出土 銭貨



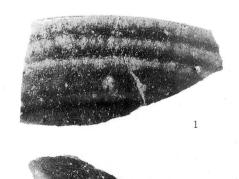
6. 白石城跡出土 かわらけ



1. 白石城跡出土 爛徳利



2. 同 底面



2

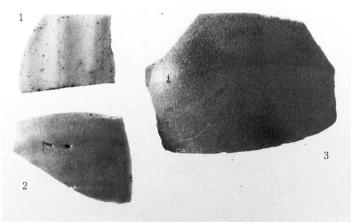
5. 白石城三の丸跡出土陶器



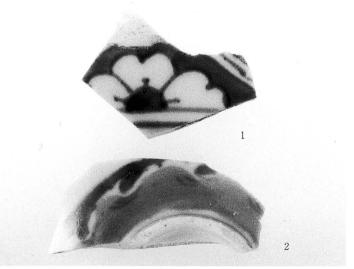
3. 白石城三の丸跡出土 呉器手碗



4. 白石城跡出土 小柄



6. 白石城跡出土 陶磁器



7. 白石城跡出土 磁器

写真図版 11 出土遺物 (2)



1. 白石城三の丸跡出土 青磁(外面)



2. 同左(内面)



3. 白石城三の丸跡出土 石製鉢(外面)



4. 同左 (内面)



5. 白石城三の丸跡出土 丸瓦(外面)



6. 同左(内面)

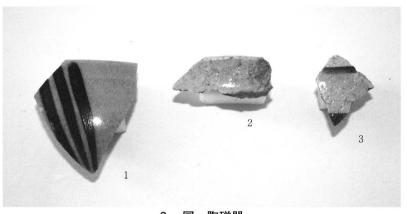
写真図版 12 出土遺物 (3)



1. 白石城三の丸跡出土 磁器



2. 同 磁器



3. 同 陶磁器



4. 同 織部 (外面)



5. 同 小杯 (側面)



6. 同上 (内面)



7. 同 小杯 (上から)

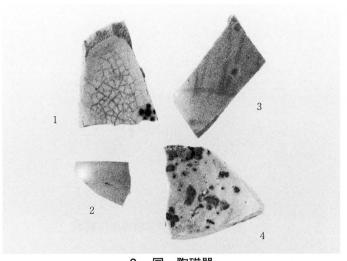


8. 鬼瓦片

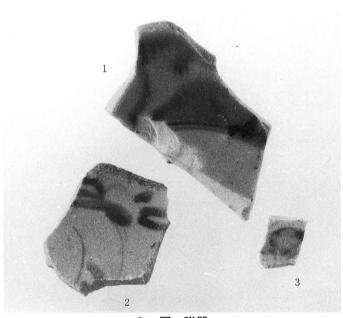
写真図版 13 出土遺物 (4)



1. 白石城三の丸跡出土 陶器



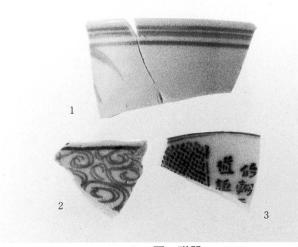
2. 同 陶磁器



3. 同 磁器



4. 同 3-1 の外面



5. 同 磁器



6. 同 青銅製品



7. 同 長方形の容器

写真図版 14 出土遺物 (5)



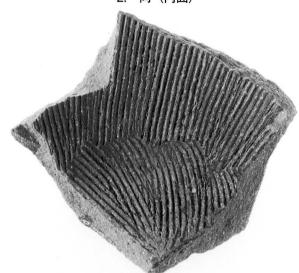
1. 白石城三の丸跡出土 軒丸瓦(外面)



2. 同(内面)



3. 同 摺鉢(外面)



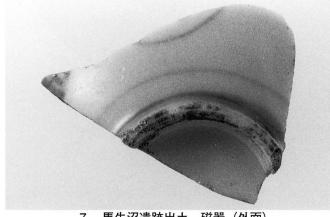
4. 同(内面)



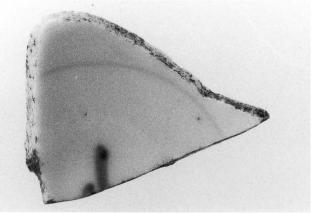
5. 同 摺鉢(外面)



6. 同(内面)

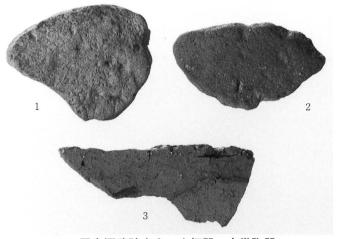


7. 馬牛沼遺跡出土 磁器 (外面)

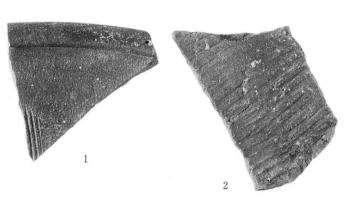


8. 同(内面)

写真図版 15 出土遺物 (6)



1. 馬牛沼遺跡出土 土師器、中世陶器



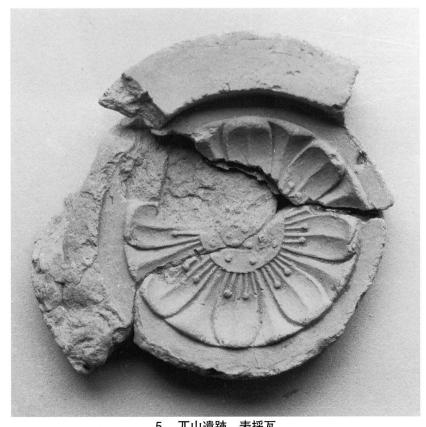
2. 同 摺鉢、須恵器



3. 同 摺鉢



4. 同 石核、剥片

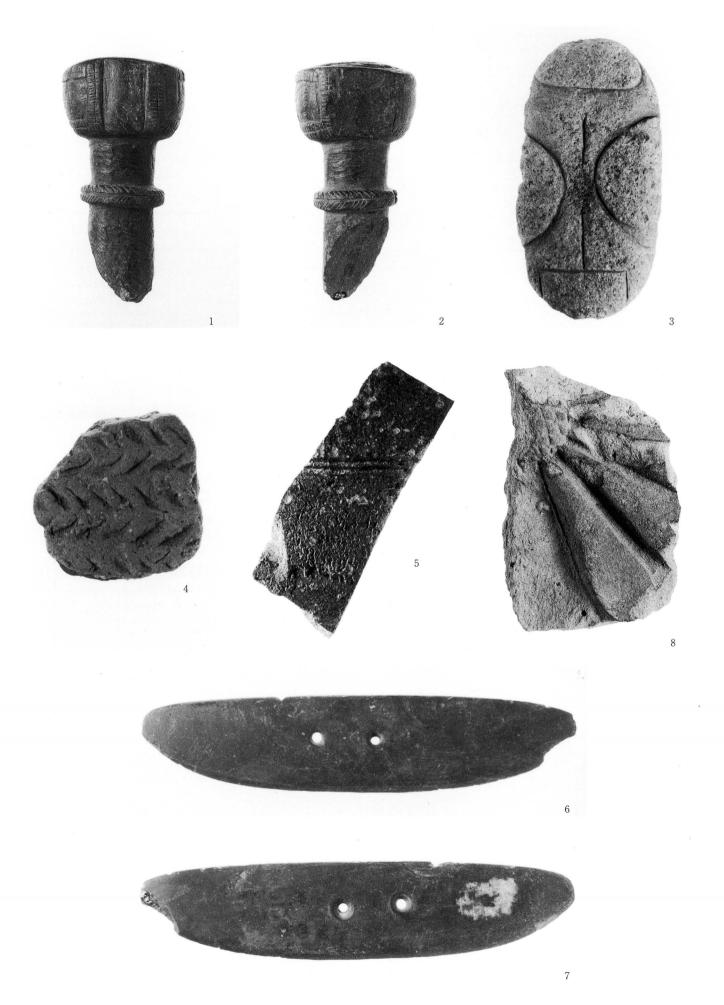


5. 兀山遺跡 表採瓦



6. 兀山遺跡 表採瓦

写真図版 16 出土遺物 (7)、関連遺物 (1)



写真図版 17 関連遺物 (2)

# 報告書抄録

\$ n	がな	1 * 1 1 1 1	+1+-10	ナルスタぼ	<b>ステノ1 トフ</b>	. ,				
ま り 書	か 名	しないいせきはっくつちょうさほうこくしょろく 市内遺跡発掘調査報告書6								
<u></u> 副 書	名									
	巻 次									
シリー	ズ名	白石市文化	財調査報告	書						
シリーフ		第41集	W1 1 1 1 1 1 1 1	I-cl						
	<del></del> 者 名		朱式会社加速		所、古代の柔		純子)			
所 在 地 〒989-0206 宮城県白石市字寺屋敷前25番地6 TEL:0224(22)1343										
発 行 年 月 日 西暦2011年11月30日										
ふりがな	ふり		コー	•	北緯	東 経	調査期間	発掘調査面積	調査原因	
所収遺跡名	•	E 地	市町村	遺跡番号	0///	0/ //		m²	門且水西	
大"畑"遺"跡	白石市字東力	<b>大畑88</b>	04206	02262	38° 00′ 31″	140° 37′ 42″	20100308~ 20100413	24.24	宅地造成	
ゃのくちいちりだん 矢ノロー里壇	しろいししままたかき 白石市大鷹》 まざゃのくち 字矢ノ口	代大町	04206	02447	37° 58′ 55″	140° 41′ 08″	20100517~ 20100527	624.00	埋蔵文化財 の有無確認	
せきしたぃせき 堰 下 遺 跡	しるいしょくまかま 白石市福岡河 5-1ほか	かやあざせきした 架谷字関下	04206	02081	38° 02′ 48″	140° 37′ 50″	20100618	45.45	個人住宅 建設	
白石城跡	白石市益岡田	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	04206	02197	38° 00′ 04″	140° 36′ 56″	20100706~ 20101111	12.48	連絡通路 建設	
しろいしじょうさんのまるあと 白石城三の丸跡	白石市沢端田	[77-5]	04206	02448	38° 00′ 15″	140° 36′ 58″	20101012~ 20110722	858.79	グランド 整備工事	
本郷遺跡	白石市字堂場前32番3、 32番4の一部ほか		04206	02121	38° 00′ 14″	140° 37′ 31″	20100820	16.92	個人住宅 建設	
本郷遺跡	しろいししあぎやなぎまち 白石市字柳町16		04206	02121	38° 00′ 00″	140° 37′ 23″	20110207	19.00	園舎建設	
砂押遺跡	しるいししままたから 白石市大鷹? がき 道152	とかまおまちあざさの日大町字佐野	04206	02397	37° 59′ 25″	140° 39′ 15″	20100318~ 20100517	35.04	範囲確認	
馬牛沼遺跡	白石市斎川		04206	02449	37° 56′ 53″	140° 36′ 29″	20101122~ 20101129	0.00	埋蔵文化財 の有無確認	
所収遺跡名	種別	主な時代	主な	遺構	主な遺物			特記事項		
大畑遺跡	散布地 官衙	古代	礎石延 竪穴住		士師器	、須恵器	官衙中心域の-	一部が確認さ	れた。	
矢ノ口一里壇	塚	近世	1	<b>里塚</b>	なし		ー里塚1基が確認された。市内で現存す る唯一の一里塚である。			
堰下遺跡	散布地	縄文	ピッ 風倒		縄文土器、剥片		遺物散布が確認された。			
白 石 城 跡	城館	近世、近代	整地	也層	陶磁器、金属製品		近代以降の整地層が確認された。			
白石城三の丸跡	城館	近世、近代	ピット	、溝跡	陶磁器、	金属製品	三の丸跡に遺構	三の丸跡に遺構の拡がりが確認された。		
本 郷 遺 跡	散布地	古代、近世	ピッ	y	士師器、陶磁器		遺物散布が確認された。			
本 郷 遺 跡	散布地	古代、近世	な		士師器、陶磁器		遺物散布が確認された。			
砂押遺跡	散布地	古代	ピッ	ット	銭貨(寛永通宝)		遺構の拡がりが確認された。			
馬牛沼遺跡	散布地	古代~近世	古代~近世   埋没林			士師器、須恵器				
大畑遺跡では、礎石建物の一部、竪穴住居跡が確認され、士師器、須恵器が出土した。矢ノ口一里壇では、一里塚1 街道跡が確認された。堰下遺跡では、縄文土器、剥片が出土し、時期不明のピット1基、風倒木1基が発見された。							られた。 			
自石城跡では、近代以降の盛土が確認された。白石城三の丸跡では、多数のピット、溝状要 約 瓦片、金属製品が出土した。紅状のものが付着した陶磁器も出土している。						ピット、溝状遺植	<b>帯が確認され</b>	た。陶磁器、		
本郷遺跡では、士師器が出土し、時期不明のピットが1基発見された。遺跡範囲が広範囲に広がっていることが判した。砂押遺跡では、ピットが確認された。馬牛沼遺跡では、古代と縄文時代に遡る埋没林と士師器、須恵器、中近陶磁器が発見された。										

## 白石市文化財調查報告書 第41集

# 市内遺跡発掘調査報告書6

平成23年11月30日印刷 平成23年11月30日発行

編集·発行 白石市教育委員会

〒989-0206 宮城県白石市字寺屋敷前25番地6

電話:0224(22)1343

印 刷 株式会社佐々木印刷所

〒983-0035 宮城県仙台市宮城野区日の出町2丁目2番16号

電話:022(236)1281

